

石川県羽咋郡志雄町

# 荻市遺跡

一般国道159号荻市歩道設置工事に係る発掘調査報告書

1998

社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会



石川県羽咋郡志雄町

# 荻市遺跡

一般国道159号荻市歩道設置工事に係る発掘調査報告書

社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会





(1) 下層完掘状況（北東から）



(2) 下層1号井戸土層（北西から）



285



287



291



298



299

## 例 言

- 1 本書は石川県羽咋郡志雄町荻市地内に所在する荻市遺跡の緊急発掘調査報告である。
- 2 発掘調査は、建設省北陸地方建設局が施工する一般国道159号線荻市歩道設置工事に係るもので、建設省から委託を受けた石川県との委託契約にもとづき、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会が実施した。調査および報告書刊行にかかる費用は建設省が負担した。
- 3 調査は、川畑誠・沢辺利明を担当者とし、平成6年8月18日～同年10月1日にかけて実施した。調査面積は約400㎡である。
- 4 調査の実施にあたっては、建設省金沢工事事務所、石川県教育委員会文化財課、志雄町教育委員会のご協力をいただいた。深く感謝の意を表したい。
- 5 整理作業は平成7・8年度に調査課資料第1係で実施した。担当者は以下のとおりである。また出土木製品の樹種鑑定作業・保存処理加工作業を株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。  
岡本外代子、小間博文、船木靖子、高崎乃布英、山崎直子、北 香織、鬼頭 圭、吉岡亜由美、明田奈々、朝倉佳子、吉田智美
- 6 本書の編集は川畑がおこない、以下のとおり分担執筆した。

第1章、第2章第2節、第3章第3節1～4、	沢辺
第5章第1節	
第2章第1節	湯尻修平（県教育委員会文化財課）
第3章第1・2節、第3節5・6、第5章第2・3節	川畑
第4章	汐見 真(株式会社吉田生物研究所) 岡田文夫(京都造形芸術大学)
- 7 本書の挿図中における方位は真北を示しており、水平水準は海拔高である。
- 8 本書作成の過程において次の方々のご指導・ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。  
木立雅朗、熊谷葉月、出越茂和、端 猛、浜崎悟司、久田正弘、藤田邦雄、若本起世子  
(五十音順敬称略)
- 9 発掘調査で得られた出土遺物などの資料は、財団法人石川県埋蔵文化財センターに保管される予定である。





# 目 次

第1章 位置と環境 .....	1
第1節 地理的環境 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	1
第2章 調査に至る経緯と経過 .....	4
第1節 調査に至る経緯 .....	4
第2節 調査の経過 .....	5
第3章 遺構と遺物 .....	7
第1節 調査の概要 .....	7
第2節 遺構 .....	9
第3節 遺物 .....	17
1. 縄文土器 .....	17
2. 弥生土器・土師器 .....	17
3. 石器類 .....	37
4. 箆 .....	37
5. 木製品 .....	38
6. 古代以降の遺物 .....	60
第4章 出土木製品の樹種鑑定調査 .....	81
第5章 まとめ .....	91
第1節 下層遺構出土土器 .....	91
第2節 下層遺構出土木製品 .....	97
第3節 上層遺構 .....	98

## 図 版 目 次

- 巻頭図版 1 遺構 (1)下層完掘状況(北東から) (2)下層 1 号井戸土層(北西から)
- 巻頭図版 2 下層出土木製品
- 図版 1 調査区遠景 (1)調査区遠景(南西から) (2)調査区遠景(北東から)
- 図版 2 調査区全景 (1)調査区全景 (2)調査区全景(北東から)
- 図版 3 遺構 1 (1)下層北半完掘状況 (2)下層南半完掘状況
- 図版 4 遺構 2 (1)下層大溝完掘状況(南西から) (2)下層大溝完掘状況(北東から)
- 図版 5 遺構 3 (1)下層大溝完掘状況(南西から) (2)下層大溝 0～2 区完掘状況(西から)
- 図版 6 遺構 4 (1)下層大溝 0～1 区完掘状況(西から) (2)下層大溝 0～1 区作業風景(北東から)
- 図版 7 遺構 5 (1)下層大溝 a－a'ライン土層(北から) (2)下層大溝 a－a'ライン縄文土器出土状況(東から)
- 図版 8 遺構 6 (1)下層大溝 b－b'ライン土層(南西から) (2)下層大溝 c－c'ライン土層(南西から)
- 図版 9 遺構 7 (1)下層大溝掘り下げ作業風景(南西から) (2)下層大溝25m付近 2 層遺物出土状況(西から)  
(3)下層大溝23m付近 3 層木製品出土状況(南西から)
- 図版 10 遺構 8 (1)下層大溝 3 層組み合わせ鋤出土状況(北東から) (2)下層大溝 3 層桶蓋出土状況(南西から)  
(3)下層大溝 3 層器台出土状況(北東から)
- 図版 11 遺構 9 (1)下層大溝 3 層刀形木製品出土状況(南東から) (2)下層大溝 3 層栓出土状況(南東から)  
(3)下層大溝 3 層木製品出土状況(北東から)
- 図版 12 遺構 10 (1)下層 1 号井戸周辺検出状況 (2)下層 1 号井戸半掘状況
- 図版 13 遺構 11 (1)下層 1 号井戸土層(北西から)(2)下層 1 号井戸半掘状況(南東から)
- 図版 14 遺構 12 (1)上層完掘状況(南西から) (2)上層完掘状況(北東から)
- 図版 15 遺構 13 (1)上層 4～6 区完掘状況(北東から) (2)上層 6 区瓦出土状況(北西から)  
(3)ベース土下試掘調査風景(南から)
- 図版 16 下層出土遺物 1
- 図版 17 下層出土遺物 2
- 図版 18 下層出土遺物 3
- 図版 19 下層出土遺物 4
- 図版 20 下層出土遺物 5
- 図版 21 下層出土遺物 6
- 図版 22 下層出土遺物 7
- 図版 23 下層出土遺物 8
- 図版 24 下層出土遺物 9
- 図版 25 下層出土遺物 10
- 図版 26 下層出土遺物 11
- 図版 27 下層出土遺物 12
- 図版 28 下層出土遺物 13
- 図版 29 下層出土遺物 14
- 図版 30 下層出土遺物 15・上層出土遺物 1
- 図版 31 上層出土遺物 2

## 挿 図 目 次

第1図	周辺の遺跡(S=1/25,000)	2
第2図	調査区の位置(S=1/1,000)	7
第3図	調査区の区割(S=1/500)	8
第4図	調査区西壁土層柱状図(S=1/40)	8
第5図	下層遺構全体図(S=1/100)	10
第6図	下層大溝土層断面図(S=1/40)	11
第7図	下層大溝木製品出土状況1(S=1/60)	12
第8図	下層大溝木製品出土状況2(S=1/60)	13
第9図	下層遺構実測図(S=1/20、1/40)	14
第10図	縄文土器出土状況(S=1/20)	14
第11図	上層遺構全体図(S=1/100)	15
第12図	上層遺構実測図(S=1/60)	16
第13図	縄文土器(S=1/3)	18
第14図	下層大溝出土土器1(S=1/3)	21
第15図	下層大溝出土土器2(S=1/3)	22
第16図	下層大溝出土土器3(S=1/3)	23
第17図	下層大溝出土土器4(S=1/3)	26
第18図	下層大溝出土土器5(S=1/3)	27
第19図	下層大溝出土土器6(S=1/3)	28
第20図	下層大溝出土土器7(S=1/3)	29
第21図	下層大溝出土土器8(S=1/3)	30
第22図	下層大溝出土土器9(S=1/3)	31
第23図	下層大溝出土土器10(S=1/3)	32
第24図	下層大溝出土土器11(S=1/3)	33
第25図	下層大溝出土土器12(S=1/3)	34
第26図	下層大溝出土土器13(S=1/3)	35
第27図	下層大溝出土土器14・石器(S=1/3)	36
第28図	下層大溝出土石器他(S=1/2)	37
第29図	下層大溝出土木製品1(S=1/4)	40
第30図	下層大溝出土木製品2(S=1/4)	41
第31図	下層大溝出土木製品3(S=1/4)	42
第32図	下層大溝出土木製品4(S=1/6、1/2)	43
第33図	下層大溝出土木製品5(S=1/4)	45
第34図	下層大溝出土木製品6(S=1/4)	47
第35図	下層大溝出土木製品7(S=1/6)	48
第36図	下層大溝出土木製品8(S=1/6)	49
第37図	下層大溝出土木製品9(S=1/4)	50
第38図	下層大溝出土木製品10(S=1/4)	51

第39図	下層大溝出土木製品11(S=1/3、1/12)	52
第40図	下層大溝出土木製品12(S=1/4)	54
第41図	下層大溝出土木製品13(S=1/4)	55
第42図	下層大溝出土木製品14(S=1/6)	56
第43図	下層大溝出土木製品15(S=1/6)	57
第44図	下層大溝出土木製品16(S=1/8、1/4)	58
第45図	下層大溝出土木製品17(S=1/4)	59
第46図	下層井戸側材(S=1/6)	60
第47図	上層出土遺物1(S=1/3)	61
第48図	上層出土遺物2(S=1/3)	62
第49図	上層出土遺物3(S=1/3)	64
第50図	上層出土遺物4(S=1/3)	65
第51図	甕形土器の分類	91
第52図	壺形土器の分類	92
第53図	底部、脚台の分類	93
第54図	高坏形土器の分類	94
第55図	器台形土器の分類	95
第56図	鉢形土器、蓋形土器、有孔鉢の分類	96
第57図	北陸の白鳳時代平瓦の系譜	99

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡	3
第2表	下層出土遺物観察表1	67
第3表	下層出土遺物観察表2	68
第4表	下層出土遺物観察表3	69
第5表	下層出土遺物観察表4	70
第6表	下層出土遺物観察表5	71
第7表	下層出土遺物観察表6	72
第8表	下層出土遺物観察表7	73
第9表	下層出土遺物観察表8	74
第10表	下層出土遺物観察表9	75
第11表	下層出土遺物観察表10	76
第12表	下層出土遺物観察表11	77
第13表	下層出土遺物観察表12	78
第14表	上層出土遺物観察表1	79
第15表	上層出土遺物観察表2	80
第16表	上層出土遺物観察表3	80
第17表	下層出土木製品樹種一覧表	97

# 第1章 遺跡の位置と環境

## 第1節 地理的環境

荻市遺跡は石川県羽咋郡志雄町荻市に所在する。志雄町は日本海に突出する能登半島の基部に位置し、その地勢は西から、日本海に面した羽咋砂丘、邑知地溝帯内の沖積低地、石動山系・宝達山系から続く丘陵地帯に分けられる。本町の中央部を流れる子浦川は、丘陵地帯から流下する中・小河川を集め西流し平地にいたり、砂丘内側に沿って北に流れをかえる。邑知地溝帯は町の南西部で砂丘と丘陵の間に終息するが、遺跡はこの子浦川左岸、地溝帯南西端にあつて、丘陵裾から低地帯にかけてひろがる。調査地は低地帯にあたり現在の水田面で標高11m前後、下層の弥生時代後期では遺構検出面高約10.5mを測る。

## 第2節 歴史的環境

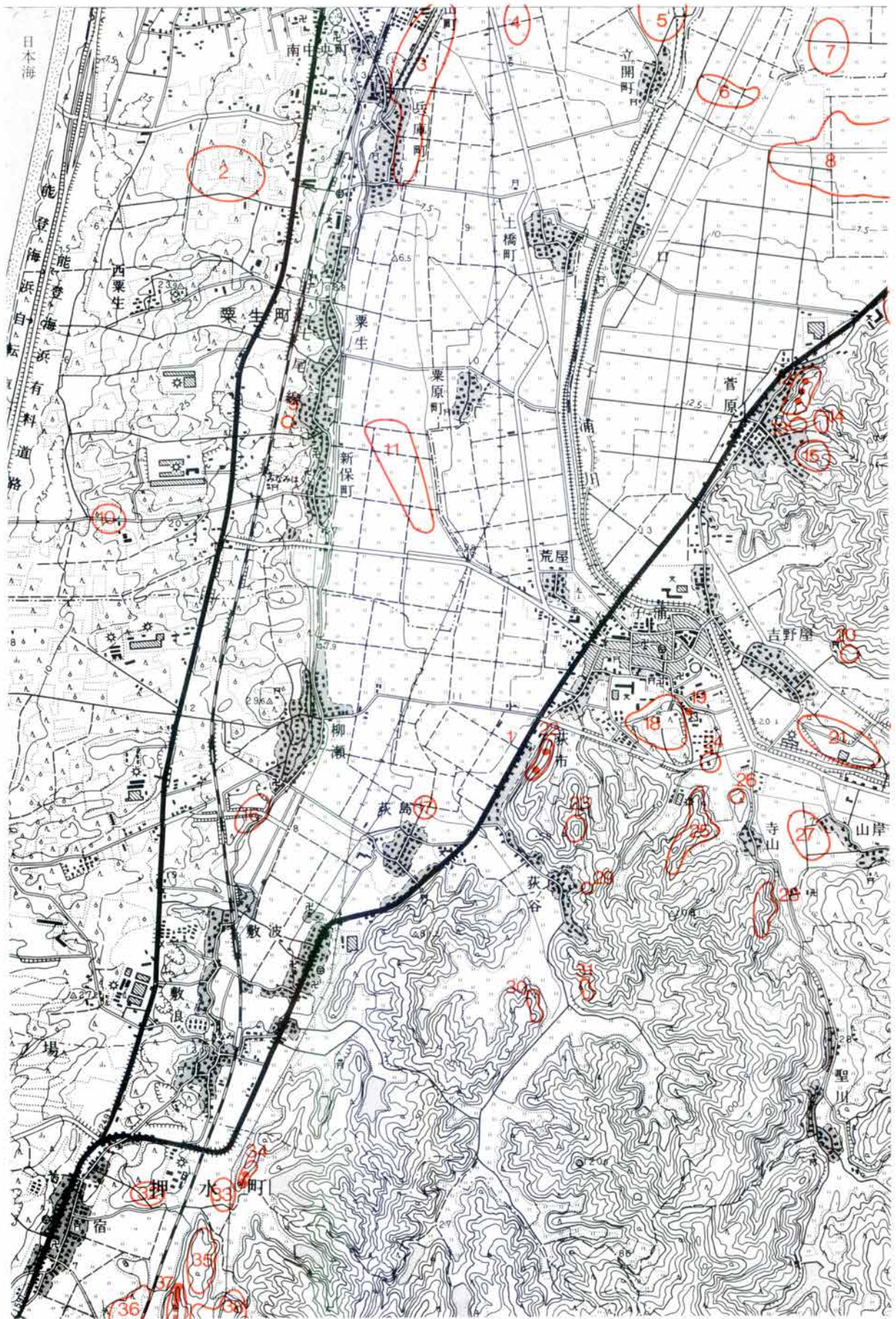
志雄町では、現在のところ旧石器時代の遺跡は未確認であるが、周辺の押水町竹生野遺跡・宿向山遺跡(36)でナイフ型石器などが確認されており、今後本町周辺の丘陵部などでも旧石器時代の遺跡が発見される可能性は高い。本町における人跡の最古は、本遺跡の南西約1kmの平地部に位置する荻島遺跡(17)であり、縄文時代前期中葉の遺跡として著名である。中期では向瀬ニザンサノマエ遺跡、吉野屋農場遺跡(21)、新宮シバタン遺跡、下石カグラ遺跡などが子浦川にのぞむ丘陵の先端に営まれる。縄文晩期には散田小学校前遺跡、散田フルミヤ遺跡など低地帯にも遺跡が認められる。弥生時代の遺跡としては、国指定史跡・吉崎・次場遺跡が荻市遺跡の北方約9kmに位置している。中期には荻島遺跡、二口かみあれた遺跡(6)、杉野屋ろくばわり遺跡(8)が、後期には邑知潟に面した平地部に杉野屋遺跡、子浦川遺跡、長者川遺跡(3)、深江遺跡などが現れる。低湿な地溝帯内に精神的に進出していったことの反映であろうか。ただ、これらは古墳時代初めにはそのほとんどが廃絶している。古墳時代に入ると地溝帯周辺では、眉丈山頂に鹿西町雨の宮1号墳が、対岸の麓に鹿島町親王塚古墳が築かれ、5世紀代には羽咋砂丘部の柴垣・滝・柳田などに新たに古墳が築かれる。志雄町においては6世紀初め頃の子浦小蓮花山古墳(19)、新宮オハエ古墳が初現として知られ、ともに箱形石棺をもつ径10m前後の円墳と考えられている。6世紀中頃には横穴式石室をもつ散田金谷古墳をはじめとする古墳群が子浦川流域の丘陵部に築かれる。古墳群の存在する子浦川沿いは越中から羽咋へ向かう「之乎路」に面し、要衝としての位置付けがうかがえる。本遺跡背後の丘陵上には荻市古墳群(22)が存在する。また、6世紀後半から7世紀中頃の間には作られた横穴が、菅原横穴群(14)、志雄小谷屋横穴群(25)、聖川寺山横穴群(28)、荻谷おやのやかた横穴(29)、荻谷二ツ前横穴群(30)、荻谷上谷内横穴群(31)ほか、町内には100基以上存在するとみられ、加賀市、珠洲市とともに県内でも横穴の集中する地域として注目される。奈良・平安時代の遺跡としては山岸遺跡(27)、志雄旧瓦場遺跡(26)、杉野屋ろくばわり遺跡がある。吉崎・次場遺跡でも該期の遺構・遺物が認められる。また、近年調査された杉野屋専光寺遺跡では80点をこえる墨書土器が確認されている。

### 参考・引用文献

石川県教育委員会 1992『石川県遺跡地図』

志雄町教育委員会 1988『杉野屋ロクバワリ遺跡』

〃 1995『二口かみあれた遺跡』



第1図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	現 状	立 地	時 代	備 考
1		萩市遺跡	志雄町萩市	集落跡	田・宅地	平地	縄文～中世	
2	07004	千里浜遺跡	羽咋市千里浜町・兵庫町	散布地	畑	砂丘	弥生～中世	
3	07005	長者川遺跡	羽咋市兵庫町・御坊山町	散布地	田・宅地	平地	縄文～中世	1997年県埋文センター、98・99年市教委発掘。
4	07006	柳橋遺跡	羽咋市柳橋町	散布地	田	平地	不詳	
5	07007	子浦川南遺跡	羽咋市立開町・石野町	散布地	田	平地	古墳	
6	28036	二口かみあれた遺跡	志賀町二口	集落跡	田	平地	弥生～平安	1991、92年町教委発掘調査。
7	07023	太田ツツミダ遺跡	羽咋市太田町	散布地	田	平地	平安～中世	1996年市教委発掘調査。
8	28037	杉野屋ろくばわり遺跡	志雄町杉野屋	散布地	河床・田	平地	弥生、奈良・平安	1974、86年発掘調査。
9	67002	粟生遺跡	羽咋市粟生町	散布地	宅地	砂丘	古墳	
10	07001	新保センボン遺跡	羽咋市新保町	散布地	畑	砂丘	古墳	1996、97年市教委発掘調査。
11	07003	新保遺跡	羽咋市新保町・粟生町	散布地	田・畑	平地	不詳	
12	28041	菅原古墳群	志雄町菅原	古墳	山林	丘陵	古墳	円墳3基以上。
13	28043	国田館跡	志雄町菅原	館跡	山林	丘陵端	不詳	
14	28042	菅原横穴群	志雄町菅原	横穴跡	山林	丘陵端	古墳	3基確認。
15	28044	菅原館跡	志雄町菅原	館跡	山林	丘陵端	安土桃山	
16	28003	柳瀬シロク山遺跡	志雄町柳瀬	散布地	荒地・山林	丘陵	古墳	一部損壊。
17	28004	萩島遺跡	志雄町萩島	散布地	畑	砂丘	縄文～平安	
18	28010	子浦蓮華山遺跡	志雄町子浦	散布地	山林・畑	台地	縄文～中世	
19	28011	子浦小蓮華山古墳	志雄町子浦	古墳	畑	台地	古墳	箱形石棺か。墳丘削平。
20	28045	吉野屋むかい山遺跡	志雄町萩市	散布地	田	台地	奈良・平安	
21	28046	吉野屋農場遺跡	志雄町吉野屋	散布地	畑	台地	縄文	
22	28005	萩市古墳群	志雄町萩市	古墳	山林	丘陵	古墳	円墳2基。
23	28009	三目城跡	志雄町萩市	城跡	山林	丘陵	不詳	
24	28012	子浦小蓮華遺跡	志雄町子浦	散布地	宅地	台地	縄文	
25	28013	子浦小谷屋横穴群	志雄町子浦	横穴墓	山林	丘陵	古墳	17基確認。総数30基以上か。1974年発掘調査。
26	28014	子浦旧瓦場遺跡	志雄町子浦	散布地	田	平地	奈良・平安	軒丸瓦出土。
27	28016	山岸遺跡	志雄町山岸	散布地	田	平地	奈良・平安	損壊。
28	28015	聖川寺山横穴群	志雄町聖川寺山	横穴墓	山林	丘陵	古墳	25基確認。総数30基以上か。
29	28008	萩谷おやのやかた横穴	志雄町萩谷	横穴墓	山林	丘陵	古墳	
30	28007	萩谷ニツ前横穴群	志雄町萩谷上萩谷	横穴墓	山林	丘陵	古墳	4基確認。
31	28006	萩谷上谷内横穴群	志雄町萩谷	横穴墓	山林	丘陵	古墳	2基確認。
32	30089	宿ホシバ山遺跡	押水町宿	散布地	山林・畑	砂丘	奈良	
33	30087	宿エゾエ遺跡	押水町宿	散布地	田	平地	奈良・平安	
34	30088	宿エゾエ山中世墳墓群	押水町宿	墳墓	山林	丘陵	中世	2基以上。
35	30086	宿向山遺跡	押水町宿	集落跡	山林	丘陵	旧石器～中世	1982、83年県埋文センター発掘調査。
36	30074	宿トリゲヤマ遺跡	押水町宿	散布地	畑・山林	砂丘	弥生～中世	1974年町教委発掘調査。
37	30072	宿東山1～12号墳	押水町宿	古墳	山林	丘陵	古墳	1号墳1985、86年県埋文センター発掘調査。
38	30073	宿東山遺跡	押水町宿	集落跡	道路・山林	丘陵	旧石器～奈良	1985、86年県埋文センター発掘調査。

## 第2章 調査にいたる経緯と経過

### 第1節 調査にいたる経緯

本県教育委員会では、埋蔵文化財の保護と翌年度の事業についての連絡調整会を毎年2月に開催している。建設省北陸地方建設局金沢工事事務所(以下金沢工事事務所と略称する)から平成6年度事業の説明があり、今後の5ヶ年程度の継続事業として志雄町荻市地区で交通安全対策工事計画について協議があった。内容は志雄町荻市地内から荻谷地内の延長約780mで、幅約2.5mの自転車歩道の設置を行うことと、荻市交差点の左折車線の拡幅改良であった。県立埋蔵文化財センターでは、当該地に周知の遺跡の所存は知られていなかったが、宝達山から派生した低丘陵裾に位置し、最も集落遺跡などが立地し易いと判断されたので、事前の分布調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。

平成6年(1994)4月8日付で、金沢工事事務所から分布調査依頼があり、センターでは同年5月17日に試掘を行った。その結果、16ヶ所の坑のうち、6ヶ所から耕作土直下で須恵器と弥生土器の出土が確認され、遺跡の存在が明らかとなった。荻市遺跡とした遺跡は弥生時代と奈良・平安時代の集落遺跡と推定された。荻市交差点から約30m金沢方向に行った辺りから遺跡が始まり、丘陵の裾の現在の国道に沿って、そこから約210mの区間にわたって遺物が散発的に出土した。建設省には試掘結果を速やかに報告したが、荻市交差点付近をはじめとして工事の着手前に発掘調査が必要であることと、国道から1～2m下にある拡幅用地には既設の用排水路が存在して、現況では幅80m程度の場所しかないため、実際の調査を行うとしてもその方法について事前の具体的な調整が必要であり、協議を継続するよう回答している。

平成元年(1989)年以降、本県では建設省の事業に伴う発掘調査については、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会(以下保存協会と略称する)が県からの再委託を受けて実施してきている。平成6年度は年度当初の建設省との協議にもとづき、保存協会はすでに県内4ヶ所において国道バイパス関係の事前調査を実施していた。このような中で建設省の意向を受けたセンターから、年度途中の計画を一部変更してでも、荻市遺跡の調査を実施して欲しいとの依頼が説明され、7月14日付けで正式な調査依頼と引き続いて契約の締結を行うことになった。決定に至る協議では、荻市地区歩道設置工事に係る調査は荻市交差点付近の約150㎡×2層の埋蔵文化財について9月末頃までの調査完了が強く求められた。保存協会が実施していた国道159号線鹿島バイパス関係の羽咋市四柳白山下遺跡調査の一時中断もやむなしとの金沢工事事務所の意向に沿って荻市遺跡の調査を優先する事になったのである。これにより、保存協会では四柳白山下遺跡の調査を8月前半に一時中断し、8月18日より荻市遺跡の発掘調査を約1ヶ月間の予定で着手した。

平成7年以降平成9年度までセンター企画調整課と8年度から協議調整を担当することになった県教育委員会文化財課は、金沢工事事務所との協議を行い、荻市交差点以外は拡幅用地幅が狭いため、工事中の立会調査を実施する事に対応してきた。平成7年度以降は6年度の調査区から金沢方向に向かって工事は進行したが、当該地が軟弱地盤であったため、平成7年度以降、鋼矢板を打って工事を進めることになった。平成8年12月に実施した立会調査では予想以上に須恵器や土師器の出土が多く、しっかりした遺物包含層の存在と溝や柱穴跡の一部を確認している。



## 第2節 調査の経過

- 8月18日 バックホーによる表土除去作業。仮設建物設置。発掘調査機材搬入。
- 22日 排水溝掘削。グリッド杭打ち作業
- 23日 ベルトコンベアー設置。排水溝掘削。5・6区上層包含層掘り下げ作業。
- 24日 5・6区上層包含層掘り下げおよび遺構検出作業。6-2区で平瓦出土。
- 25日 3～5区上層包含層掘り下げおよび遺構検出作業。
- 26日 1～3区上層包含層掘り下げおよび遺構検出作業。遺構検出状況写真撮影。
- 30日 上層遺構発掘作業。
- 31日 上層遺構完掘状況写真撮影および平面図作成。
- 9月1日 上層遺構平面図作成。本日で上層の調査は終了。
- 2日 バックホーによる上層ベース土除去作業。この時点で、狭長な調査区内を直に縦断し、調査区北東壁を越え伸びる幅約3mの溝の存在を確認。この溝を追い調査区を北東側に拡張する。拡張範囲は0区と呼称し、これにより調査延べ面積は400㎡となる。
- 5日 下層包含層掘り下げおよび遺構検出作業。先の溝を下層大溝と呼称。
- 6日 下層大溝3・4区(第1・2層)発掘作業。
- 7日 下層大溝2～4区(第1・2層)発掘作業。
- 8日 下層大溝1～4区(第1・2層)、同4区(第3層)発掘作業。大溝断面図作成。  
大溝2区肩部において井戸検出。
- 9日 下層大溝2～4区(第1～3層)発掘作業。調査区を北側に拡張。大溝が調査区を外れ山側の国道下方向に向かうことを確認。
- 12日 下層大溝0～3区(第1～3層)発掘作業。第3層より曲物出土。4区断面図作成。
- 13日 下層大溝0～3区(第1～3層)発掘作業。  
強粘質の大溝第3層中には土器もさることながら、鋤・鍬ほか多量の木製品が包含されることが判明。0区に向かうにしたがい大溝は深くなり、遺物はより密度を高める。調査は難航。
- 14日 下層大溝0～3区(第2・3層)発掘作業。
- 16日 下層大溝0～2区(第2・3層)発掘作業。
- 19日 下層大溝0～3区(第3層)発掘作業。「蓋」・「器台(高坏?)」ほか木製品出土状況平面図作成。湧水でぬかるむ中、ほとんど手探りによる発掘が続く。出土する珍品に一喜一憂しながらも、迫る調査期日に調査員・作業員ともにあせりがみえる。
- 20日 下層大溝0・1区(第3層)発掘作業。「刀状木製品」・「組合わせ鋤」出土状況平面図作成。
- 21日 下層大溝0・1区(第3層)発掘作業。セクションベルト除去作業。木製品出土状況平面図作成および木製品取り上げ作業。遺構清掃中に大溝脇のベース土中より縄文時代前期の土器出土。
- 22日 清掃作業。ラジコンヘリによる下層完掘状況空中写真撮影。機材整理。
- 26日 排水作業。下層遺構平面図作成。
- 27日 下層遺構平面図および大溝断面図作成。建設省金沢工事事務所との現地打合せ。
- 28日 木製品取り上げ作業。井戸断面図作成ののち井戸材取り上げ。出土遺物・調査機材撤収。
- 30日 排水作業。
- 10月1日 埋め戻し作業。あわせて下層の断ち割りを行ない、以下に生活面のないことを確認。現地調査終了。



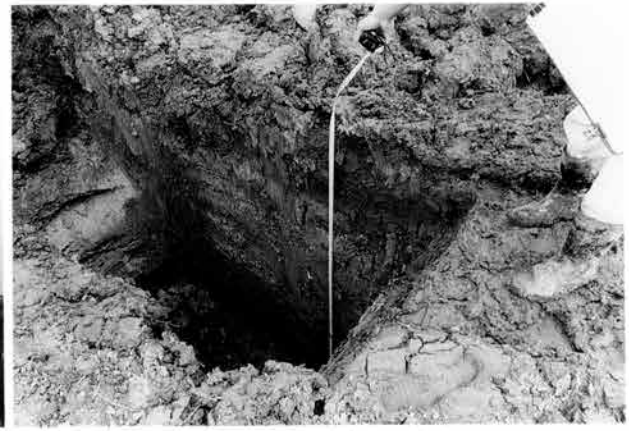
(1) 調査前風景



(2) 表土除去風景



(3) ラジコン・ヘリによる空中写真撮影作業



(4) 下層ベース土以下の土層確認作業



(5) 出土遺物洗浄作業



(6) 出土遺物実測作業



(7) 図版等作成作業



(8) 出土木製品の樹種鑑定資料採取作業

# 第3章 遺構と遺物

## 第1節 調査の概要

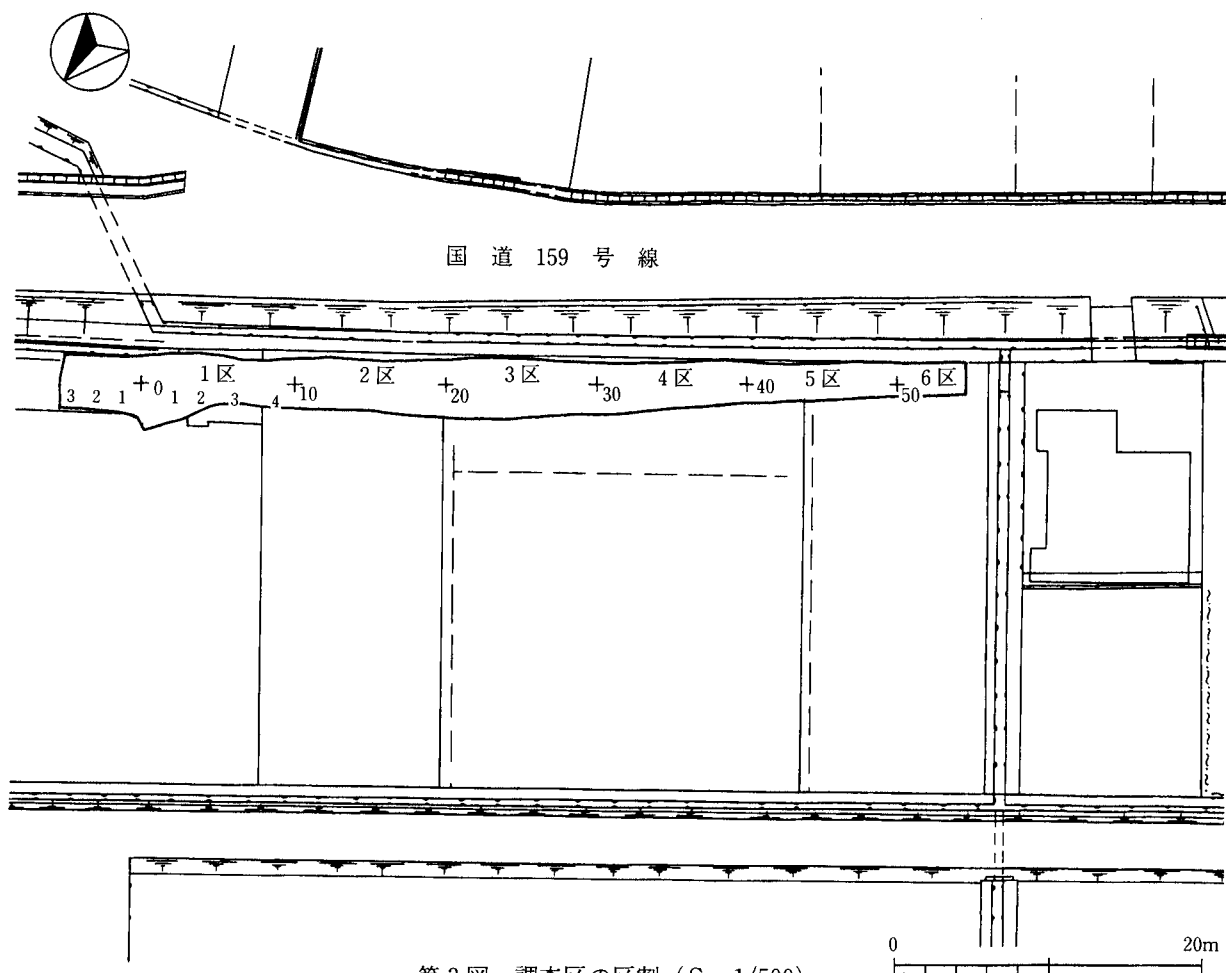
本遺跡は羽咋郡志雄町荻市地内に所在する弥生時代～中世の複合遺跡である。地形でみれば東側から舌状に張り出す丘陵裾部と、それより続く微高地上に立地し、調査区はその北東端にあたる。調査区周辺は水田・畑地として使われ、水田面での標高は約9.5mを測る。

調査は平成6年8月18日～同年10月1日に実施した。調査面積は、遺構面が上下2層存在することから延べ約400㎡となる。調査区は、国道159号線西側の歩道設置予定範囲のうち発掘調査可能部分、長さ約60m、幅2～4mの範囲を対象に設定した(第2図)。発掘調査が困難な南西側歩道設置予定範囲に関しては、県教育委員会文化財課による工事立ち会い調査が実施され、溝・ピットなどの遺構を検出している。

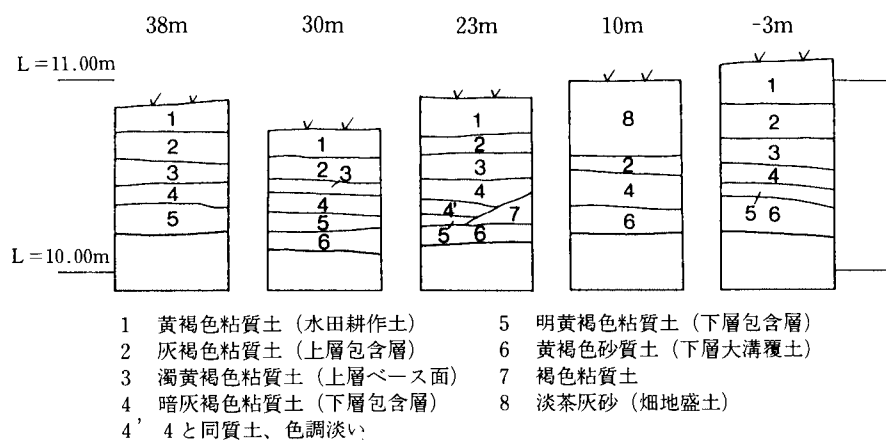
調査区の基準点および中心線は任意に設定した(第3図)。基準点の位置は、国道脇のコンクリート製用水路端より北西方向3.66mと、南西側の宅地脇のコンクリート製用水路端より北東方向56.30mの交差した地点である。



第2図 調査区の位置 (S=1/1,000)



第3図 調査区の区割 (S=1/500)



第4図 調査区西壁土層柱状図 (S=1/40)

調査区中心線の方位はN-48° -Eを測る。調査区の区割り、基準点(0m)より10mごとに区を設定、北東側から順に1~6区と呼称した。また基準点より北東側の拡張部分は0区とした。さらに各区を4分割し、遺物取り上げなどの便を図った。例えば1区は北東側から順に1-1区……1-4区となる。

基本土層層序(第4図)は、上層から現畑地盛土(第4図土層8)、現水田耕作土(同図土層1)、上層包含層(同図土層2)、上層ベース土(同図土層3)、下層包含層(同図土層4、5)、下層ベース土となり、各層ともほぼ水平な堆積が認められる。うち上層包含層・上層ベースは炭粒の多く混じる粘性の強い土壤で、主に東側丘陵部からの二次堆積層と考えられる。その堆積時期は、上層ベース土は出土遺物の示す下限時期(10世紀代)に、上層包含層は11・12世紀以降の遺物を定量含むことから、11世紀以降と考えられる。また各層ベース面の標高は、0-2区

(基準点北東側 3 m地点)で上層ベース面約10.7m、下層ベース面約10.2mを、また 4 - 4 区(38m地点)で上層ベース面約10.6m、下層ベース面約10.2mを測る。なお下層ベースより下の土層は、上層より順に A層：鉄分の多い黄褐色粘質土、B層：緑灰色細砂、C層：緑灰色粘質土、D層：ピートの混じる褐色粘質土となる(第 6 図)。うち B層と C層は同質土で、B層は崩れやすく、湧水が著しい。

調査の結果、下層では弥生時代後期～古墳時代前期の大溝 1 条、井戸 1 基、土坑 2 基などを検出した。大溝は地形の変換点に沿うように屈曲しながら流れる。覆土からは多量の土器、木製品が出土した。その量は土器がコンテナパット約40箱、木製品は30箱程度を数える。井戸は側材に丸太くり抜き材を使用している。覆土からは未使用の木鏝 1 点が出土、祭祀的使用が想定できる。

上層は総じて遺構密度は低く、溝 1 条、落ち込み 5 ヶ所、ピット 5 などを検出したにとどまる。コンテナパット 3 箱程度を数える出土遺物は細片が多く、前述の二次的な土砂堆積に伴い周辺部から移動してきたものと考えられる。時期的には 7 世紀後半代～17世紀前半代の幅をもち、中では奈良・平安時代の須恵器・土師器が目立つ。また調査区南半を中心に白鳳時代の瓦小片約40点が出土した。なお下層遺構のベースをなす土層(C層)より縄文時代前期の深鉢 1 点が出土した。そのため重機による試掘調査を実施したが、明確な遺物包含層・遺構とも確認できなかった。

## 第 2 節 遺構

### 1. 下層遺構

#### 大溝(第 5 ～ 8 図)

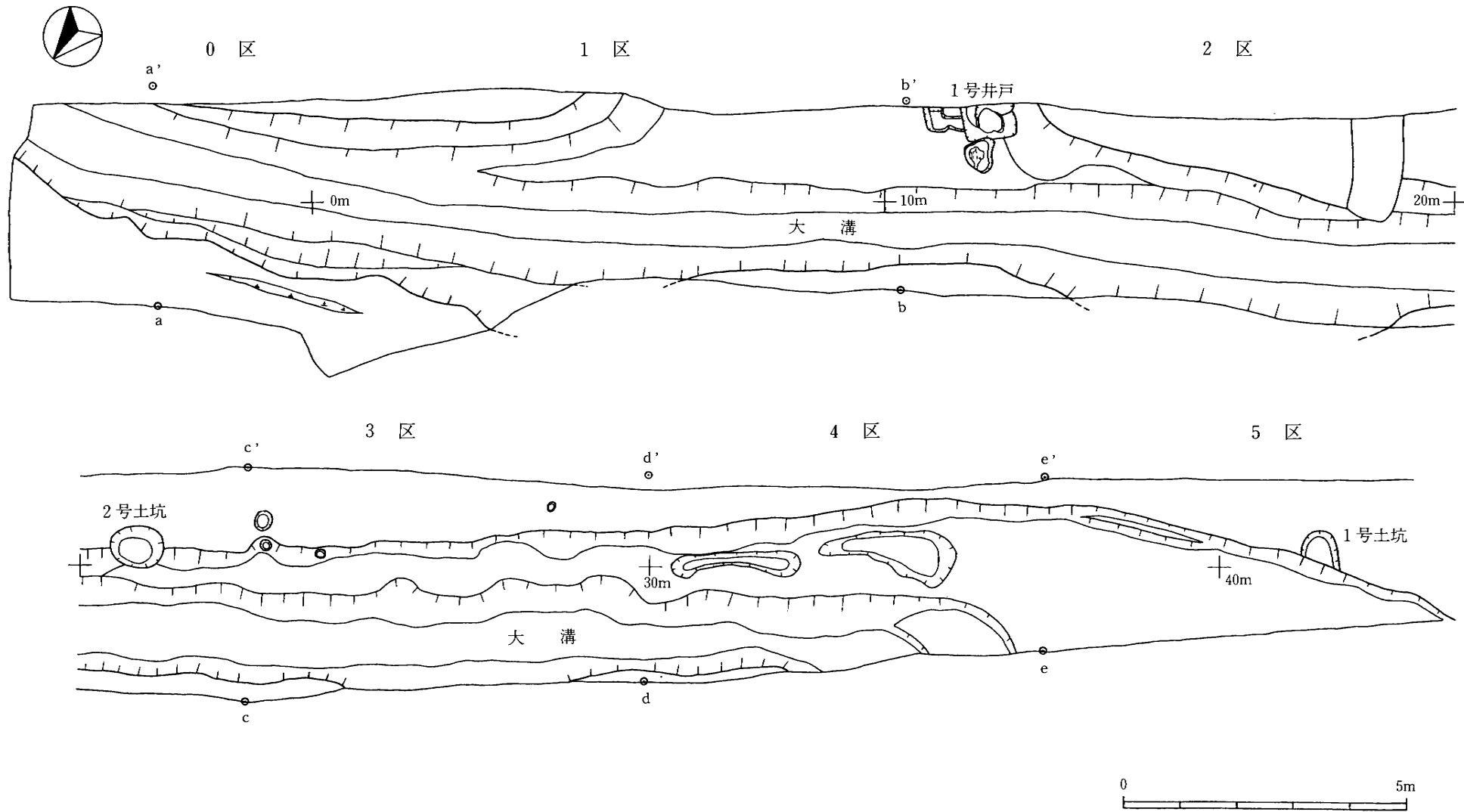
調査区内を南西方向から北東方向へ屈曲しながら流れる。ちょうど丘陵裾部と微高地の地形変換ラインに位置する。調査区の制約からその規模は判然としないが、第 6 図土層断面 a - a'ラインで上幅 2 m以上、深さ約1.4m、c - c'ラインで上幅2.3m以上、深さ0.75m、e - e'ラインで上幅約2.6m、深さ0.35mを測る。断面は 2 段掘りの様相を呈し、3・4 区東側肩部のテラスは顕著となる。上段は幅が広く底面の形状も平坦であるのに対して下段は断面 V 字形を呈する。

覆土は大きく 3 層に分かれる。上層より 1 層：大溝廃絶後の自然堆積土(第 6 図土層 1 ～ 3、13、14)、2 層：大溝第 2 期機能時の堆積土(同図土層 4 ～10)、3 層：大溝開削～第 1 期機能時の堆積土(同図土層11)となる。うち 3 層はしまりのなく、肩部のベース土の小崩壊を伴った堆積土である。これから第 1 期機能時は、小河川を断面 V 字状に開削したものの、水の滞留する沼状の状態であったと考えられる。さらに木製遺物の遺残状況より、それが埋没するまでは比較的短期間であった可能性をもつ。また第 2 期機能時は 2 層の主体をなす土層 4 の存在から、前述上段の溝幅で一定期間の水が流れたと考えられる。なお 2、3 層の間には、遺物量の少ない土層 12(ベース土崩壊土)があることから、若干の空白期間を想定可能かもしれない。

3 層からは、弥生時代中期、後期～古墳時代前期の土器に加え、大量の木製遺物が出土した。木製遺物の出土状況は第 7、8 図のとおり規則性や廃棄の方向性を認めにくい。おそらく不要となった廃棄品を中心とする木製遺物が屈曲部に次々と堆積したものと考えられる。また木製遺物は広葉樹・針葉樹とも定量存在し、ほとんどが加工痕跡をもつ。広葉樹は劣化が著しく、取り上げ時にほとんどが損壊した。2 層からは大量の弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土した。大部分が細片で、図化可能な遺物は小形の器種を中心とする。また廃棄の方向は明確でない。

#### 1 号井戸(第 9 図)

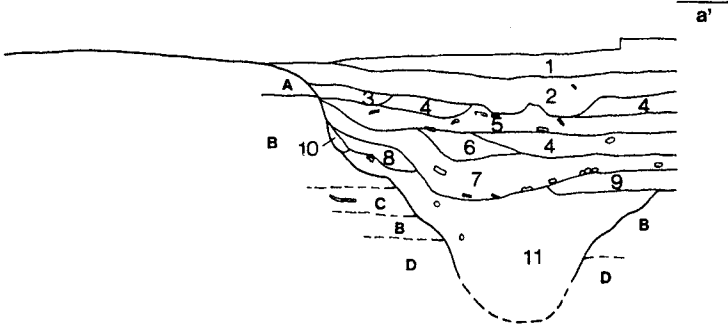
大溝東側肩部上段が幅をひろげる 2 - 2 区で検出し、大溝との密接な関係が想定される。井戸側材に 1 本の丸太材をくり抜いて使用している。井戸側材は土圧のため内傾、平面略楕円形を呈する。径41～43cm、深さ68cm、



第5図 下層遺構全体図 (S=1/100)

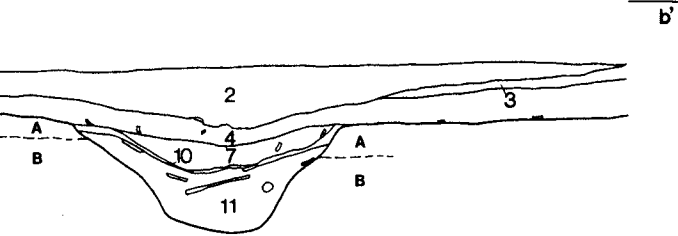
L = 10.80m

a



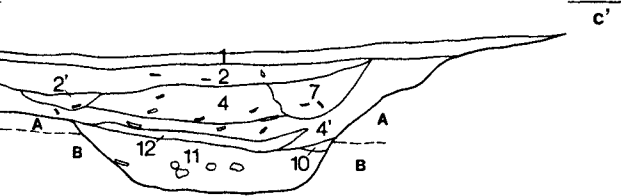
L = 10.80m

b



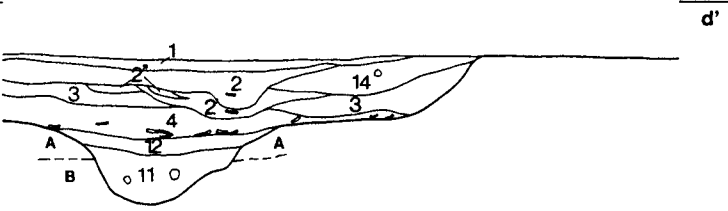
L = 10.80m

c



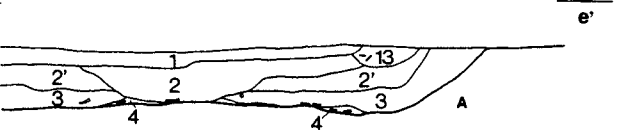
L = 10.80m

d



L = 10.80m

e

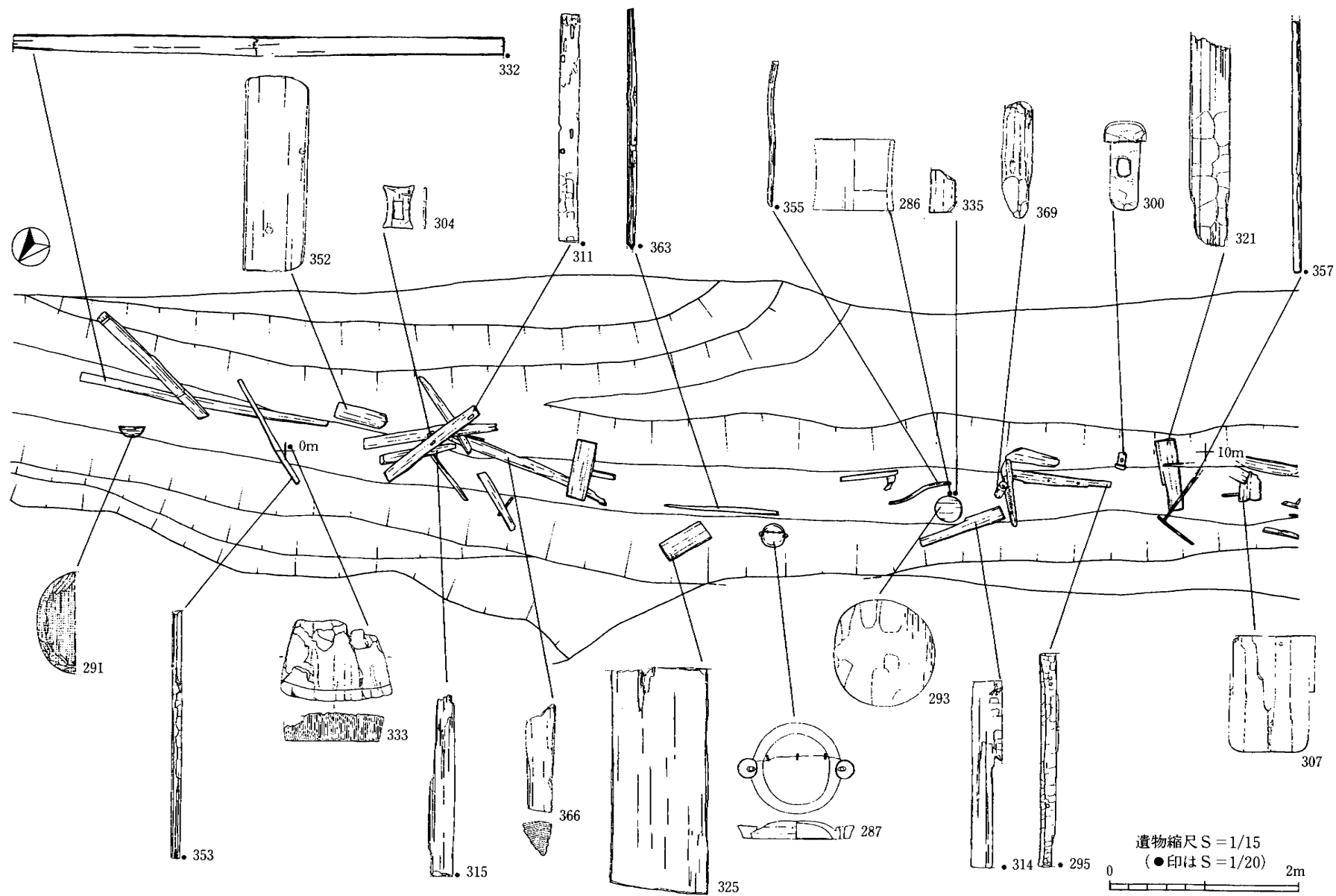


- 1 黄灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土
- 2' " (色調薄く、炭粒多く混じる)
- 2'' " (色調薄い)
- 3 明黄褐色粘質土
- 4 黄褐色砂質土 (土器、炭粒多く混じる)
- 4' 4と同質土 (黄色強くなり、粒子粗い)
- 5 4に褐色粘質土が混じる
- 6 褐色粘質土 (4がブロック状に混じる)
- 7 褐色粘質土
- 8 " (色調薄い)
- 9 " (色調暗い)
- 10 緑灰色細粒 (Bと同質土)
- 11 淡灰褐色粘質土 (10がブロック状に混じる)
- 12 黄褐色粘質土
- 13 淡褐色粘質土
- 14 7と同質土

- A 黄褐色粘質土 (鉄分多い)
- B 緑灰色細粒
- C 緑灰色粘質土
- D 褐色粘質土 (ピート混じる)

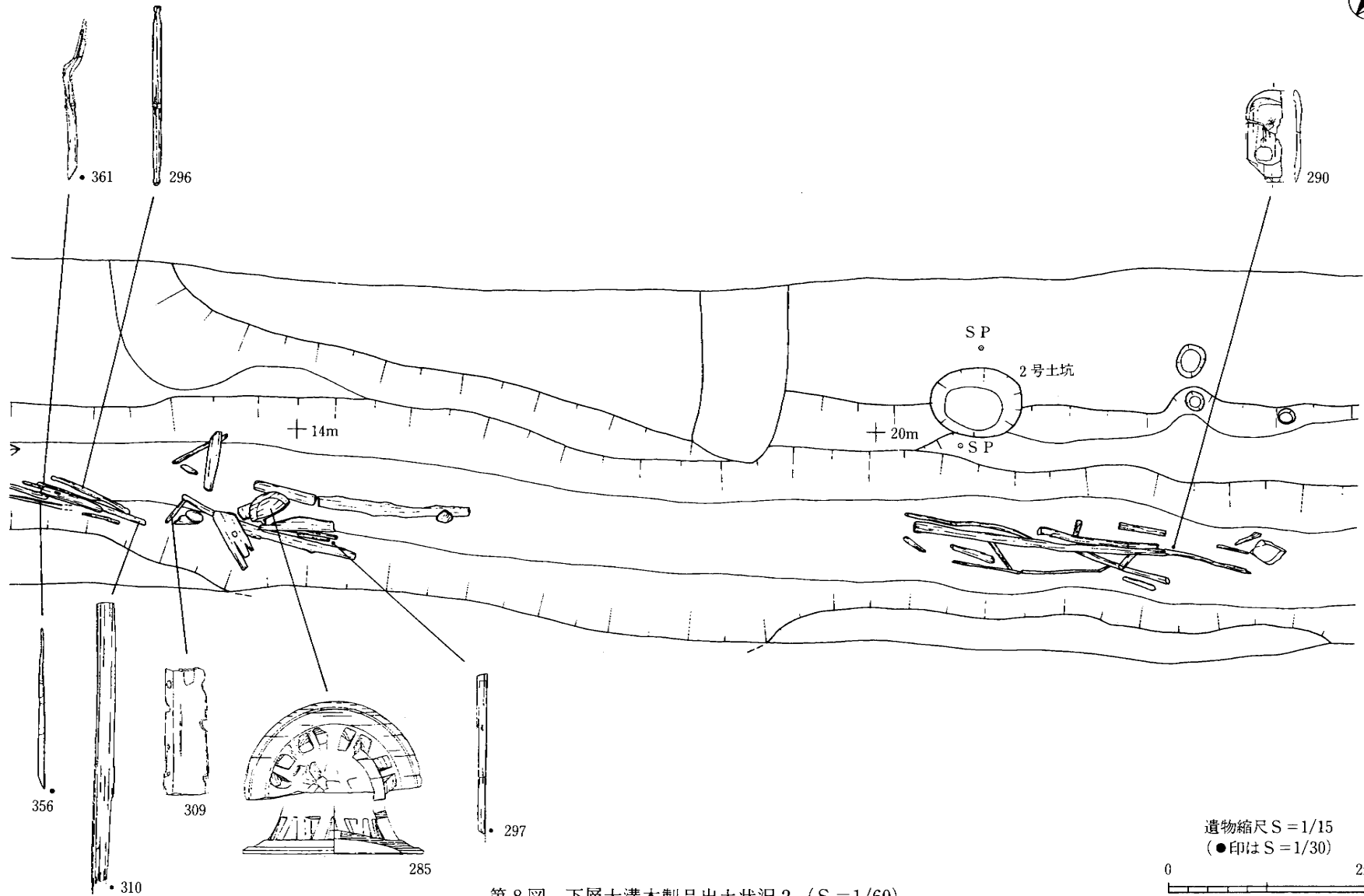


第6図 下層大溝土層断面図 (S=1/40)



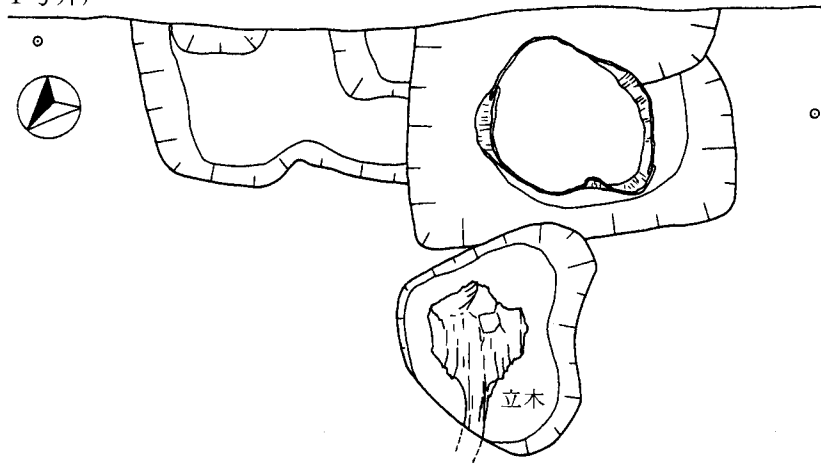
第7図 下層大溝木製品出土状況1 (S=1/60)



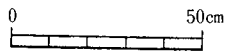
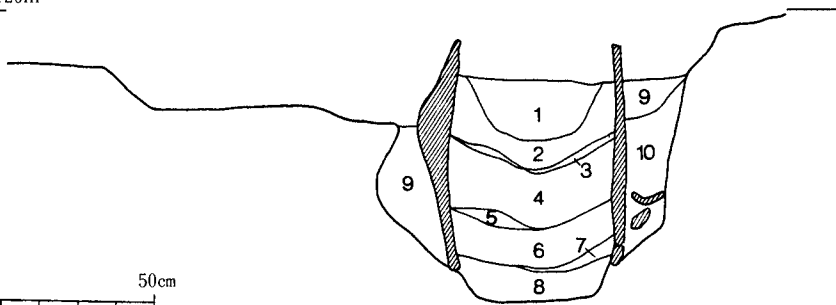


第 8 図 下層大溝木製品出土状況 2 (S=1/60)

1号井戸

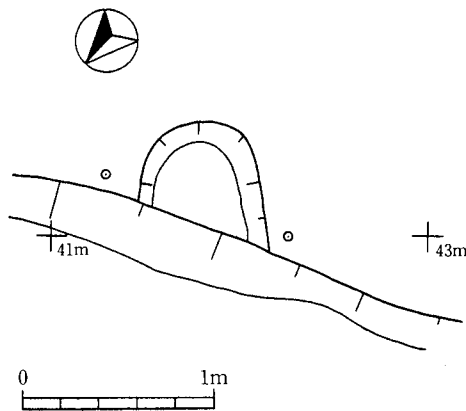


L=10.20m

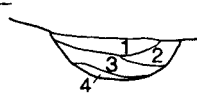


- 1 淡灰褐色弱粘質土+灰青色砂の混合土
- 2 茶褐色弱粘質土(しまりない)
- 3 青灰色砂(小砂利混じる)
- 4 2に腐植物、青灰色砂混じる
- 5 2と同質土
- 6 2と同質土(茶色薄くなり、腐植物混じる)
- 7 6と8の漸移層
- 8 濁青灰色細砂(間に灰黄色細砂はさまる)
- 9 褐色弱質土
- 10 淡灰褐色弱粘質土+灰青色砂の混合土

1号土坑



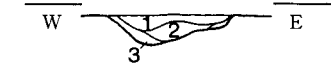
L=10.60m



- 1 灰褐色粘質土(炭粒混じる)
- 2 暗灰褐色砂質土
- 3 褐色粘質土(炭粒、土器混じる)
- 4 3に黄褐色粘質土混じる

2号土坑

L=10.60m

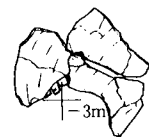


- 1 淡灰褐色粘質土(炭混じる)
- 2 黄褐色粘質土
- 3 淡黄褐色砂質土(やや粘性あり)

第9図 下層遺構実測図 (S=1/20、1/40)

側材の厚さ2~8cmを測る。井戸側材固定のため側材南外側に2本の自然木を横位に据え付ける他、東側の側材には内接して径約3cmの杭を打った痕跡が残る。井戸側材はブナ科シイ属に属するとの鑑定結果を得ている。井戸側材に近接する井戸掘り方は平面略方形を呈し、南北方向約75cm、東西方向60cm以上、深さ75cmを測る。

±4m

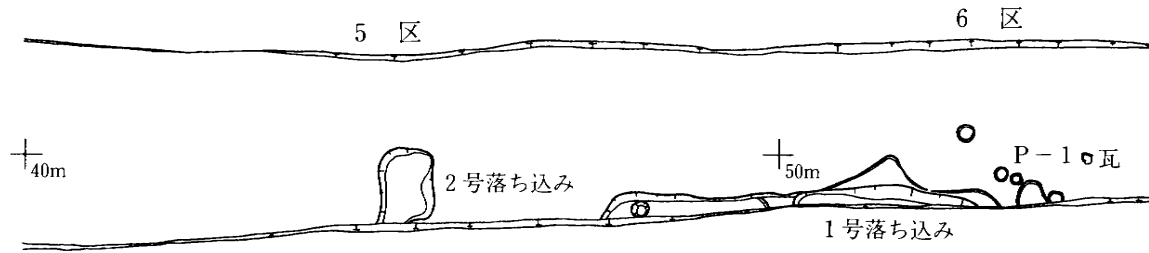
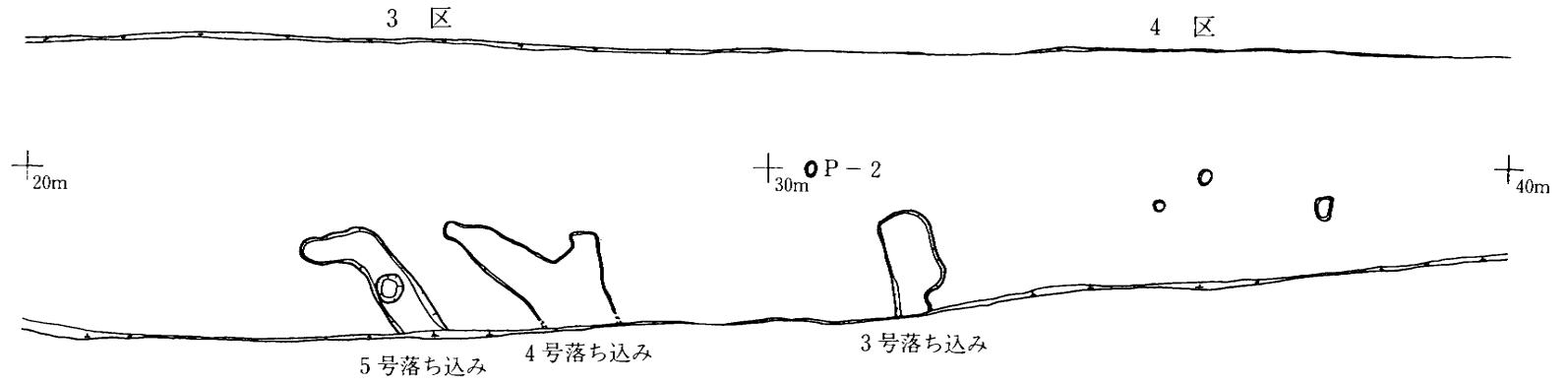
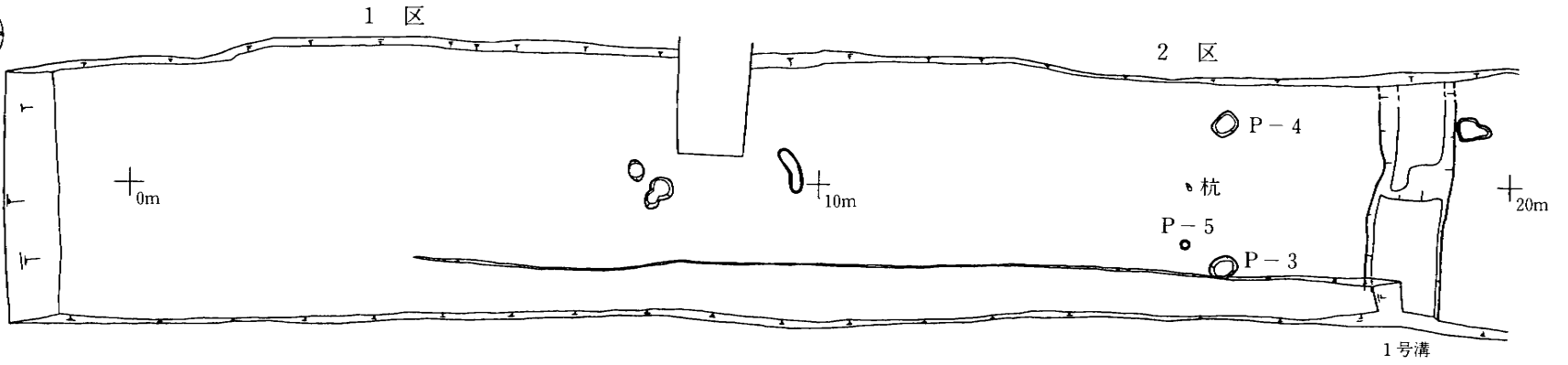


第10図 縄文土器出土状況 (S=1/20)

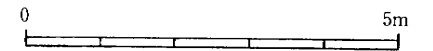
覆土は上層から、最終的な埋め土(第9図土層1)、井戸廃棄後の自然堆積土(同図土層2~7)、井戸機能時の堆積土(同図土層8)となり、廃棄後の土層中には木の葉が混じる層も存在する(同図土層6)。また土層9より木鏃(第32図298)の他、土器細片が出土した。木鏃は完形で、祭祀的用途が想定できる。

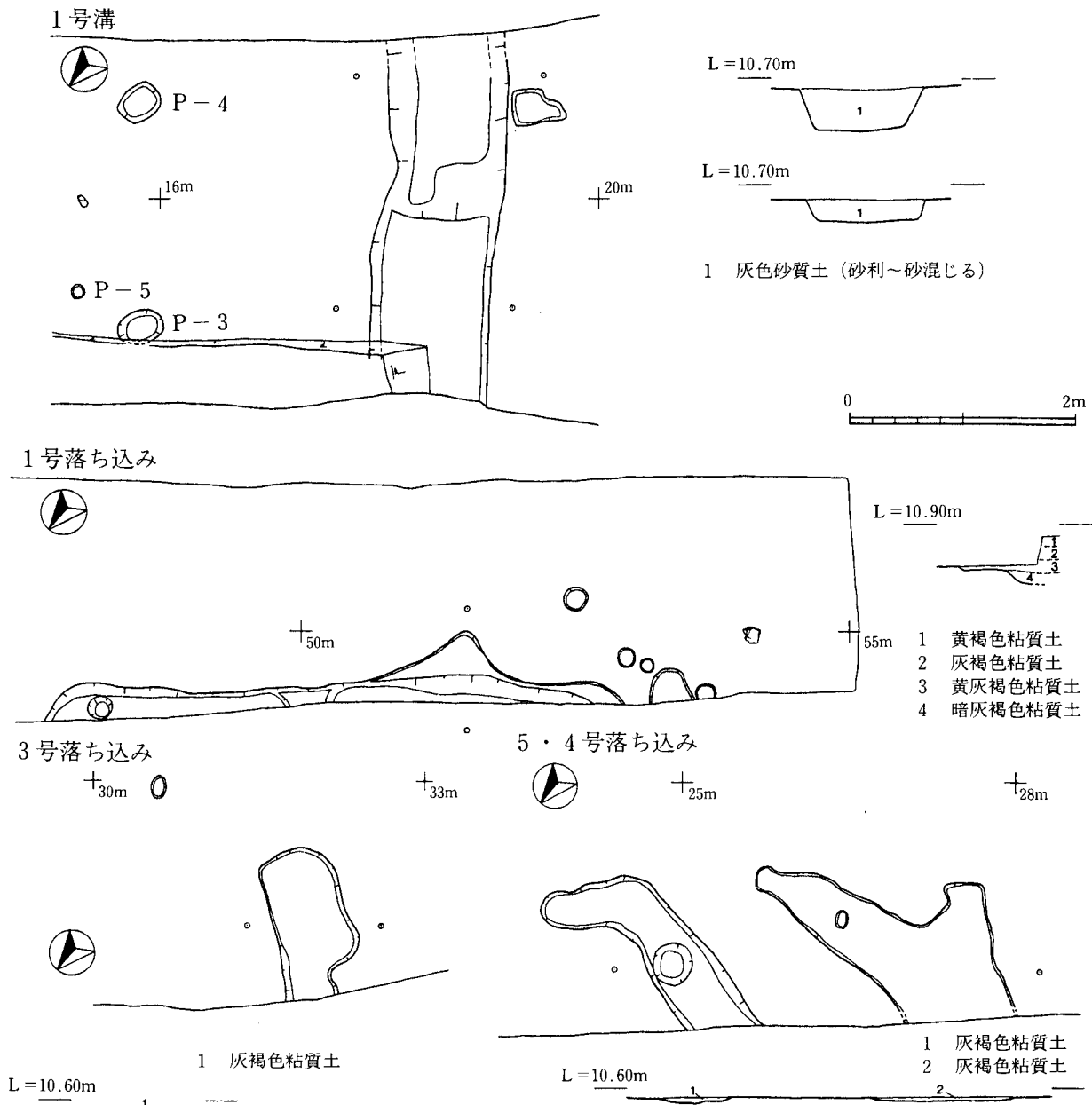
1号土坑(第5、9図)

5-1区で検出し、大溝に前出する。平面楕円形を呈し、長軸70cm以上、短軸65cm、深さ22cmを測る。覆土は



第11図 上層遺構全体図 (S=1/100)





第12図 上層遺構実測図 (S=1/60)

上層より灰褐色粘質土、暗灰褐色砂質土、褐色粘質土、黄褐色粘質土の混じる褐色粘質土となる。褐色粘質土から土器細片が出土した。

2号土坑(第8、9図)

3-1区で検出し、大溝より後出する。平面楕円形を呈し、長軸94cm、短軸72cm、深さ16cmを測る。覆土は上層より淡灰褐色粘質土、黄褐色粘質土、淡黄褐色砂質土となる。出土遺物はない。

縄文土器(第10図)

0-1区のa-a'ラインセクションにかかるベース土C層から、南側を底部とし潰れた状態で縄文土器前期の深鉢1個体(第13図1)が出土した。前述のとおり、他に明確な包含層・遺構は確認できず、流れ込みと考えられる。

## 2. 上層遺構(第11、12図)

### 1号溝

2-4区で検出した。南東-北西方向に主軸をもち、調査区東壁上幅110cm、深さ39cmを測る。覆土は砂利・砂の混じる灰色砂質土である。ガラス片などの出土から現代のものと考えられる。覆土より出土した須恵器杯A(第47図373)、白磁碗(第47図389)を図化した。

### 1~5号落ち込み

3~6区の調査区西側壁に偏在する変色域である。丘陵裾部の傾斜に伴う土砂の堆積または下層大溝の一部と考えられる。不定形な平面プランをもち、立ち上がりは不明瞭で総じて浅い。深さは1号落ち込みが17cmを測る。他は、5~10cmとなる。覆土は灰褐色粘質土を基本とする。遺物は2号落ち込みから弥生土器細片が、5号落ち込みから土師器碗A(第47図374)、弥生土器・須恵器杯蓋・瓶胴部・甕胴部細片が出土した。

### P-1

6-2区で検出した。平面円形を呈し、径14cm、深さ2cmを測る。覆土は灰褐色粘質土で、遺物の出土はない。

### P-2

4-1区で検出した。平面楕円形を呈し、長径20cm、短径14cm、深さ6cmを測る。覆土は灰褐色粘質土で、遺物の出土はない。

### P-3

2-3区で検出し、P-4と対になる。平面楕円形を呈し、長径42cm、短径32cm、深さ42cmを測る。覆土は濁褐色弱粘質土で底にワラが残存した。須恵器杯A・弥生土器細片が出土した。

### P-4

2-3区で検出した。平面方形を呈し、長辺38cm、短辺27cm、深さ38cmを測る。覆土はP-3と同様である。遺物の出土はない。

### P-5

2-3区で検出した。平面円形を呈し、径12cm、深さ43cmを測る。覆土は濁褐色粘質土で、須恵器杯蓋(第47図376)が出土した。

## 第3節 遺物

### 1. 縄文土器(第13図1・2)

下層ベース土C層中から出土した1は口縁部が弱く内湾し、胴上半にくびれをもつ深鉢で、口唇部を角張らせる。口径39.0cm、器厚0.5cm。外面には羽状縄文を施し、内面はなでる。前期後葉蜆ヶ森式土器である。大溝第2層出土の2は底部片で、底径9.6cm、底部外面には網代圧痕が残り、胴部外面には粒の細かい縦位の縄文を施す。中期あるいは後期に属するものである。

### 2. 弥生土器・土師器(第14図~第27図)

#### 弥生時代中期の土器(21・74・127・215・220・254)

点数は少ないが大溝には該期の土器が含まれる。21は壺の胴部片であり、外面に櫛描文が施される。器厚0.7cm、焼成はやや甘い。74は外反する壺口縁部であり、角張らせた口唇部内面には櫛歯刺突を加える。口縁部外面にはナデを、ほかはハケ目を施す。127は柱状に張り出した壺底部。内・外面にハケ目を施す。やや凹む底部外面には「×」とへら刻みを加える。215は壺胴部であり、内面にはハケ目を、外面には磨きを丁寧に施し、櫛描文を加え



第13図 縄文土器 (S=1/3)

る。器厚0.5mm。外面に煤が付着する。220は壺頸部であり、内・外面にハケ目を施す。254は壺口縁部であり、丸い口唇部内面には、矢羽根状に櫛歯刺突を加える。焼成は甘い。

#### 弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器

3は1号井戸上層、4は1号井戸脇くぼみから出土している。他は大溝出土である。大溝は3層に分層され、遺物は層単位で取り上げている。各土器の出土層位を羅列すると、1層(5～20・22～30・42)、1・2層(31～41・43～73・113・133・180)、1～3層(205・214)、2層(75～90・92～99・101～112・114～126・128～132・134～154・157～175・177～179・181～198)、2・3層(91・155・156・176・206・209・210・222・226・237・238・241・244・245・263)、3層(100・199～204・207・208・211～213・215～221・223～225・227～229・231～236・239・240・242・243・246～253・264)、出土層位不明(254～262)である。これらの土器は大きく弥生時代後期後葉から古墳時代前期までの時期幅をもっており、以下では、これらを一括、器種毎に再編し、あらためて分類したものを順に述べていく。ただ、接合の困難な細片が多く全形の判明する土器が少ないため、分類に際しては、口縁部形態と胴部形態の関係や、口径・器高あるいは胴部容量などの各種法量について十分に考慮できなかった。以下での分類はおもに口縁部や頸部など細部形態の異同により行なった。各器種の大別はアルファベット大文字で、中別はアラビア数字で、小別はアルファベット小文字で表記している。

##### (1) 甕形土器

口縁部の形態により大別した。

A類 無文有段口縁のもの 直立または外傾する口縁部部をもち、口縁端部は丸縁が多い。口縁部細部形態により中別した。

A 1類 口縁部幅は1cm～2cm。

a) 幅1cm～1.5cmが多い(5・6・36・79・120・122)。120は短く折り上げた端部を角張らせる。

b) 幅1.5～2cmが多い(31・32・34・84・89・90・91・93・144)。

A 2 類 口縁帯部幅は1.5cm～2 cm。口縁帯下端を肥厚する。

a) 内面有段 (75・76・77・87)。

b) 内面無段。大きくくびれ、長い頸部をもつ (39・81・82・83・94・227)。

A 3 類 口縁帯部幅2 cm～2.5cm。口縁部内面を強く押さえ有段とするもので、口縁帯下端が凸帯状に突き出す (78・85・88・255・257)。

A 4 類 口縁帯部幅3 cm前後。

a) 内面有段 (35・86・158)。86は口縁帯部が外傾し、35・158は外反する。

b) 内面無段(147)。形骸的な口縁帯部は、内面から強く押さえ下端を押し出す。

B 類 擬凹線文有段口縁のもの 直立または外傾する口縁帯部をもち、B 1・2 類は丸縁が、B 3 類は尖縁が多い。口縁帯部細部形態により中別した。

B 1 類 口縁帯部幅2 cm。内面有段。大きくくびれ外湾する頸部をもつ (99・201・202・203・205・206・207)。

203、205、206、207は肩部にへら刻みを施す。

B 2 類 口縁帯部幅2 cm。口縁帯部下端を肥厚する。

a) 内面有段。くびれの強い頸部をもつ (7・33・80・97・98・100)。97・100は端部を下方にするどく引き出す。

b) 内面無段(92・95・96・204)。92は肩部にへら刻みを施す。

B 3 類 口縁帯部幅2.5cm～3 cm (101・102・208・209)。101は内面指頭圧痕をもつ。

C 類 く字口縁のもの 口縁端部の形態により中別した。

C 1 類 丸縁 (8・107・108・110・111・112・113・114・115・116・210・211)。

C 2 類 角縁 (105・106・109・118)。

C 3 類 口縁端を上方に引き出し、断面三角形 (38・103・119・225)。38、225は口縁内面を強くなる。

C 4 類 口縁端部を上下に引き出し、幅の狭い口縁帯部をつくる (37・40・104・163・200)。37、200は擬凹線を加える。

D 類 受け口状口縁のもの

D 1 類 無文のもの(199)

D 2 類 近江系の技法のもの(123)。肩部には波状に平行沈線を施し、口縁部、肩部には櫛歯刺突をめぐらす。

## (2) 壺形土器

胴部器形まで分かるものは16、156の2点のみである。口頸部形態で大別、口縁部形態で中別、端部の加飾等により小別した。

A 類 長筒状の頸部のもの 頸部と胴部の境は不明瞭で、肩の張りの弱いものが多い。

A 1 類 素縁のもの。

a) 口縁部が直立、またはわずかに内湾する (217・219)。

b) 口縁部が外傾または外反する (55・216・218・256)。

A 2 類 口縁部が外反し、口唇部を押さえ角張らせる。

a) 口唇部をつまみあげる (140)。

b) 内・外につまみ出し幅の狭い口縁帯部をつくる (53)。頸部には縦位に棒状浮文を貼る。

A 3 類 有段口縁のもの。

a) 口縁帯部高が低く無文(223)。

b) 口縁帯部高が低く擬凹線を加える(224)。

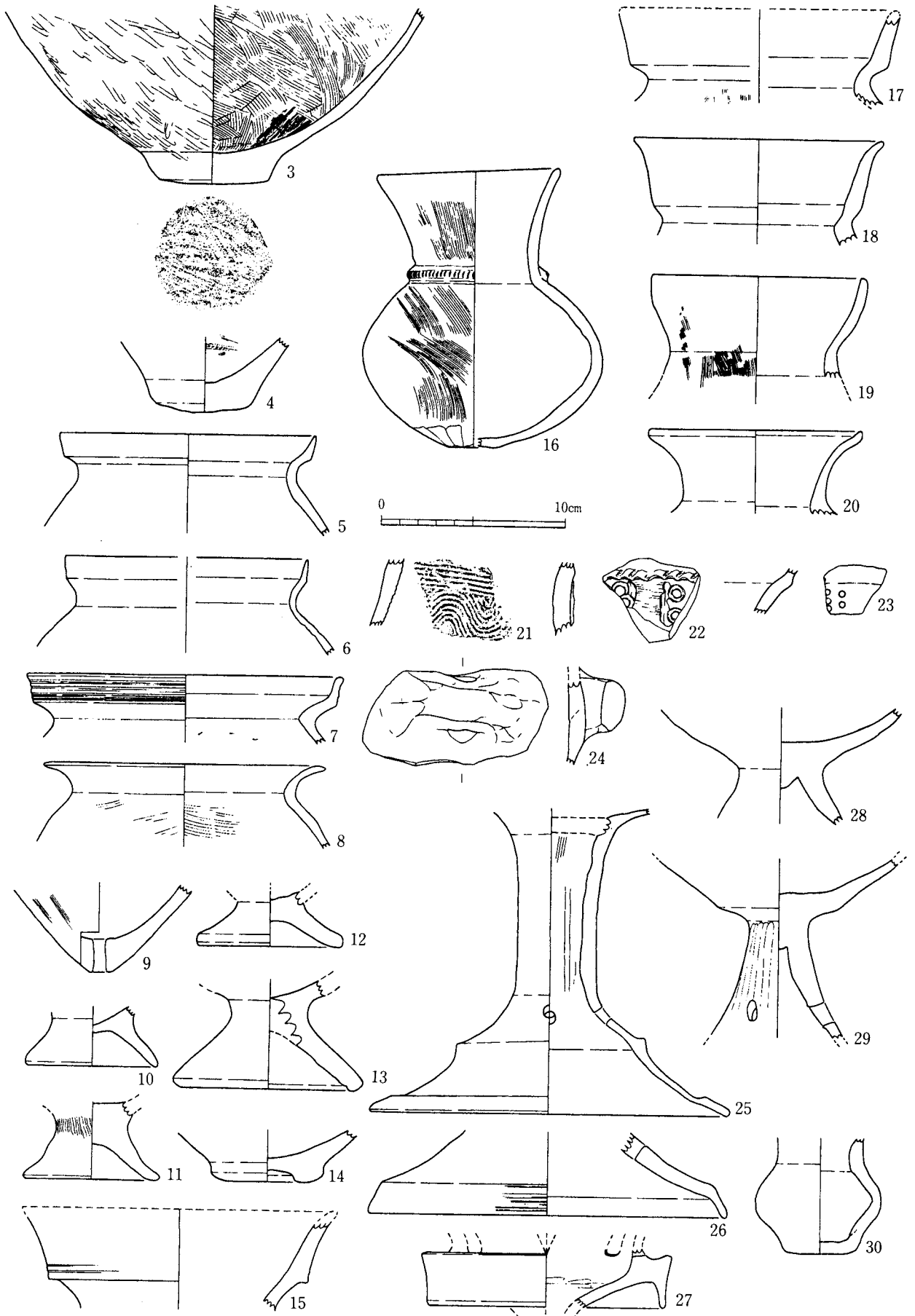
- c) 口縁部高が高く無文(146)。
- A 4 類 有段は弱く受け口状のもの。
- a) 外延および折り上げが強い(143・221)。
- b) 外延および折り上げが弱い(54・141・139・222)。
- B 類 短筒状の頸部のもの 肩部の張りの弱いものが多い。
- B 1 類 素縁のもの(19)。
- B 2 類 有段口縁のもの。
- a) 口縁部高が低く無文(145・157)。
- b) 口縁部高が低く擬凹線を加える(148)。
- c) 大きく伸び外反する口縁部部に擬凹線を加える(149)。特大品である。
- C 類 短頸のもの 頸部と胴部の境は明瞭で、肩部の張るものが多い。
- C 1 類 素縁で、大きく外反する口縁をもつ。
- a) 口唇部をつまみあげる(20)。
- b) 口縁下端を強くつまみ出し、幅狭の凸帯とする(142)。
- C 2 類 有段口縁のもの。
- a) 口縁部高が低く無文(17・69・150・154・152)。69は胴部外面、口頸部内・外面を赤彩する。
- b) 口縁部高が低く擬凹線を加える(56)。
- c) 口縁部高が高く無文(18・71・151・159)。器壁は薄く、尖縁である。
- d) 口縁部高が高く口縁部下端を肥厚する(58)。内面は無段、特に肉厚で、頸部と胴部の境は明瞭である。
- C 3 類 受け口状口縁のもの(57)。
- D 類 二重口縁形態のもの(15・59・153) 胴部から折れ、大きく外反する頸部に、高くのびる口縁部をもつ。59は尖縁。153は丸縁で、胴部外面、口頸部内・外面を赤彩する。
- E 類 いわゆるパレススタイル壺(52・164・226) 52は口縁部部に縦位隆帯を3本貼る。164は口唇部を刻み、縦位隆帯を2本貼る。
- F 類) 細頸・長口縁部をもち、算盤玉形胴部のもの いわゆる台付装飾壺。胴部形態により中別する。
- F 1 類 整った算盤玉形(155・156)。同一個体である。
- F 2 類 胴部中位を肥厚し、凸帯とする(161・248)。248は凸帯上に逆C字状の列点を3段加える。
- G 類 細頸・偏平球形胴部のもの
- G 1 類 口縁部が外反する(16)。頸部に凸帯をめぐらし、外面にハケ目を加える。底部はけずる。
- G 2 類 口縁部が内湾する(68・160)。68は磨耗が激しいが、細沈線をめぐらした上に、二枚貝腹縁による横位刺突を3段に加える。
- H 類 無頸のもの(117)口縁部をわずかに折り上げ、尖縁とする。
- その他(166・167) 166は頸部に隆帯を貼る。167は肩の張る器形となる。

### (3) 底部

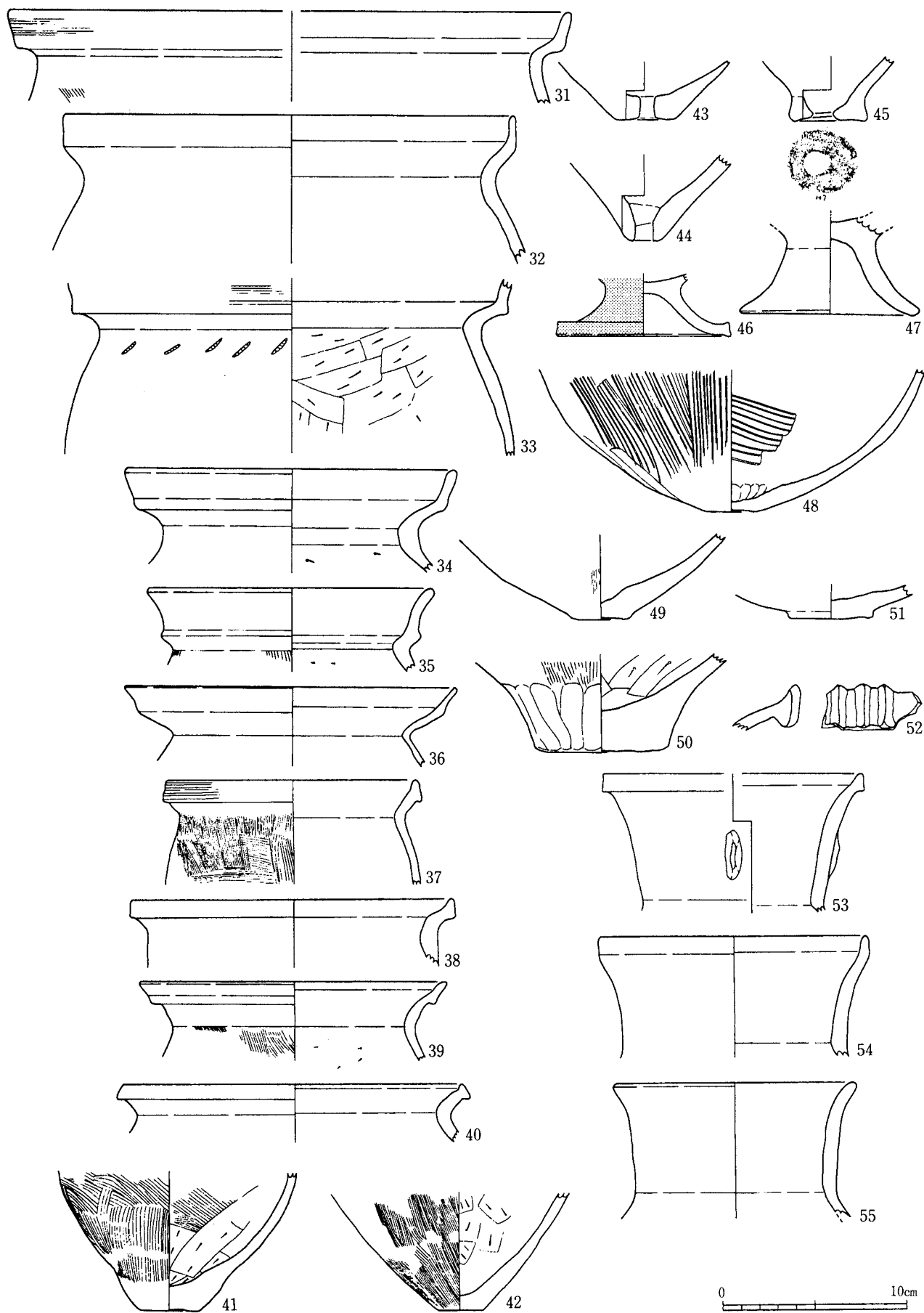
42は甕形土器の、他は壺の底部とみられる。多くは底部がわずかに柱状に突き出すもので、この柱状部からの立ち上がり形態により細分する。

- A 類 外反するもの(50・130)
- B 類 外傾するもの(4・14・42・128・129・131) 14は凹み底である。
- C 類 内湾するもの(3・41・48・49・51・214) 214は凹み底である。





第14图 下層大溝出土土器 1 (S=1/3)



第15图 下層大溝出土土器 2 (S=1/3)

(4) 脚台部

甕または壺の脚台部を一括した。裾部の形態により大別、脚の高低により中別した。

A類 内湾するもの

A 1類 高い(13・137・138)。13、137は裾端部を角張らせる。138は器壁の薄いものである。

A 2類 低い(10・136)。

B類 外反するもの

B 1類 特に高い(73)。四方に円孔を穿つ。

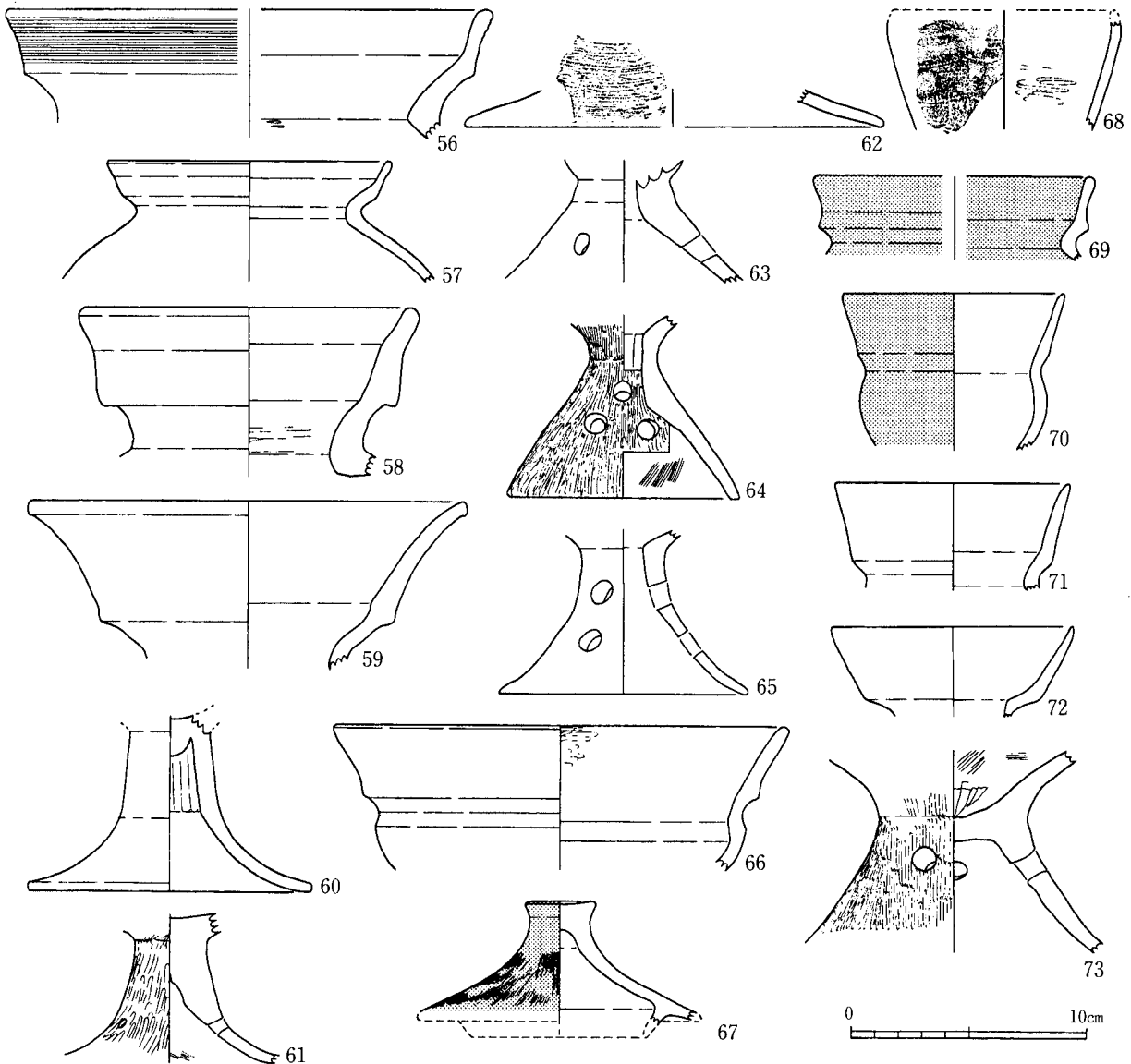
B 2類 高い(11・47)。

B 3類 低い(46・259)。46は細頸裝飾壺の台部であり、磨きを施し、赤彩する精製品である。

(5) 高环形土器

高环形土器、器台形土器は、細片ではいずれの器種か識別困難なものもあるが、遺存の良い土器により大方は所属を決定した。各部位は大きく坏部(または受部)、脚部、裾部に分けられるが、坏部(または受部)と脚部が接合するものは169、247のみで、上下のセット関係を決定し難い土器が多いことから、ここでは坏部(または受部)と脚・裾部(脚部+裾部)に分け、それぞれに分類を加えた。

(坏部) 口縁部形態により大別、口縁部の加飾の違いにより中別した。



第16図 下層大溝出土土器3 (S=1/3)

A類 外反口縁のもの(169・242・243)

口縁部はいずれも面取りする。242は内面を赤彩する。

B類 有段鉢形口縁のもの

B1類 無文(170)。ゆるく湾曲する体部に外傾、外反し高くのびる口縁部をもつ。

B2類 擬凹線を加える(238・239・240)。238、239はゆるく湾曲する体部から折れ、外傾する口縁部をもつ。229が脚部となろう。ともに内・外面赤彩する。240は平らな体部から曲がり、外傾する口縁部をもつ。

B3類 半載竹管による連続刺突を加える(180・241)。180は口縁部に5段の、体部に2段の連続刺突をめぐらす。231あるいは245が3類の脚部となろう。241は口唇頂部に刻みを加え、口縁部に5段の、体部に1段の連続刺突をめぐらす。

C類 椀形のもの

C1類 無文(181)。幅のある平坦な底部と、外傾する低い体部をもつ。

C2類 有文(191)。波状文を施す。脚・裾D類の大きく広がる裾部をもつとみられる。

D類 ワイングラス形のもの(193)小形品である。器厚0.5cm、口縁は弱く外反し丸縁とする。体部下半に稜を設け、内・外面を磨く。体部中位には棒状具による2ヶ対の刺突を加えるが、細片のため配列等は不明。

(脚・裾部)

裾部の形態により大別、加飾の有無により中別した。

A類 無段のもの

A1類 無文。

a) 裾部が滑らかに広がり端部丸縁のもの(29・60・61・182・185)。棒形脚部をもつ小型品。29は狭い坏底部から長い口縁部が外湾気味にのびる。中実の61は三方に円孔を穿つ。60、185は丸縁である。

b) 端部を肥厚し断面三角形とするもの(173・175・228・229)。棒形脚部をもつ中・大型品。175は肥厚した端部を下方に弱く曲げる。173は3方に、228は四方に円孔を穿つ。229は外面赤彩し、四方に円孔を穿つ。

c) 裾部形態は不明。坏付け根から大きく開く八の字形脚部をもつ(28・183・186・260)。28は内湾する坏部をもつ。183、186は四方に、260は3方に円孔を穿つ。

A2類 有文

a) 裾部が滑らかに広がり端部丸縁のもの(62)。横位に沈線を加えた上に、2枚貝腹縁によるジグザグの刻文を3段にめぐらす。

b) 端部を肥厚し断面三角形とするもの(176・231)。いずれも端部に4段の連続刺突をめぐらし、外面を赤彩する。

c) 端部を肥厚し断面四角形とするもの(264)。四方に円孔を穿つ。

B類 有段のもの 棒形脚部をもつ。

B1類 無文(25・172)。25は段部四方に円孔を穿ち、裾端部を肥厚する。172は段部を強く張り出す。

B2類 有文(23・171・245)。図が上下逆となっているが、23は裾端に円文を2段めぐらす。171は段部に円文をめぐらし、段上四方に円孔を穿つ。245は段上下に4段の連続刺突を加え、四方に円孔を穿つ。

(6) 器台形土器

(受部) 口縁部形態により大別した。

A類 外反口縁のもの(162・165・247・263)

162は端部を上下に伸張り外面に4孔一対の円文を加える。165は外面に幅の広い口縁帯をつくり、2個一対の円形浮文を貼る。263は棒状脚部から屈曲し坏部となるもので、口縁端部を肥厚し、247は、外面に面をとる。A

2 類脚・裾部で、肥厚した裾端は下方にゆるく曲げる。

B 類 有段口縁のもの(244) 大きく外傾する有段部には擬凹線を加え、外面赤彩する。

C 類 裝飾器台(27・187) 27は上下互い違いの涙滴状透かしを8個、187は円孔を10個穿つ。

(脚・裾部) 裾端部形態に脚形態を加味し大別した。

A 類 無段のもの

A 1 類 端部を下方にゆるく湾曲する(262)。脚部八の字形で、四方に円孔を穿つ。

A 2 類 端部を下方に強く折る(26・177)。177は鼓形である。

A 3 類 端部断面三角形となる(230・232)。ともに棒形脚部から大きく開く裾部をもち、四方に円孔を穿つ。230は外面を、232は内・外面を赤彩する。

A 4 類 端部を肥厚し、上方に折り上げ断面四角形となる(233・237)。棒形脚部をもつ233は四方に円孔を穿つ。237は孔数不明。

B 類 有段のもの

B 1 類 無文(246)。円孔を穿つが孔数不明。

B 2 類 擬凹線を加える。

a) 折り曲げる(174・235)。174は円孔を穿つが孔数不明。235は裾部を大きく広げる。

b) 内・外とも折り曲げは弱く、有段部上端を肥厚し突出させる(236)。

B 3 類 加飾する。

a) 端部を弱く曲げる(234)。腰高のもので、段部に2段、裾部に3段の連続刺突をめぐらす。円孔は6個と推測される。

b) 内・外とも折り曲げは弱く、有段部上端を肥厚し突出させる(261)。高坏の可能性もあるもので、段部に矢羽根状刺突を一段めぐらす。

C 類 小型品で、八の字形脚・裾のもの

C 1 類 裾が直線的にのびる(63・64)。63は3方に1孔ずつ、64は3孔一対の円孔を2ヵ所に穿つ。

C 2 類 外反する(65・184)。65は2孔一対を3ヵ所に、184は3方に1孔ずつ穿ち、裾部には2枚貝腹縁によるジグザグの刻文を3段程度めぐらす。

その他 178は八の字型で、脚部3方に円孔を穿つ。179は肉厚で中膨らみの鼓形脚部である。

## (7) 鉢形土器

器形により大別、口縁部または台部の形態により中別した。

A 類 無文・有段口縁のもの

A 1 類 口縁部高の低いもの。

a) 無文(189・250)。いずれも口縁部が外傾し、受け口状ともいえるものである。250は器内部下半に炭化物が残り、口縁部内側には蓋痕とみられる煤未付着範囲が円形に認められる。器肉の極薄い189とともに内・外面ともに磨きを加える精製品である。

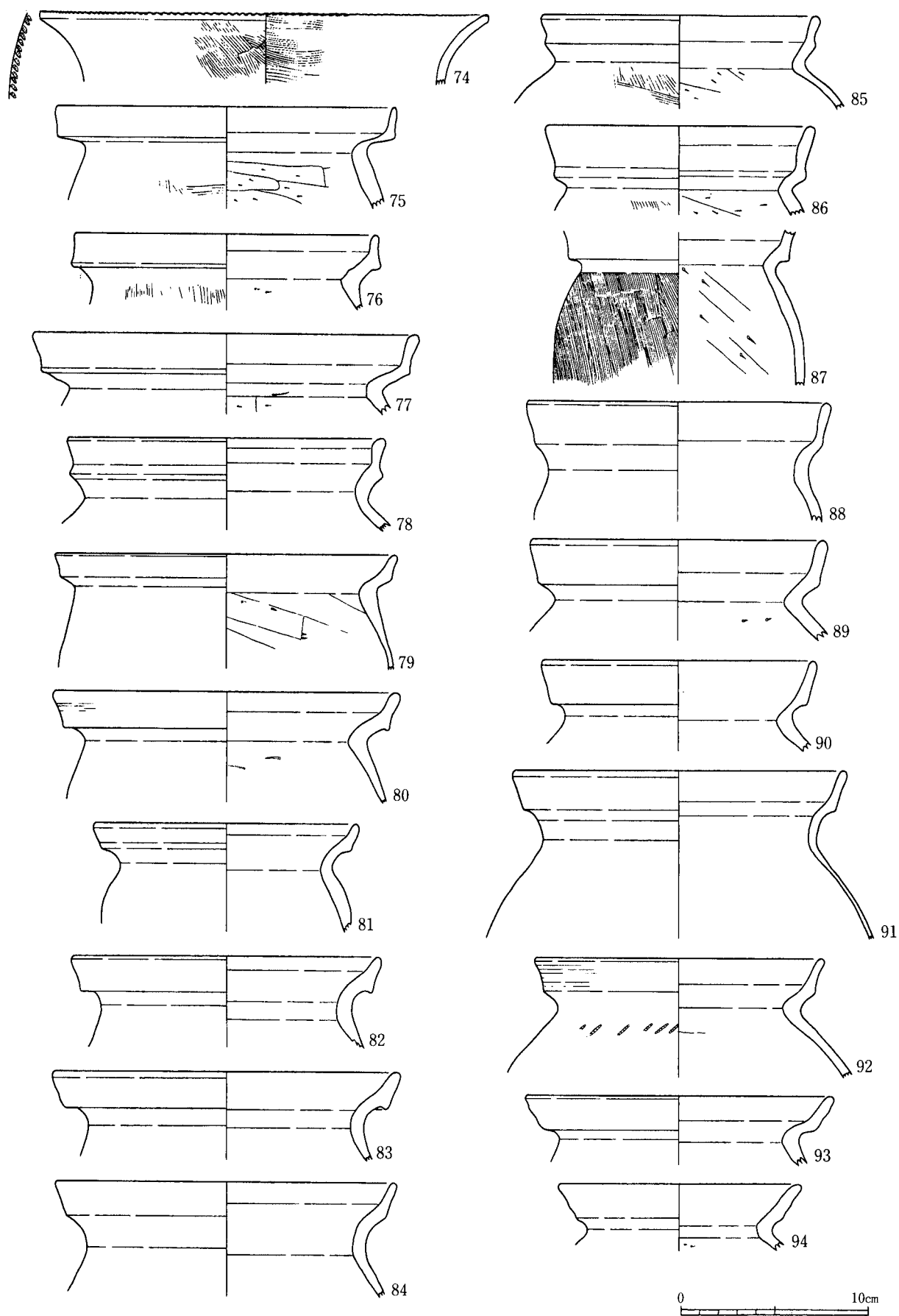
b) 受け口状を呈する(121・249)。近江系の技法をもつもので、胴上半に平行沈線をめぐらし、121は胴上半に、249は口縁部・胴上半に櫛歯刺突を加える。

A 2 類 口縁部高の高いもの(66)。段部下端の張り出しは弱く、断面凸帯状となる。

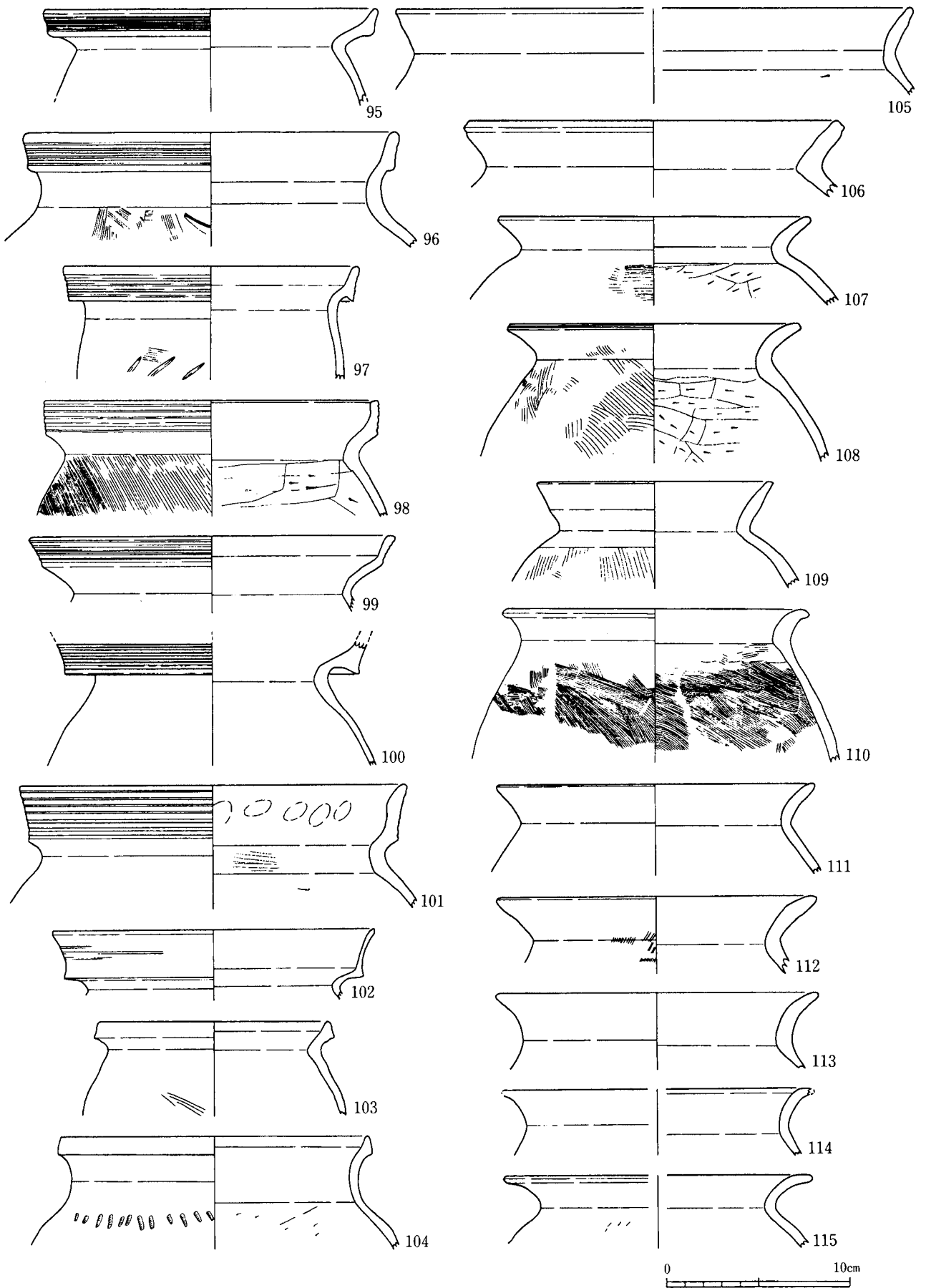
B 類 くの字口縁のもの(251) 口縁端部外面に面をとる。

C 類 小型丸底のもの 口縁部は有段状を呈し尖縁である。

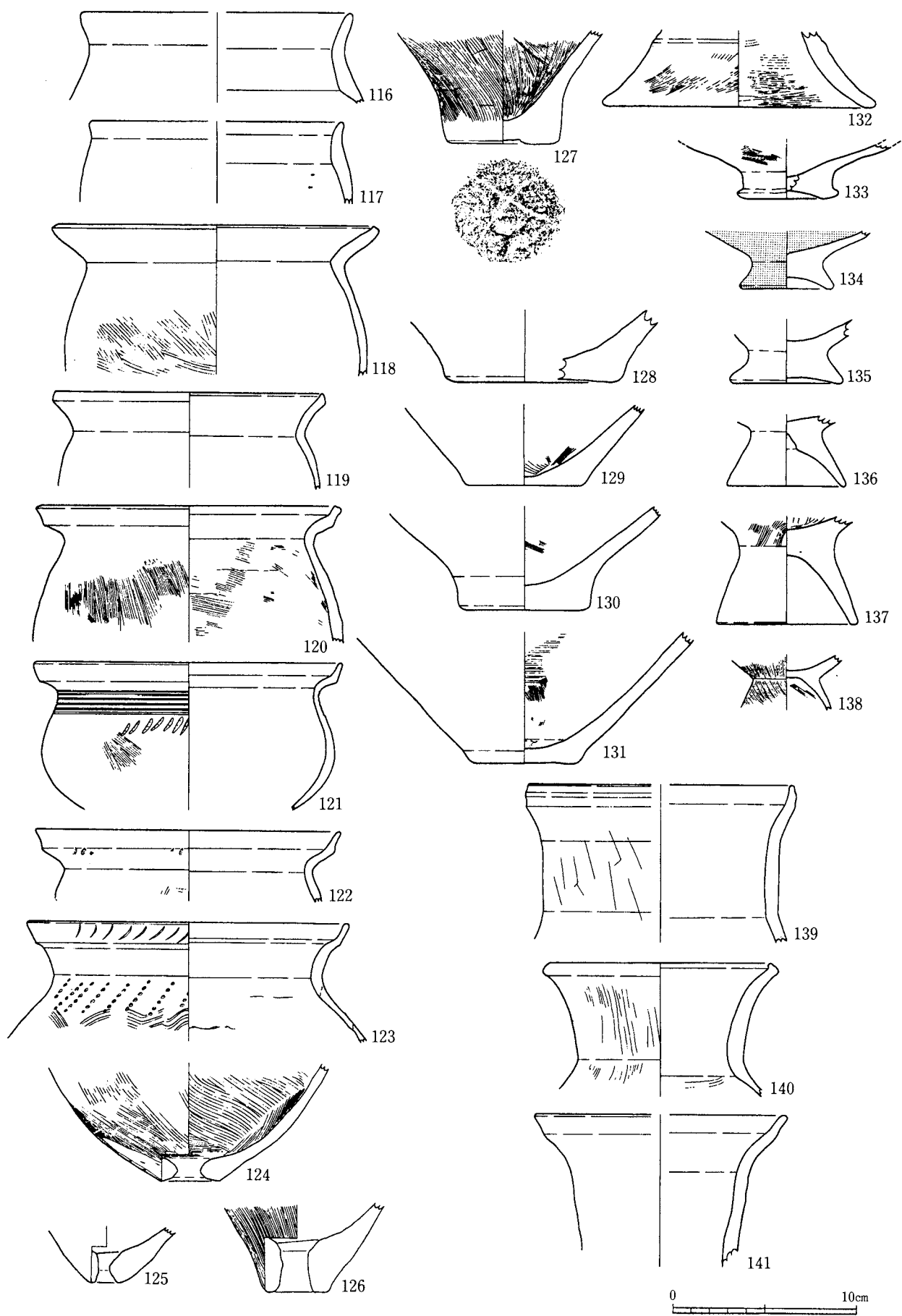
C 1 類 口縁部高の低いもの(192)。



第17图 下層大溝出土土器4 (S=1/3)

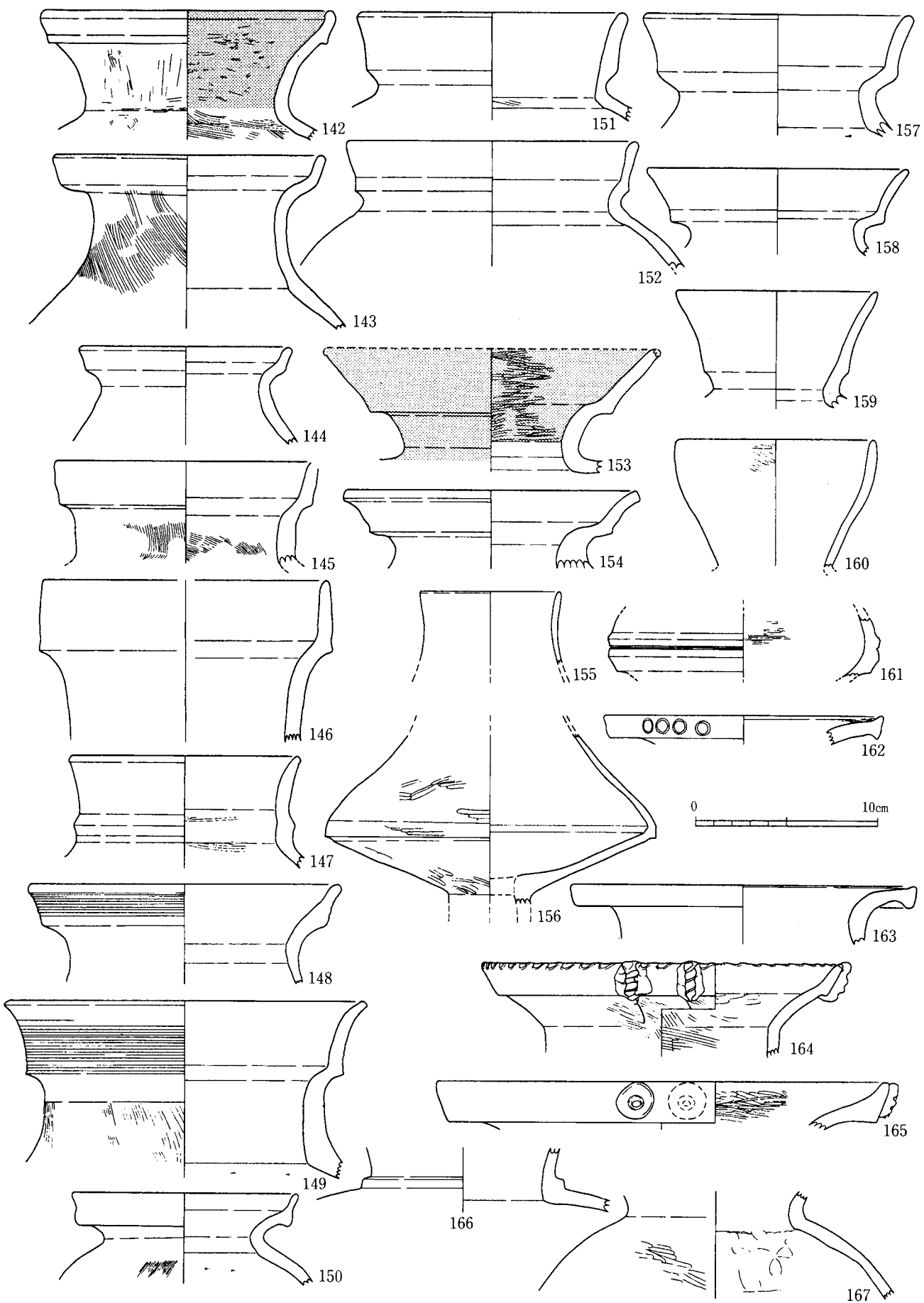


第18図 下層大溝出土土器 5 (S=1/3)

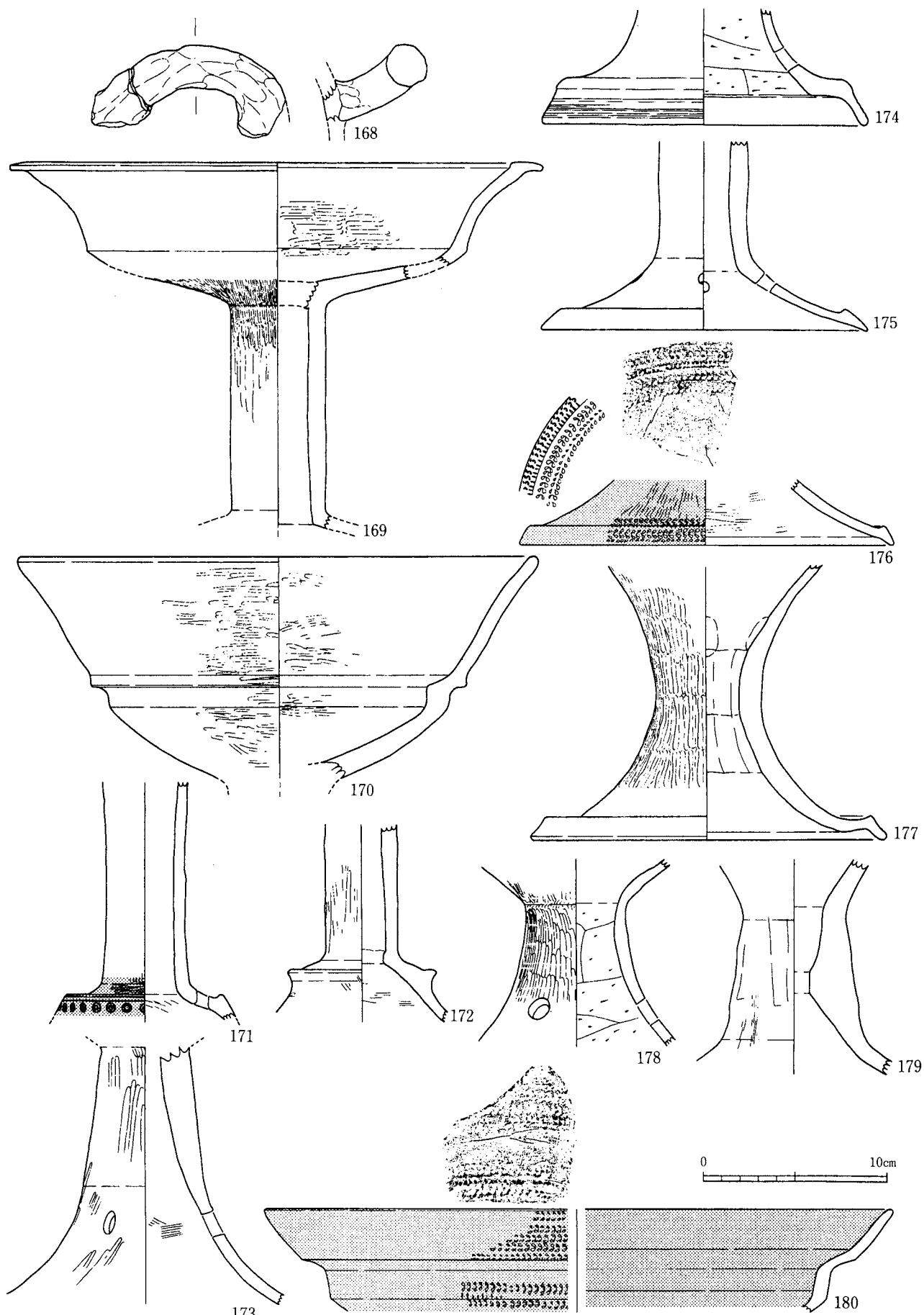


第19图 下層大溝出土土器 6 (S=1/3)





第20図 下層大溝出土土器7 (S=1/3)



第21図 下層大溝出土土器 8 (S=1/3)

C 2 類 口縁部高の高いもの(70・72)。70は頸部のくびれが弱い。

D 類 椀形・丸底のもの

D 1 類 無台(213)。深身のもので、底部からの立ち上がりは強く、幅狭の底部はわずかに凹み底である。

D 2 類 有台。台部から大きく広がる体部をもち、浅身の器形とみられる。台部形態により細分する。

a) 柱状・凹み底(133)。

b) 輪状(253)。

c) 円錐状・凹み底(134・135)。134は坏部内・外面を赤彩する。

E 類 大型鉢(190)有段口縁をもつとみられ、大きく開く脚台裾端を角張らせる。

その他 24は有孔鈕状の、168は輪状の把手で、大型鉢に付くものである。

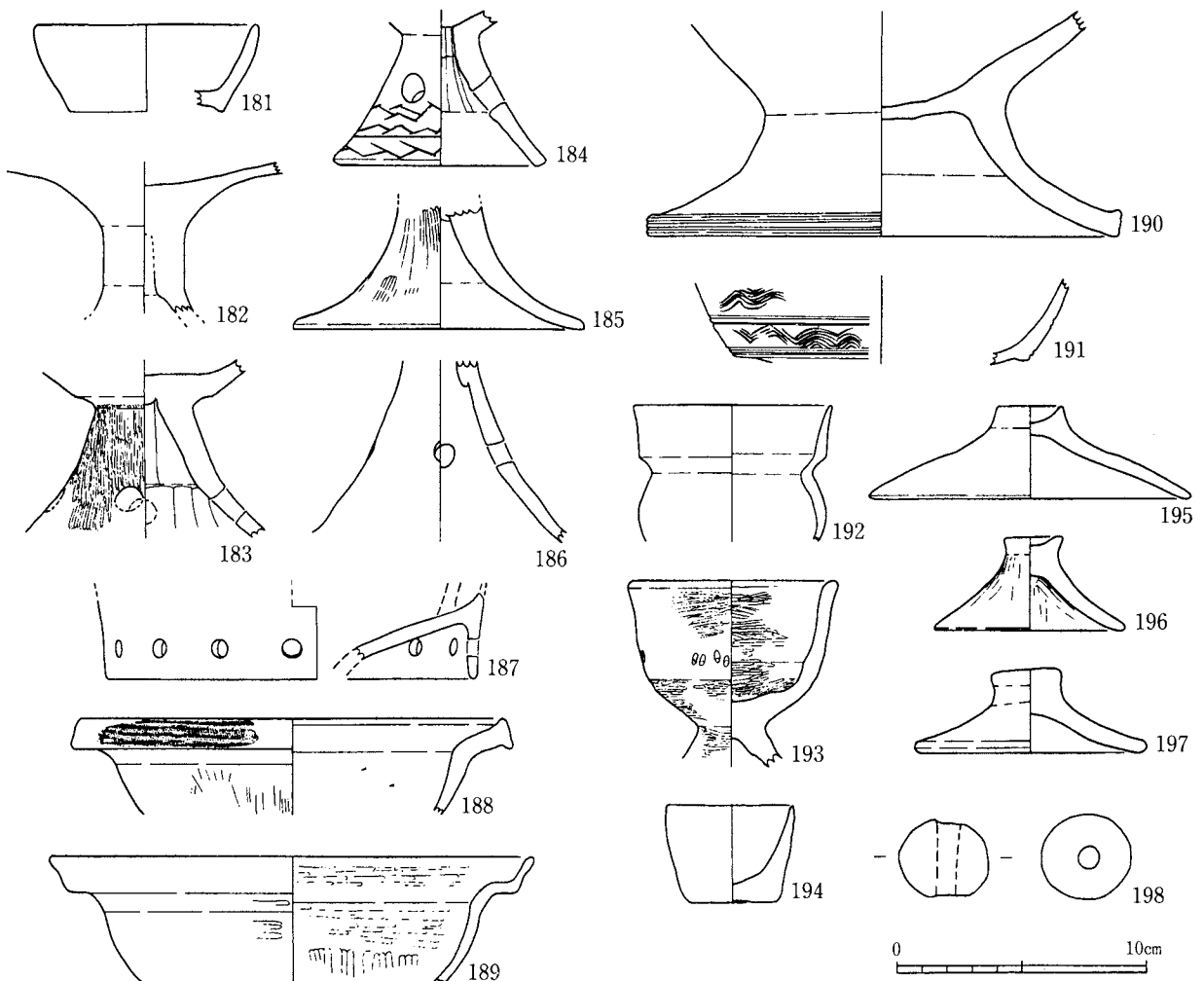
(8) 蓋形土器

器形により大別、裾部形態により中別した。

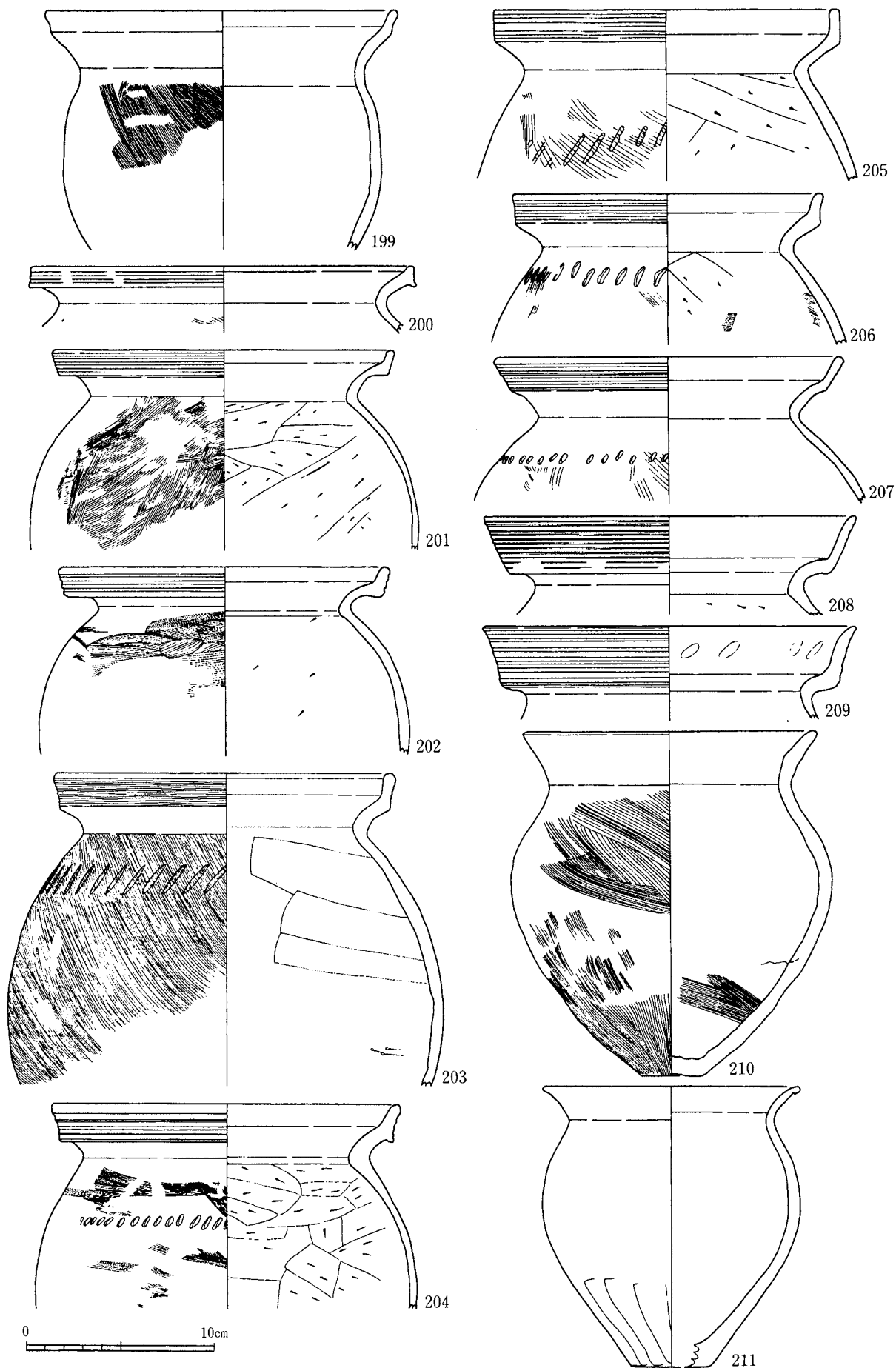
A 類 鈕部無孔、返りのないもの

A 1 類 裾部の外反するもの。

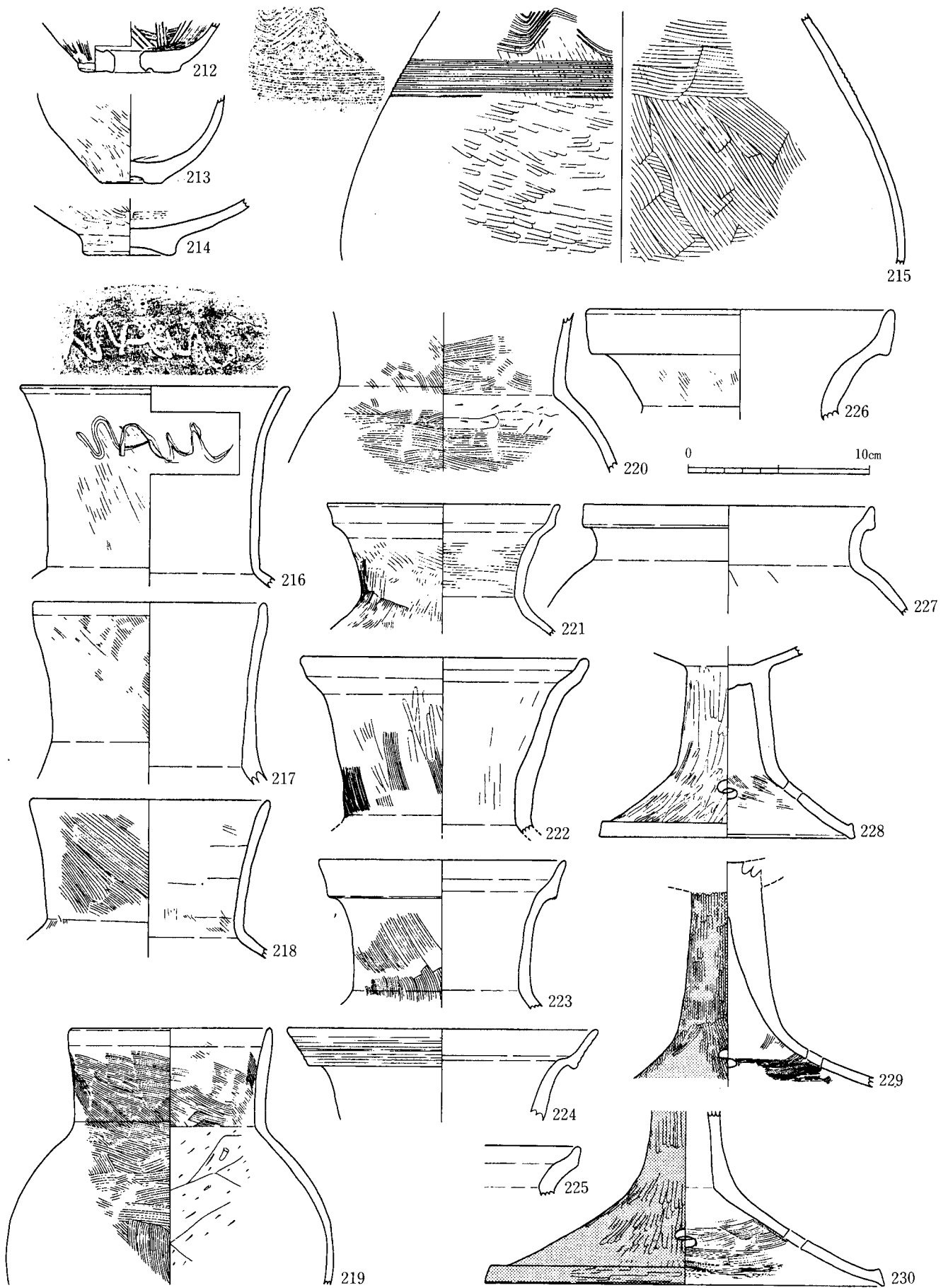
a) 鈕頂部平坦で、裾端部は丸縁(197)。



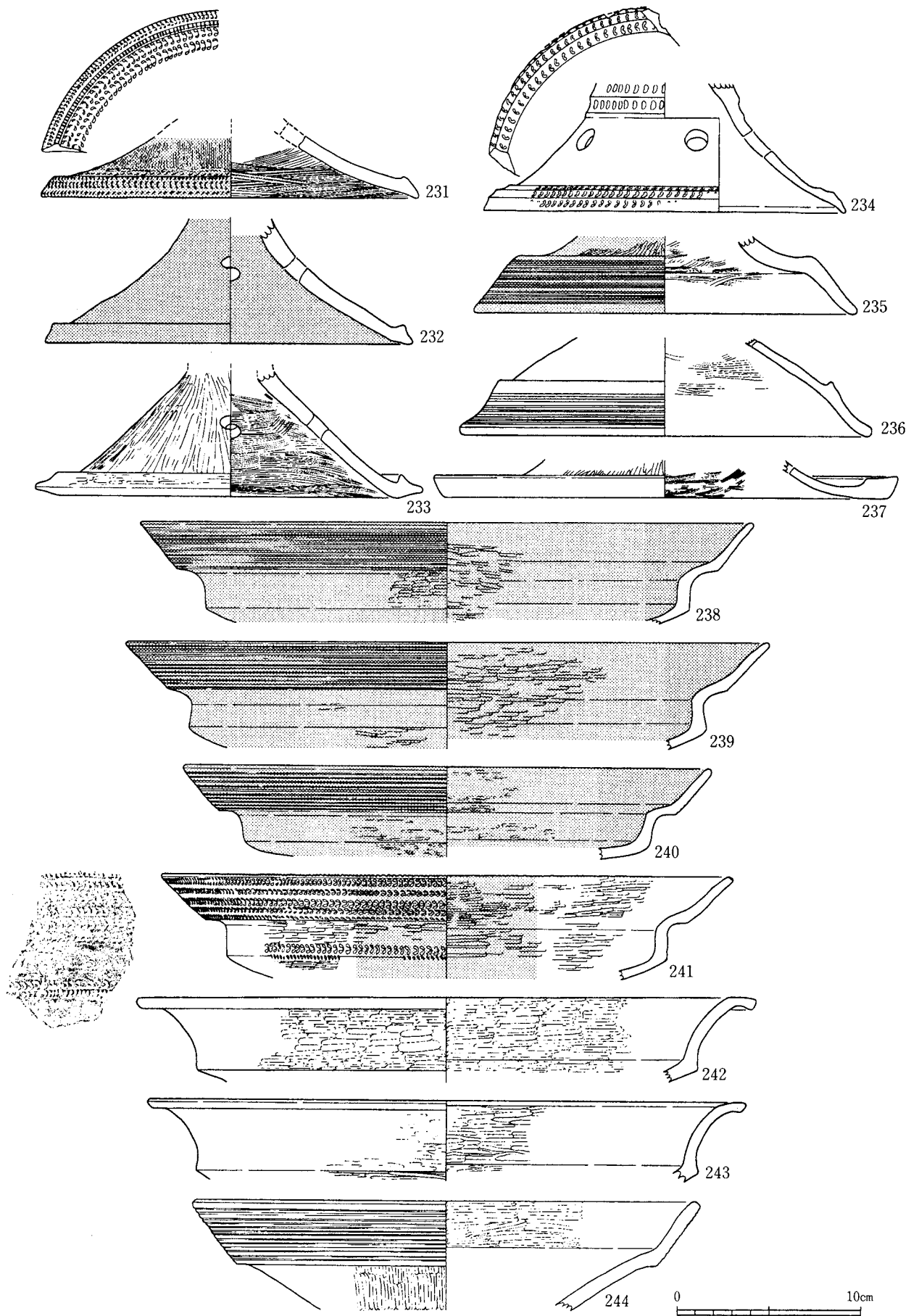
第22図 下層大溝出土土器9 (S=1/3)



第23図 下層大溝出土土器10 (S=1/3)



第24图 下層大溝出土土器11 (S=1/3)



第25図 下層大溝出土土器12 (S=1/3)

b) 鈕頂部が凹み、裾端部は丸縁(196)。

c) 鈕頂部が凹み、裾端部は角縁(12)。

A 2類 内湾するもの(195)。鈕頂部が凹み、裾端部は丸縁。

B類 鈕部無孔、返りをもつもの(67) 鈕頂部はわずかに凹み、体部は直線的に開く。外面を赤彩する。

C類 鈕部有孔、返りのないもの(252) 鈕頂部は凹み、体部は直線的に開く。

(9) 有孔鉢

体部は直線的または内湾気味に立ち上がる。底部形態により大別した。

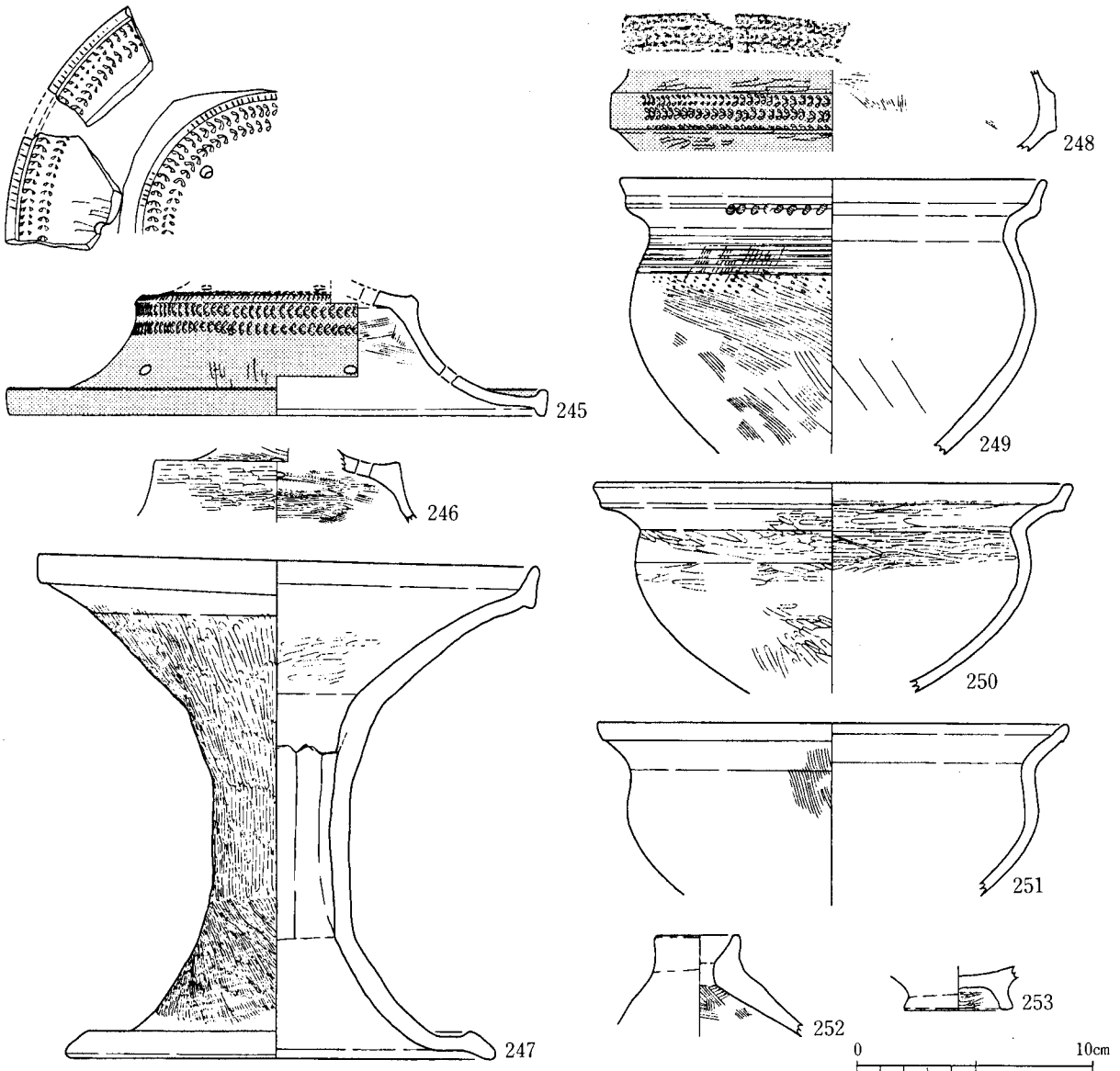
A類 尖底のもの(9・44・125)

B類 幅狭の平底のもの(43・124・126・212)

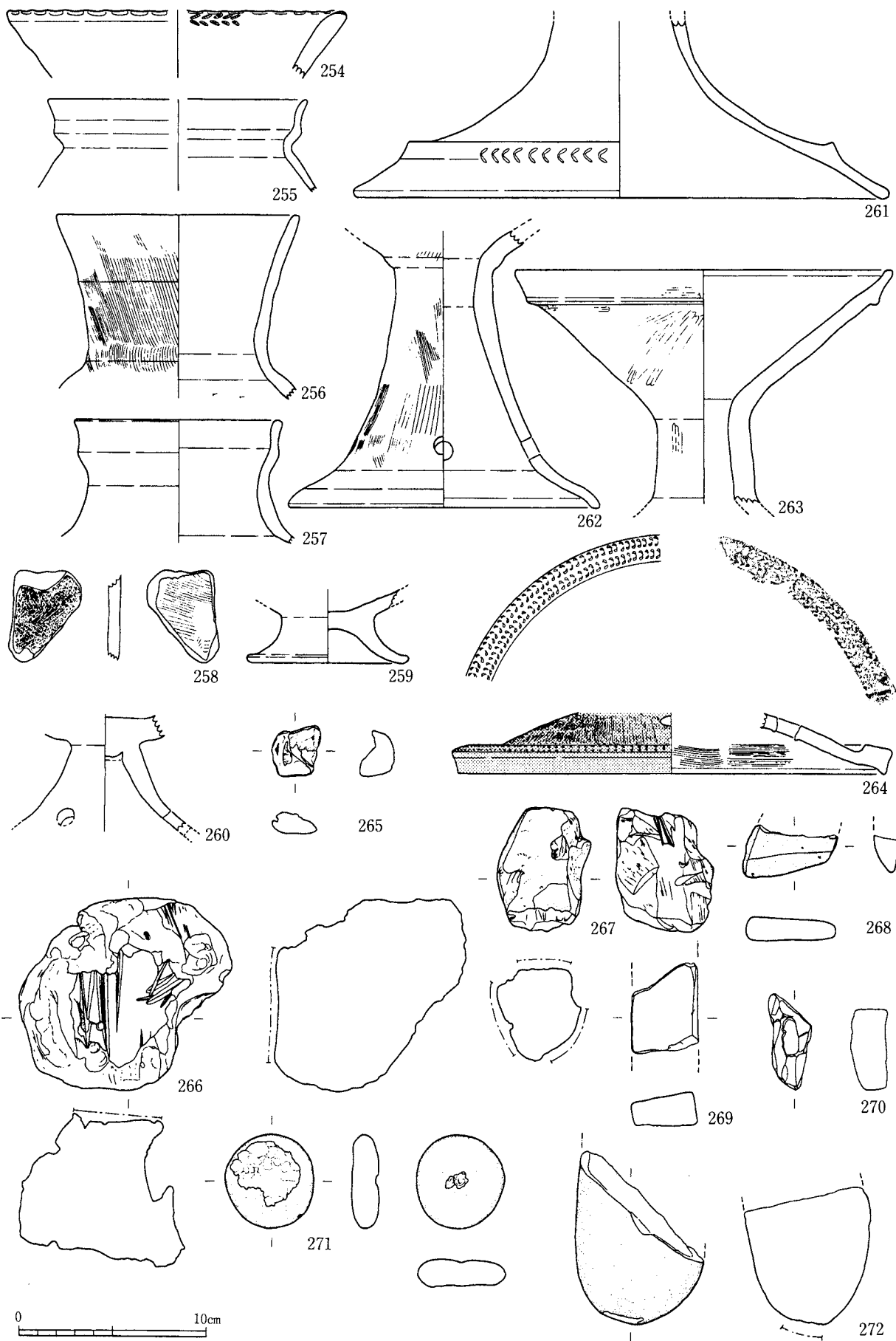
C類 柱状のもの(45)

(10)グイノミ形土器(194) 口径5.0cm、底径3.6cm、器高3.8cmを測る手捏ね土器であり、口縁部は不整。

(11)壺形ミニチュア土器(30) 底径3.9cm、手捏ね土器であり、ゆがんだ算盤玉状の胴部は最大径5.3cmを測る。



第26図 下層大溝出土土器13 (S=1/3)



第27図 下層大溝出土土器14・石器 (S=1/3)



(12)土錘(198) 直径3.5cm、孔径0.6cm、重量31.3gを測る。

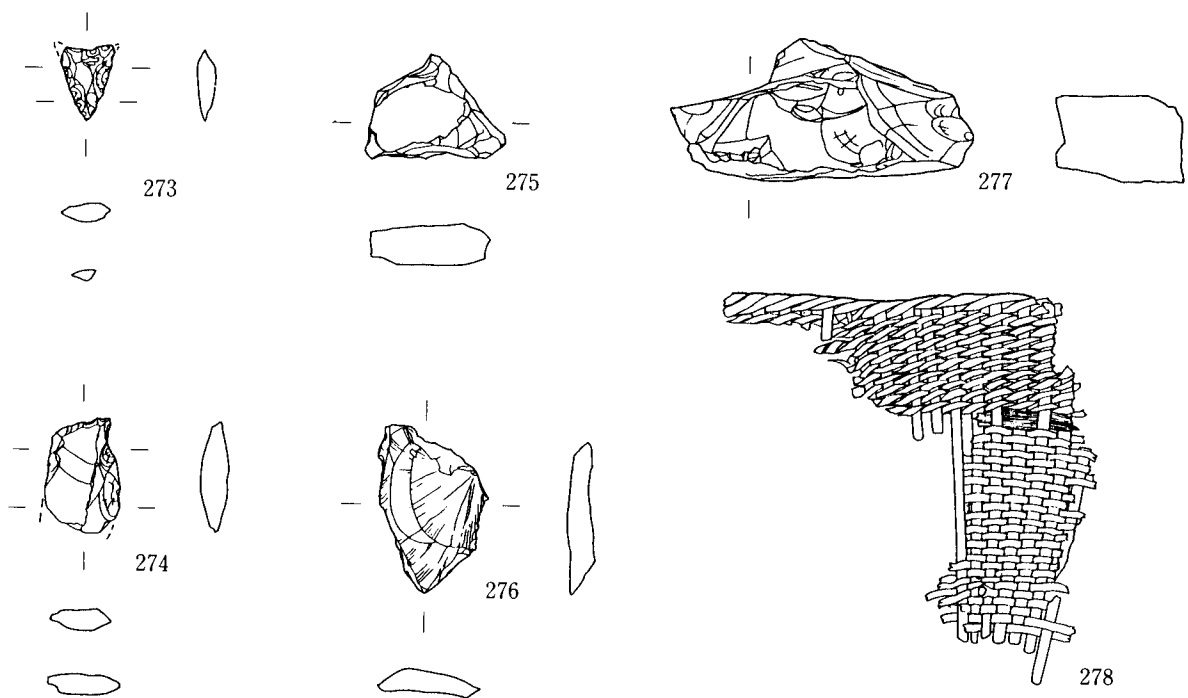
(13)その他 22は器種不明。口縁部に粘土紐を横位にジグザグに1条、短棒状に縦位に貼り付け、さらに、円形刺突を加える。258は横位および矢羽根状のへら描きを施す。

### 3. 石器類(第27図265～第28図277)

265～267は軽石である。265は1.5g、2-1区大溝1・2層出土。266は194.6g、1-2区大溝2層出土。砥石であり表面には4cm×6cmの面的な擦痕が1カ所、直線で断面V字の擦痕集中が3カ所に残る。中でも、ふれが少なく、研磨対象を良く写しているとみられるV字の擦痕は幅0.16cm、深さ0.25cmを測る。この軽石で、刃先角度35°程度の刀子状具を研いだと考えられる。267は26.0g、大溝3層出土。四周が弱く摩滅する。大溝からは他に11.8g、19.2gの軽石が出土している。269は44.4g、上層包含層の排土中出土、粗粒砂岩製の砥石で、右面を砥石として使用し、下面右端を若干欠く。271は51.6g、2-4区大溝3層出土。デイサイト製の凹石であり、上面に打撃を受け下面が広く剝離している。反欠する272は435.7g、2-4区大溝2層出土。花崗岩製であり、叩石、磨石として使用している。273は輝石安山岩製の石鏃で、1.1g。1・2区上層包含層出土。274は5.2g、2-1区大溝2層出土の剥片で、輝石安山岩である。275は11.4g、1-3区大溝3層出土の平板な緑色凝灰岩であり、玉類製作中途の石片とみられる。276は9.1g、2-2区大溝3層出土、輝石安山岩の剥片である。277は109.8g、3-1区大溝1層出土の石核である。

### 4. 篋(第28図278)

篋口縁部断片であり、1-3区大溝3層から土器・木器とともに出土した。口縁部残存幅8.9cm、残存高10.3cm。縁巻きされた口縁部下の9条はザル目編みともじり編みを組合わせ、その下はザル目編みを行なう。ザル目編みの上半27条は「1本越え1本潜り1本ずれ」で、続く2条は「2本越え2本潜り1本ずれ」で編んでいる。それ以下は破損する。使用部材の樹種同定は行なっていないが、縦材は幅0.3cm前後、横材は幅0.2cm前後、厚さはともに0.05cm～0.1cmを測る。口縁部縁巻にはやや幅広の材を用いている。また、ザル目編みの最上段2条は、やや



第28図 下層大溝出土石器他 (S=1/2)

幅広で筋の浮く暗色の薄い部材を用いておりモジリ編み部との境が明確化されている。278以外に底部付近を含む破片が存在した(図版23)。この破片から竈底部付近の形をうかがうと、底部は方形あるいは長方形で、底部から曲がり立ち上がる胴部も平面形が隅丸の方形あるいは長方形のものとみられる。図示した断片には2種の部材による3種の編み方が認められたわけだが、県内で類例を探すと、金沢市戸水C遺跡舟底状遺構出土の竈断片(石埋セ1986・山本1987)が挙げられる。部材は1種類であるが、編み方は同じ3種を用い、時期的にも弥生時代後期後葉と同時期の所産であり注目される。

## 5. 木製品(第29~46図、第10~12表)

木製遺物は、主に下層大溝3層から出土した。その量はコンテナパット30箱相当を数え、ほとんどが何らかの加工痕をもつ。大部分は破損などの理由により廃棄された製品と考えられ、少量だが使用痕をもたない完形の製品、未製品なども含まれる。形状では用途不明の棒が、樹種では広葉樹の占める割合が多い印象を受ける。また下層1号井戸覆土からは木鏃1点が出土した。

### 農耕具

鍬・鋤類5点(279~283)、編台目盛り板1点(295)があり、いずれも破損などの理由により廃棄されたものと考えられる。

279は半分程度が残存する直柄広鍬の身である。残存長27.5cm、残存刃部幅12.6cm、歯部の厚さ0.6cmを測り、刃部幅は約22.4cmに復元できる。刃縁と刃部側面の境を丸く仕上げ、頭部はくびれながら柄孔とほぼ同じ高さに長方形の小突起と内側に傾斜した方形孔(長辺1.4cm、短辺1.1cm)をもつ。この小突起と方形孔を組み合わせる泥除け装着法は、全国的にみても類例が少ない。また柄孔は長軸径5.0cm、短軸径3.9cm、柄の装着角度約50度を測る。柄孔の周囲には上が丸く、下が尖った明瞭な舟形突起が認められる。刃部は前後面とも使用による擦痕が残る他、刃縁の欠けが顕著である。ブナ科アカガシ亜属の材を板目取りする。

280は又鍬または又鋤の刃部で、残存長20.5cm、幅5.5cm、厚さ1.4cmを測る。前面は平坦であるのに対して、後面は側面との境をなだらかに仕上げる。入念な加工を施した刃縁は、使用による摩滅が顕著である。ブナ科アカガシ亜属の材を板目取りする。283と同一個体の可能性をもつ。

281は類例はなく、柄部の装着方法などに疑問を残すものの狭鍬の一種と考えた。残存長54.0cm、幅7.8cm、厚さ1.2cmを測り、上端面を平滑に仕上げる。不規則な凹凸をもつ側面を含めて木痩せが著しいため、加工痕は残っていない。頭部に略三角形を呈する柄孔(2.8×1.9cm)を穿ち、側面の対応する位置にくびれをつくる。この柄孔とくびれにより、柄部を装着したと考えられる。柄孔には柄部装着に伴う欠けが認められる。スギ科スギを板目取りする。

282は軸頭部を欠損した組み合わせ鋤の身で、残存長37.9cm、幅14.3cm、厚さ1.3cmを測る。軸部と刃部の境は明瞭に屈曲、刃部は中央付近で最大幅をもつ。刃部中央付近に2孔一対の孔を穿つ。その形態は五角形に近い半円状を呈し、長さ3.5cm、幅2.4、2.7cmを測る。前面は側面の湾曲に合わせた幅1.5cm程度の丁寧な加工痕を残すのに対して、後面は木痩せのため不明となる。柄下端を紐結合で固定するタイプと考えられ、金沢市畝田遺跡、羽咋市吉崎・次場遺跡などに類例が認められる<sup>(1)</sup>。スギ科スギを板目取りする。

283は、いわゆるナスビ型の曲柄又鍬の身で、笠部の下にくびれ部から外湾しながら幅を増す。残存長12.9cm、残存幅9.6cm、厚さ1.3cm、笠部の復元幅約11cmを測る。側面は丁寧に面取りをおこなう他、前面には使用による擦痕が認められる。ブナ科アカガシ亜属の材を板目取りしたものである。281と同一個体の可能性をもつ。

295は俵・ムシロなどの藁製品を編む道具の一部である編台目盛り板と考えた。高さ9.4cm以上、幅115.0cm、厚さ2.4cmを測る。両面とも木目にそった幅3~5cmの加工の後に、上方に向け先細り気味に加工を加える。上端には幅約92cmにわたり、断面台形を呈した刻みを79ヶ所つける。刻みは幅6~8mm、深さ4~5mmと間隔を含めて

若干のバラツキをもち、使用による欠け・摩耗が認められる。また下半には不規則に3cm前後の方形・長方形孔を5ヶ所に穿つ他、中央部付近に2ヶ所一対となる略方形のくぼみが残る。これらの他材との結合痕のうち、最も側面寄りの左右対称に近い3孔(図でいえば、最上部2孔一対と最下部1孔)は、脚部との結合孔と考えられるが、他の結合痕は用途不明である。果たして編目盛り板であるかを含め、類例の増加を待ちたい。スギ科スギを板目取りしている。

### 紡織具

経(布)巻具と考えられる2点(284、296)が出土した。284は長さ48.4cm、幅3.6cm、厚さ1.6cmを測る。上面は、中央部に幅6.3cmにわたり一段深く彫りくぼめ、また両端に紐かけ部分を削りだす。下面は平坦に仕上げる。樹種はスギ科スギで、木取りは柾目取りとなる。296は長さ87.9cm、幅4.2cm、厚さ1.6cmを測り、断面方形を呈する。284とは異なる方法で両端に紐かけ部分を粗く削り出す。中央部をかなり外れた位置に隅丸長方形の凹部があり、さらに幅2.3~2.4cm、深さ0.2cmの再加工が認められる。スギ科スギを板目取りしたものである。なお284は紐かけをもつ部材の可能性もある<sup>(2)</sup>。

### 食事具

器台1点(285)、桶2点(286、287)、盤・槽1点(288)、皿1点(290)、杓子形木製品(289)の他、桶底板を含むと考えられる円形板(291~294)を加えた。うち桶蓋、杓子形木製品、円形板各1点は完形品となる。

285は底径47.4cm、残存高10.2cmを測る大型の優品である。器台脚部と考えたが、奈良県日葉酢媛命陵古墳出土高坏形石製品との類似性から高坏の可能性を残す<sup>(3)</sup>。突帯状の稜1条で装飾した脚裾部は、入念な表面加工を施すため光沢を有する。その上部は段をなし、台形・逆台形を交互に組み合わせた透かし彫りをおこなう。透かし孔は16ヶ所に認められ、孔の平均的大きさは上辺1.8cm、下辺4.5cm、高さ6.5cmを測る。底部・脚部内面には不整方向の粗い工具痕が残る。また底部外面を凸状に彫りくぼめるが、木痩せのため加工痕は残っていない。イチイ科カヤを柾目取りしている。

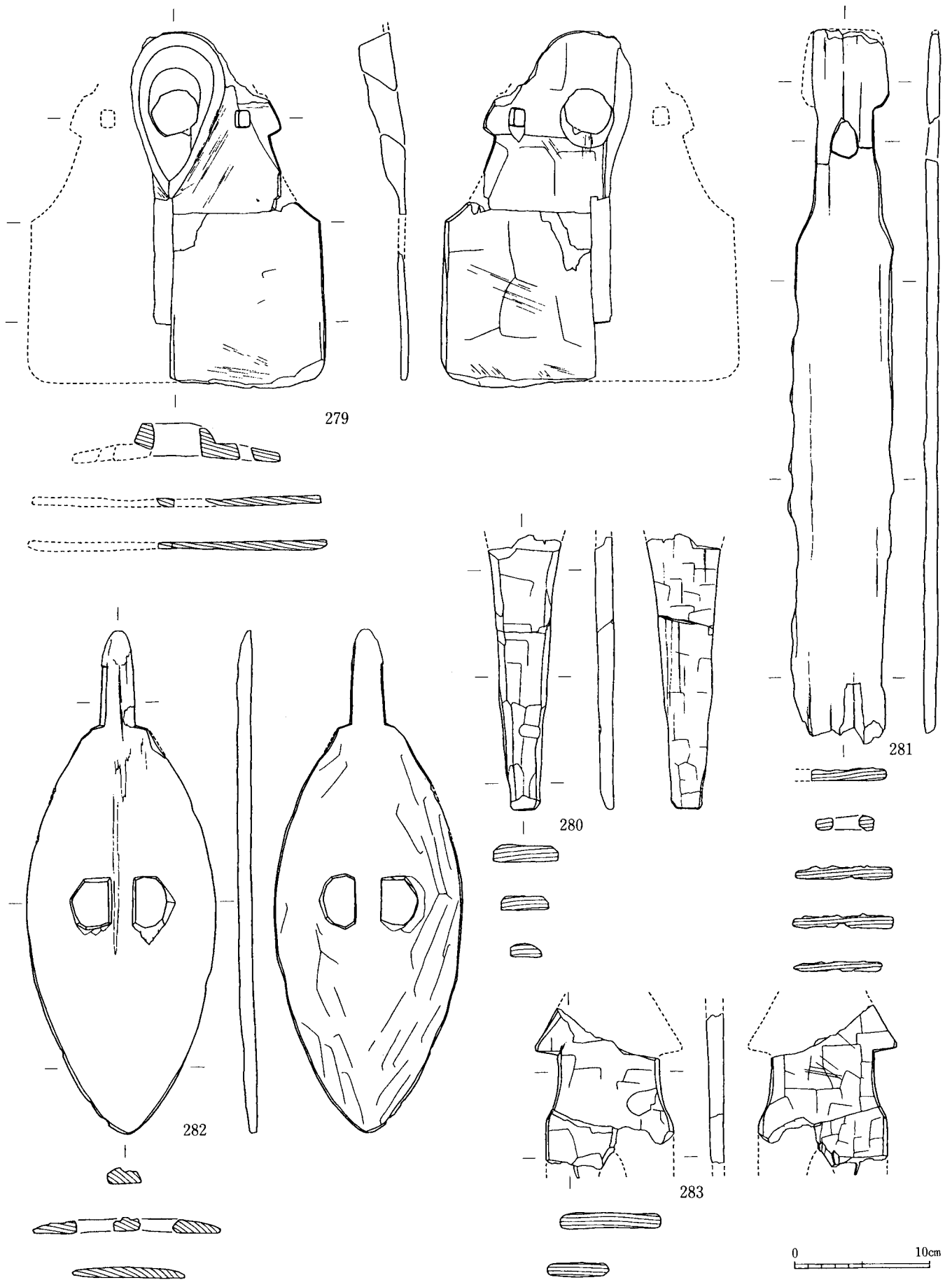
桶は側板1点(286)、蓋1点(287)がある。側板286は別作の底板を上部から落とし込むタイプで、底板を固定する部分には鈍い稜が認められる。口縁部外径21.6cm・内径19.2cm、底部外径21.4cm・内径18.8cm、底板を固定する部分の内径17.8cm、高さ19.1cm、容量約3.5ℓを測る。また厚さは1.2~1.8cmを測り、下部ほど厚みを増す。上下方向にかすかに工具痕が認められ、スギ科スギを柾目取りしている。蓋287は口径23.2cm、高さ4.8cmを測り、天井部より次第に厚さを増す。一対の内傾気味の径4.8~5.2cmの紐孔突起をつくりだし、中心部寄りに径1.0cmの紐孔を穿つ。外面は木痩せにより加工痕はみえないが、内面には湾曲にあわせた幅3~5mmの入念な加工痕が残る。また3ヶ所に樺革を使用した補修が認められ、スギ科スギを柾目取りしている。金沢市西念・南新保遺跡などに類例がある<sup>(4)</sup>。

平面隅丸(長)方形を呈する盤・槽288は、四隅に脚が付すと考えられる。残存長22.5cm、残存幅10.3cm、高さ12.4cm、脚高4.2cm、身の深さ7.2cmを測る。また厚さは底部が0.9~1.1cmであるのに対して、体部は2.3cmと厚みを増す。体部と底部の境は明瞭に屈曲し、体部は外反気味に立ち上がる。平面隅丸長方形を呈する脚は直立し、接地面は広めの平坦面をもつ。ニレ科ケヤキ属の材を板目取りしている。

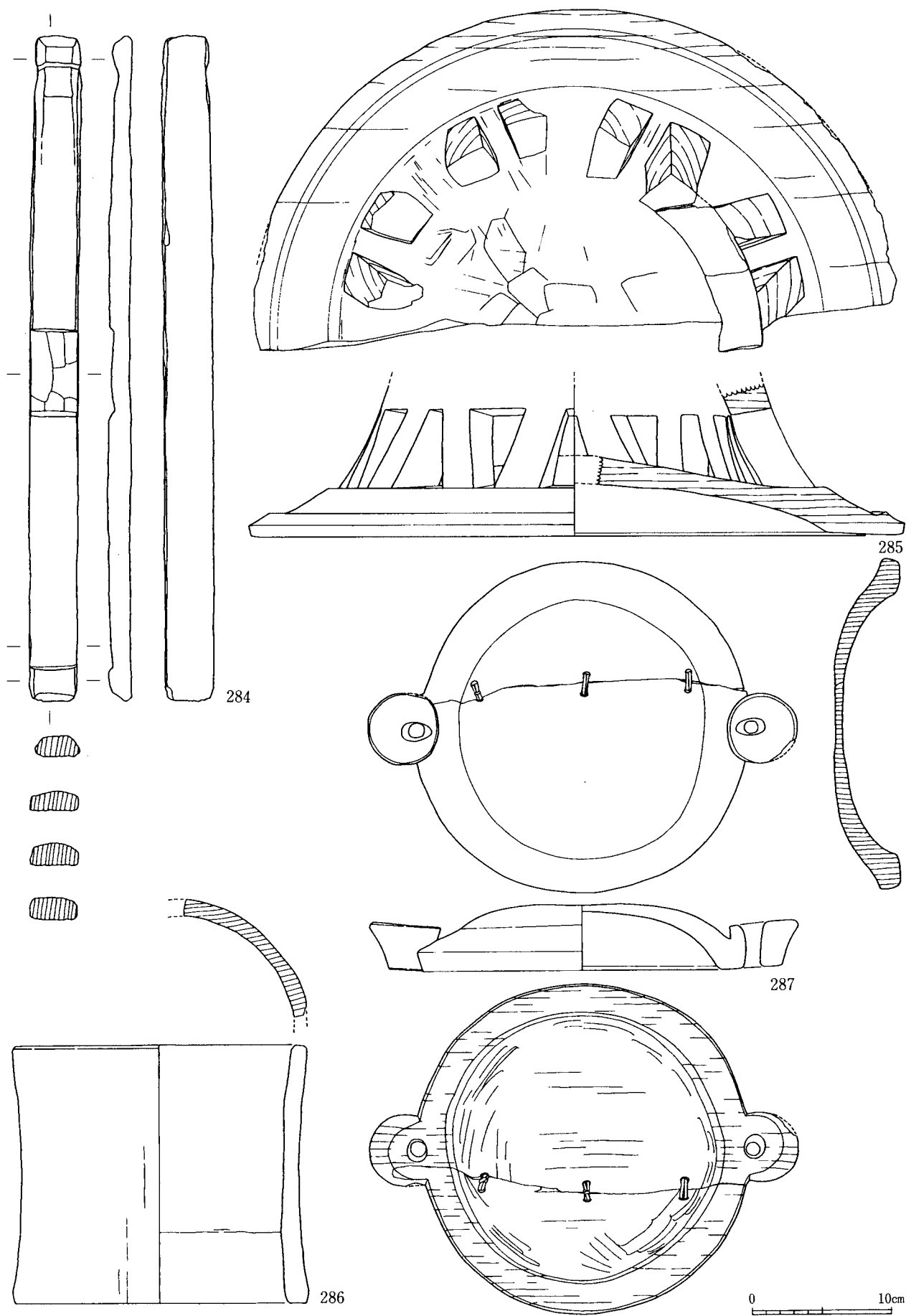
隅丸方形を呈する皿290は、長さ23.1cm、残存幅9.4cm、高さ1.9cm、身の深さ0.7cmを測る。口縁部の平坦面の幅は一定せず、身の彫り込みは緩やかなカーブを描いて体部と底部の境は明瞭でない。外面底部~体部は幅3cm程度の3段の丁寧な加工により、湾曲をつくりだす。樹種はニレ科ケヤキ属で、木取りは柾目取りである。

杓子形木製品289は完形品で、全長25.0cm、身部幅6.7cm、柄部幅2.0cm、厚さ0.6cmを測る。側面は丸味を有し、身部から柄部へは後面からの2度の加工により緩やかに移行する。身部先端は、両側とも使用による摩滅が顕著である。スギ科スギを板目取りする。その形状から主な用途は攪拌と考えられる。

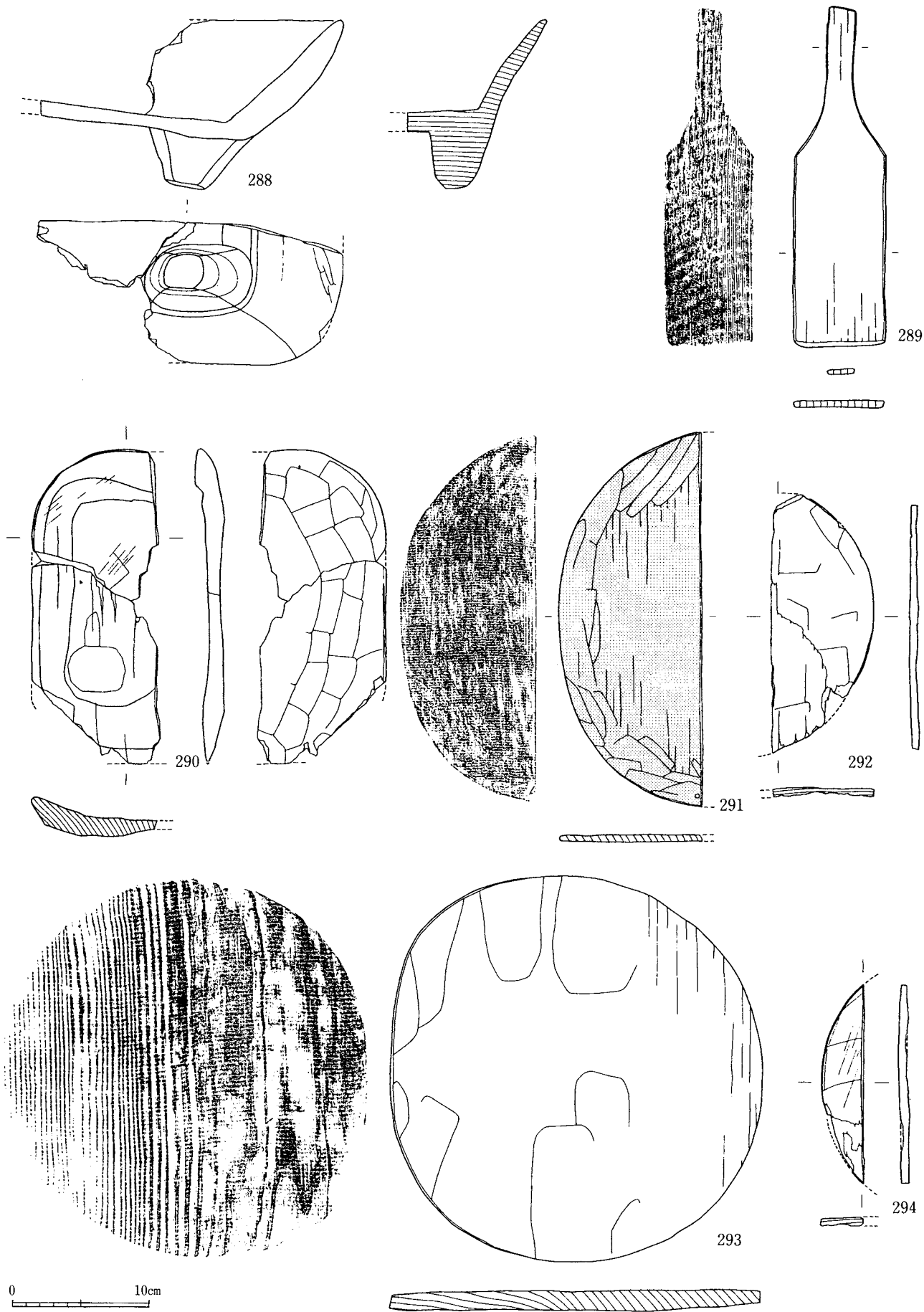
円形板291~294のうち、291は両面を赤彩した優品となる。291は残存長27.5cm、残存幅10.5cm、厚さ0.6cmを測



第29図 下層大溝出土木製品1 (S=1/4)

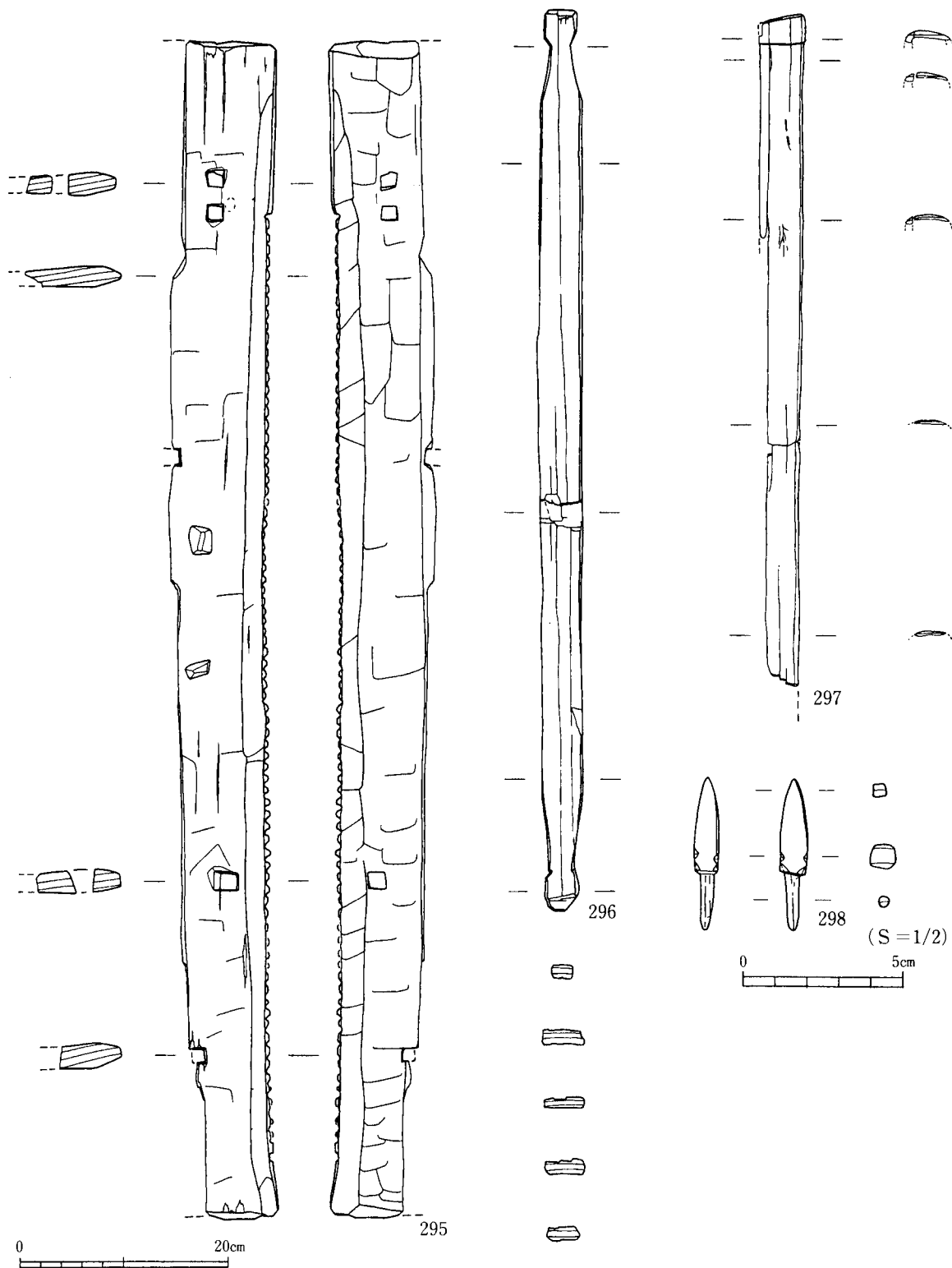


第30図 下層大溝出土木製品2 (S=1/4)



第31図 下層大溝出土木製品 3 (S=1/4)

り、径は30cm弱に復元できる。両面とも木目方向にそった加工の後、縁部に幅0.6～1cmの入念な加工を加える。また孔径0.3cmを測る円孔を1ヶ所に穿つ。両面とも赤褐色を呈し、鑑定をおこなっていないがベンガラを塗布したものと考えられる。スギ科スギを柁目取りする。292は復元径19.5cm、厚さ0.6cmを測る。木目方向にそった加工痕が認められ、裏面には径0.2cm程度の凹部が2列残る。スギ科スギを板目取りする。293は桶底板の可能性をもつ。崩れた略円形を呈し、径27.3～28.5cm、厚さ1.6cmを測る。前・後面とも木目にそった幅約4～6.5cmの加工痕が残る。側面は平坦で、木釘などの痕跡は認められない。スギ科スギを板目取りする。294は292と同一個体



第32図 下層大溝出土木製品4 (S=1/6、1/2)

の可能性をもつ。復元径20.0cm、厚さ0.7cmを測る。前面には木目にそった幅3cm以上の加工の後、縁部のみ側面の湾曲にそった加工を施す。後面は木痩せが著しいため加工痕はみえない。スギ科スギを板目取りする。

## 武器・祭祀具

鞘状木製品(297)、木鏃(298)、刀形木製品(299)を分類したが、他に352が弓の可能性をもつ。実用の武器として使用したものか、祭祀的用途に使用したものか判断はつかないが、木鏃、刀形木製品に関しては完形での出土であることから、後者の可能性が高い。

鞘状木製品297は残存長65.3cm、幅4.4cm、残存厚1.0cmを測り、図左側が背、右側が腹と考えられる。鞘口端部を斜方向に整形し、鞘間とは1～2mmの段をなす。断面は外面は丸味を有するのに対して、内面は背を底辺とする長三角形を意識したものとなる。スギ科スギを板目取りする。

木鏃298は、全長4.9cm、身長3.0cm、茎長1.9cm、身幅0.8cm、茎径0.4cmを測る。身断面が若干崩れた方形を呈することから四稜鏃に分類される。身は各面とも平坦に仕上げ、各稜の下部および下端に刻みを入れる。若干の屈曲が認められる基部は上方から入念な加工をおこない、端部を尖らせる。使用痕跡が認められないことから、未使用品もしくは非実用品となろう。金沢市下安原海岸遺跡から身部が独楽状を呈した類似形態が2点出土している<sup>6)</sup>が、細部の表現方法や整形などに差異が認められる。ともに金属製韓式鏃を模したものと考えられるが、現時点では金属製鏃を含めて類例がほとんどない。なお樹種鑑定は実施していない。

刀形木製品299は、全長82.6cm、把部長18.2cm、刃部長64.4cm、刃部最大幅5.0cm、把部最大幅5.1cm、刃部厚1.2cm、把部厚1.2cmを測る。刃部は9ヶ所に三角形を呈した諸刃の凸部を表現し、各凸部の大きさは幅4.5～5.5cm、高さ1.3～1.5cmと若干のバラツキをもつ。把部は把縁、把間、把頭とも丁寧に表現され、把頭は大きく反る。また把部断面は丸味を有し、持ちやすいように加工する。樹種はブナ科アカガシ亜属で、木取りは板目取りである。武器・祭祀具の他に形態の類似性から「スリササラ」としての用途も想定可能であるが、類例が少ないため今後の資料の増加を待ちたい。

## その他

### a) 小形製品

ほぼ完形を保った小形の製品を集めた。現段階では用途不明のものが多い。栓(300)、柄状木製品(301)、不明木製品(303、304)、楔形木製品(305、306)がある。

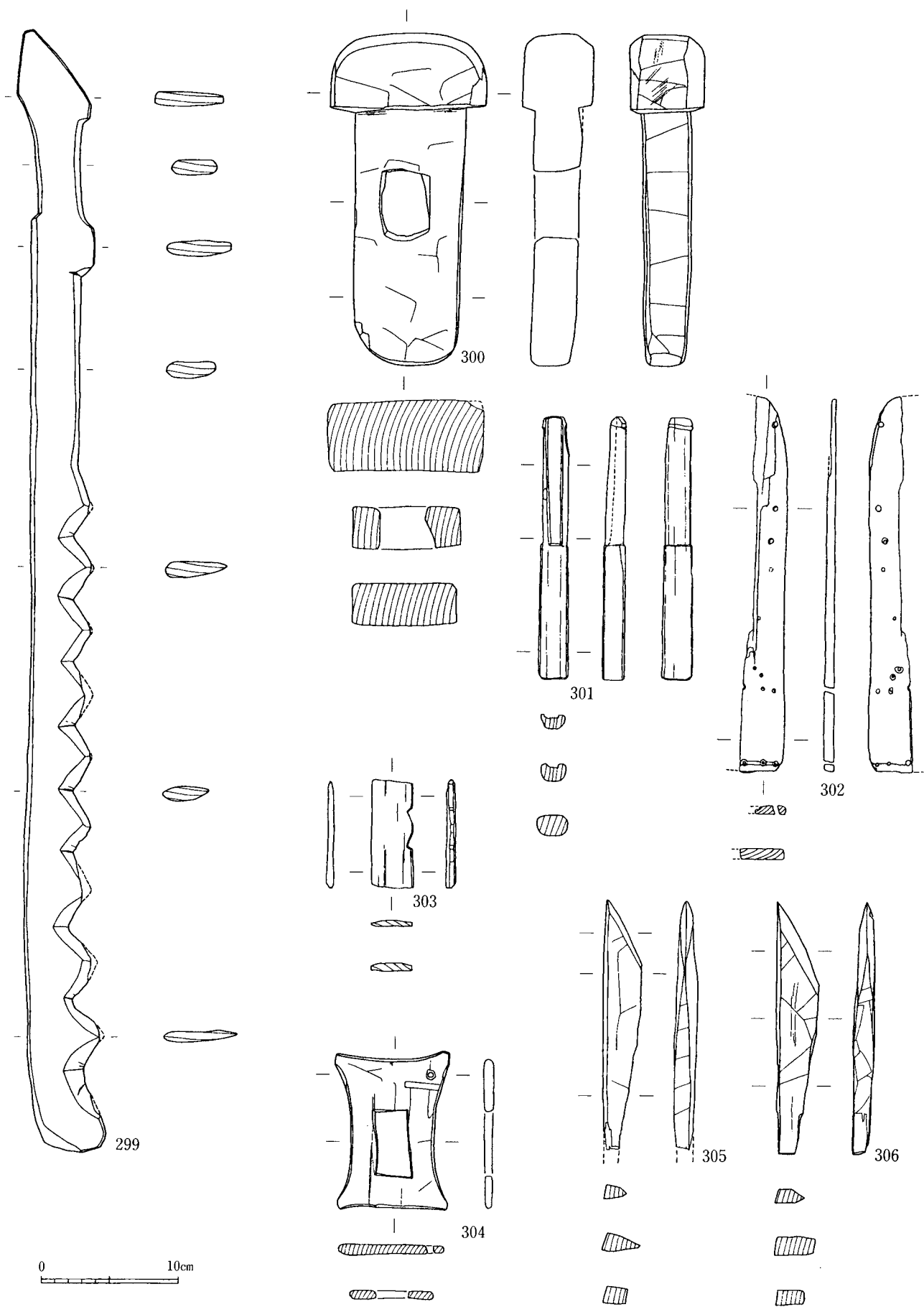
ほぼ完形の栓300は、全長24.5cm、頭部幅11.5cm、頭部厚5.2cm、身部幅8.2cm、身部厚3.1cmを測る。丸く仕上げた頭部上端以外は、比較的粗い加工を施す。身部中央付近にやや崩れた隅丸方形孔(長辺5.3cm、短辺3.7cm)を後面より穿つ。全面に擦痕が残ることから、使用后廃棄されたものと考えられる。スギ科スギを板目取りしている。

完形の柄状木製品301は便宜上、上半を身部、下半の把部とする。全長19.3cm、身部長9.3cm、把部長10.0cm、身部幅1.8cm、把部幅2.2cm、身部厚1.4cm、把部厚1.6cmを測り、断面はやや崩れた楕円形を呈する。身部前面の抉りおよび先端の突起を用いて他材を装着したと考えられる。身部前面の抉りは幅0.9～1.2cm、深さ0.5cmを測る。スギ科スギを板目取りしている。

303は長さ3.1cm、幅7.8cm、厚さ0.6cmを測り、上端2ヶ所に刻みをもつ。断面は中膨れ気味で、両側面の切断は、中途よりへし折った雑なものとなる。スギ科スギを板目取りしている。304は4側面とも内湾した長方形の板で、長さ11.7cm、幅8.4cm、厚さ0.9cmを測る。側面との境を丸味をもつように入念な加工を施す。また中央下寄りに崩れた長方形孔(長辺4.9cm、短辺2.6cm)、上方右側に小孔(径0.4cm)を穿つ。スギ科スギを板目取りしている。紐などの巻き具の可能性が考えられる。

305、306は形態が酷似した楔形木製品である。上端を斜方向に切断した後、諸刃に仕上げる。また下半は左側面を丁寧に加工し、先細らせる。305で残存長18.4cm、最大幅2.8cm、厚さ1.5cm、306で長さ18.7cm、最大幅3.1cm、





第33図 下層大溝出土木製品 5 (S=1/4)

厚さ1.5cmを測る。ともにスギ科スギを柾目取りしている。

#### b) 板

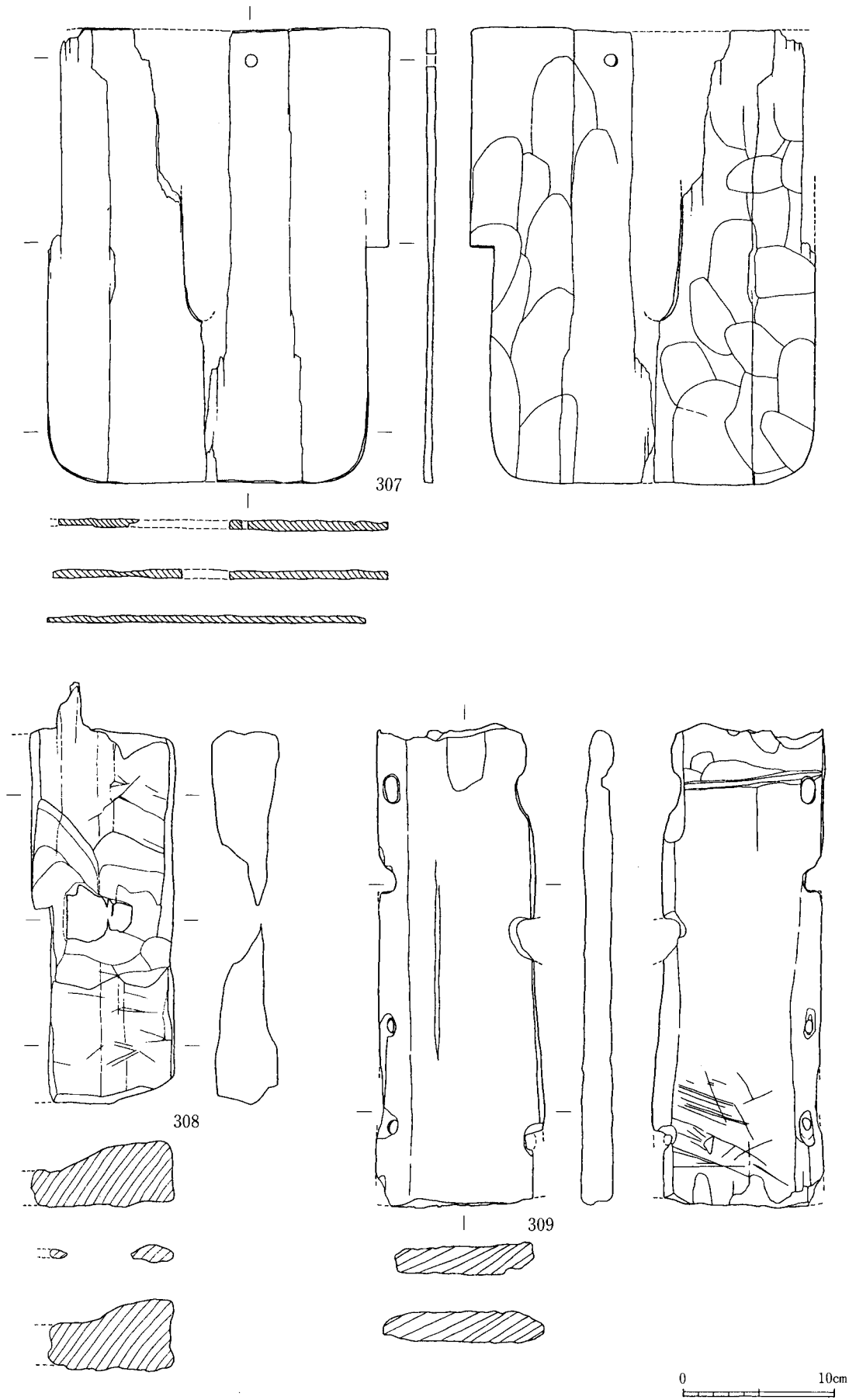
302、307～341は加工痕をもつ板であるが、その用途などは特定できない。樹種に関しては、記述しない限りスギ科スギである。

302、307～309は小孔を穿った板である。302は残存長27.8cm、残存幅3.2cm、厚さ0.6cmを測る柾目材で、上端を丸く仕上げる。下端に径約0.2cmの規則的な小孔の他、不規則な径0.2～0.4cmの小孔を穿つ。紐などを通したと考えられる下縁部の小孔間には、前面に小溝が、また後面に線刻が認められる。307は長さ30.9cm、残存幅22.7cm、厚さ0.7cmを測る柾目材である。左右対称を呈したとすれば、中央部に細長の孔と上方に径0.8cmの孔を穿つことになる。後面には木目にそった上方からの幅約4cmの丁寧な工具痕が残る。308は最大長27.4cm、幅9.8cm、厚さ5.0cmを測り、礎板と考えられる。平面は長方形を呈し、中央部に凹部を削り出す。凹部の器面は圧壊しており、柱を固定したためと考えられる。側面の切断を含め加工はかなり粗く、一部へし折った部分も存在する。木取りは柾目取りである。309は平面長方形を呈し、長さ32.5cm、幅11.0cm、厚さ2.2cmを測る。両面から厚さを減じる側縁部に不規則な小孔を穿ち、その数は右側で3ヶ所、左側で4ヶ所となる。また後面には幅0.4～0.9cm、深さ0.5cmの溝を穿つ。上下端の切断はかなり粗く、後面には擦痕が顕著に認められる。木取りは柾目取りである。

310は残存長145.0cm、幅10.4cm、厚さ1.5cmを測る板目材で、右側面を平坦に仕上げる。木痩せが著しい。311は長さ120.0cm、幅10.8cm、厚さ2.4cmを測る板目材である。不規則に長さ2.5～7.6cmの隅丸長方形の小孔を穿つ。両面とも幅約4cmの工具痕が残る、下端の切断は両側よりおこなう。312は残存長104.0cm、幅9.4cm、厚さ1.3cmを測る長方形の板目材で、中央に径2.4～1.0cmの小孔を穿つ。木痩せが著しく、加工痕は残っていない。313は長さ61.6cm、残存幅7.4cm、厚さ1.8cmを測る。上方に2.2×2.8cmの方形孔を穿ち、下端の切断は粗い。前・後面とも加工痕はみえず、木取りは板目取りである。314は長さ100.5cm、幅16.4cm、厚さ2.0cmを測り、断面長方形を呈したと考えられる。前面には木目に沿った幅5～6cmの工具痕と斜方向の擦痕が認められる。木取りは板目取りである。315は残存長81.0cm、残存幅11.6cm、厚さ2.0cmを測る柾目材である。木痩せが著しく、下端の切断は両側からおこなう。316は長方形を呈し、長さ61.4cm、幅13.8cm、厚さ2.6cmを測る板目材である。上端は前面方向から切断するのに対して、下端は両面から斜方向に切断をおこなう。ともに切断面には幅約10cmの粗い工具痕が残る。また後面には径0.6～1.0cmの未貫通の小孔が3ヶ所に不規則に穿たれる。

317は矢板で、残存長62.3cm、幅16.0cm、厚さ2.8cmを測る。左側に抉りをもつことから他の材と組み合わせて使用したと考えられる。地表に露出していた上半部は木痩せが著しく、また下端は打ち込みにより潰れている。木取りは板目取りである。318は残存長35.0cm、幅15.4cm、厚さ1.5cmを測る板目材である。上方に前面から穿った円弧状の孔をもつ。また横方向に幅約1mmの線刻2条が認められ、下の線刻に合わせて左縁部を後面より切断する。孔との位置関係から転用したと考えられる。319は残存長47.0cm、残存幅6.0cm、厚さ1.6cmを測る板目材である。上端を円弧状に加工、残存する右側面は平坦に仕上げている。320は残存長43.5cm、幅10.5cm、厚さ1.6cmを測る柾目材である。後面に木目方向にそった幅3～4.5cmの工具痕を残す。また下端の切断は一方向から粗くおこなう。321は残存長54.7cm、幅10.9cm、厚さ2.2を測る板目材で、下方に向けて厚さを減じる。両面とも木目にそった幅5～7cmの工具痕が残る。

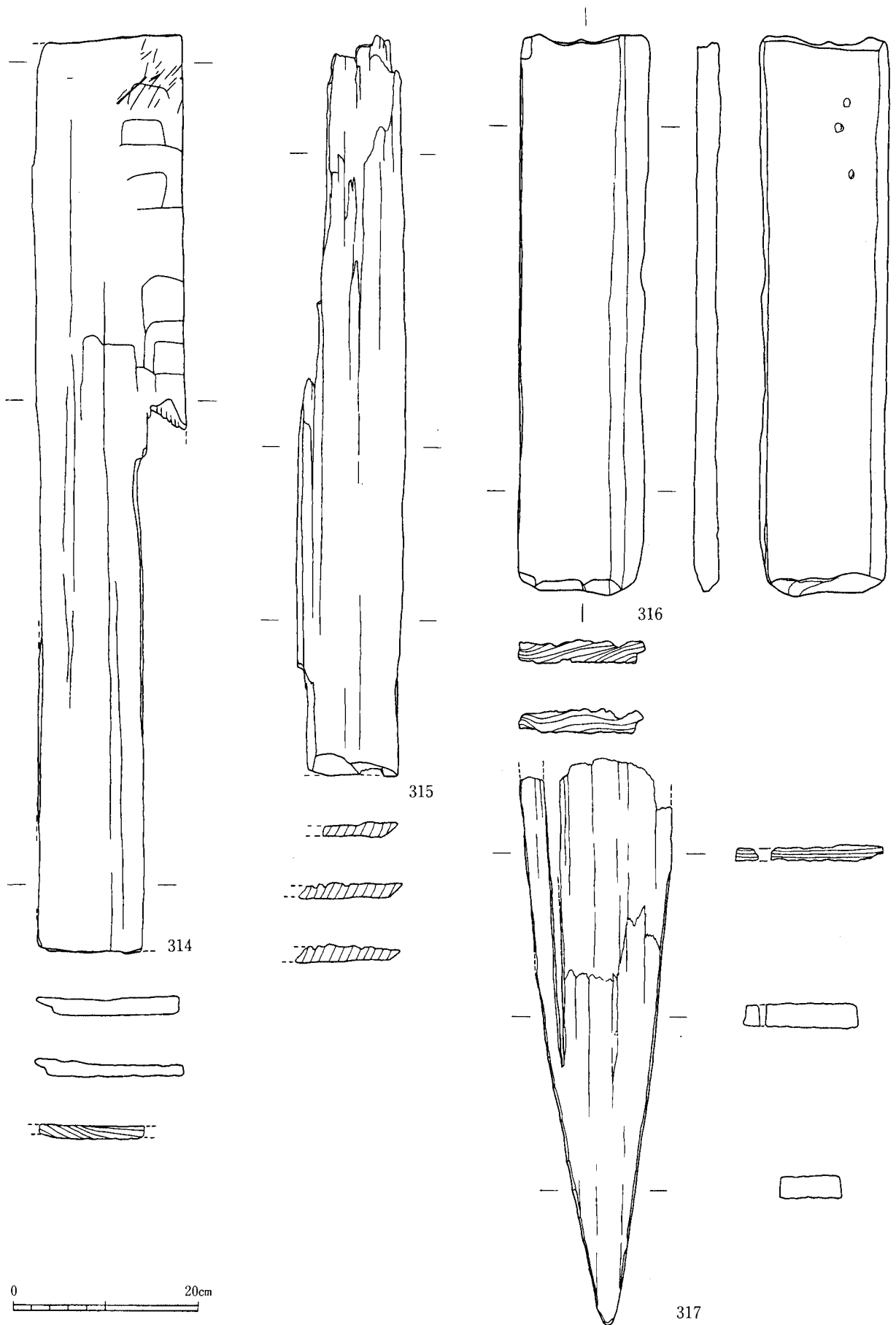
322は平行四辺形を呈し、長さ25.3cm、残存幅12.6cm、厚さ1.9cmを測る板目材である。前面中央が若干くぼみ、後面右側縁部には紐などにより圧迫された痕跡が4ヶ所に認められる。また上端は前面から斜方向の粗い切断をおこなう。323は平面三角形を呈し、長さ26.6cm、幅9.2cm、厚さ1.9cmを測る。上端および下端の切断は粗い印象を受ける。木取りは柾目取りである。324は長さ15.7cm、幅13.1cm、厚さ2.4cmを測る柾目材で、中央部に隅丸長方形の孔(2.6×1.4cm)を穿つ。右側面を両側面より切断、工具痕の最大幅は4.5cmを測る。また左側面は一方向から切れ目を入れた後にへし折っている。



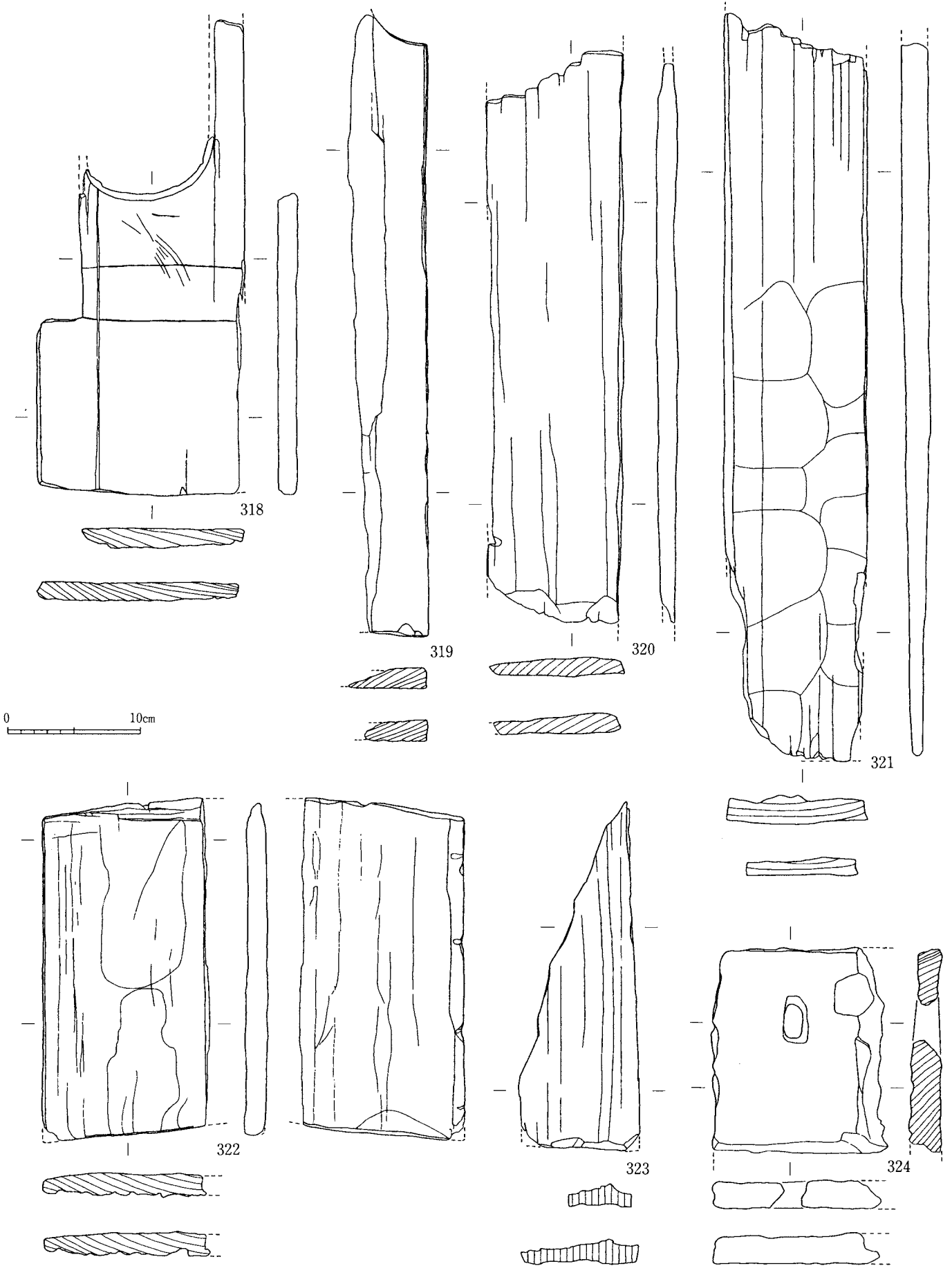
第34図 下層大溝出土木製品6 (S=1/4)



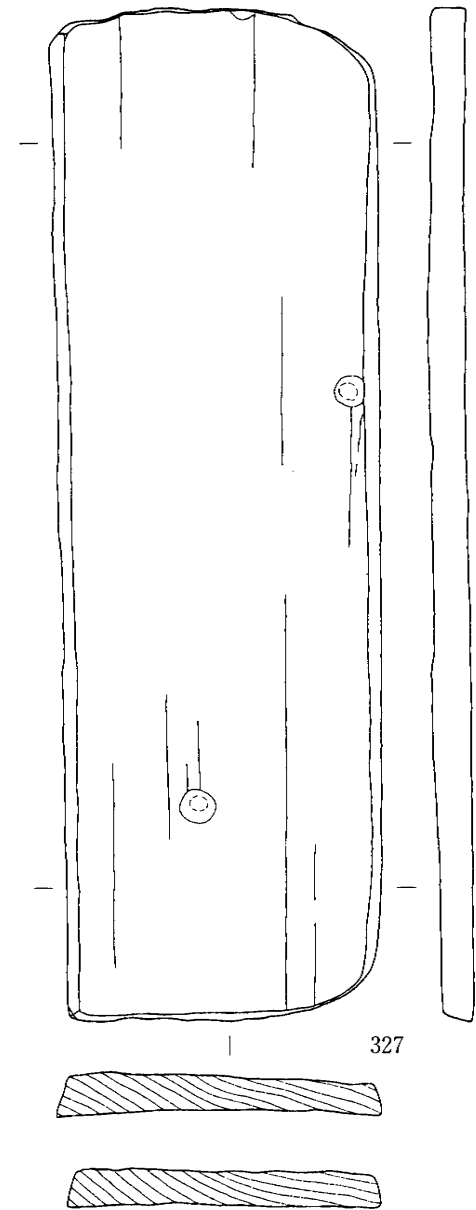
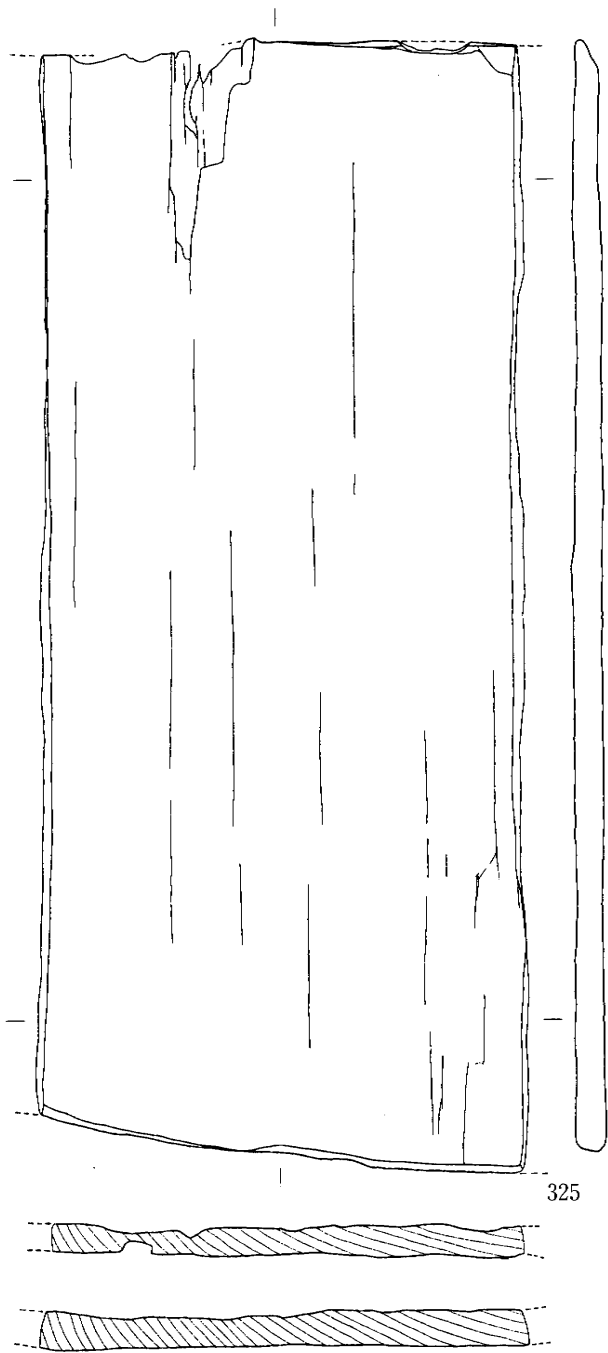
第35図 下層大溝出土木製品7 (S=1/6)



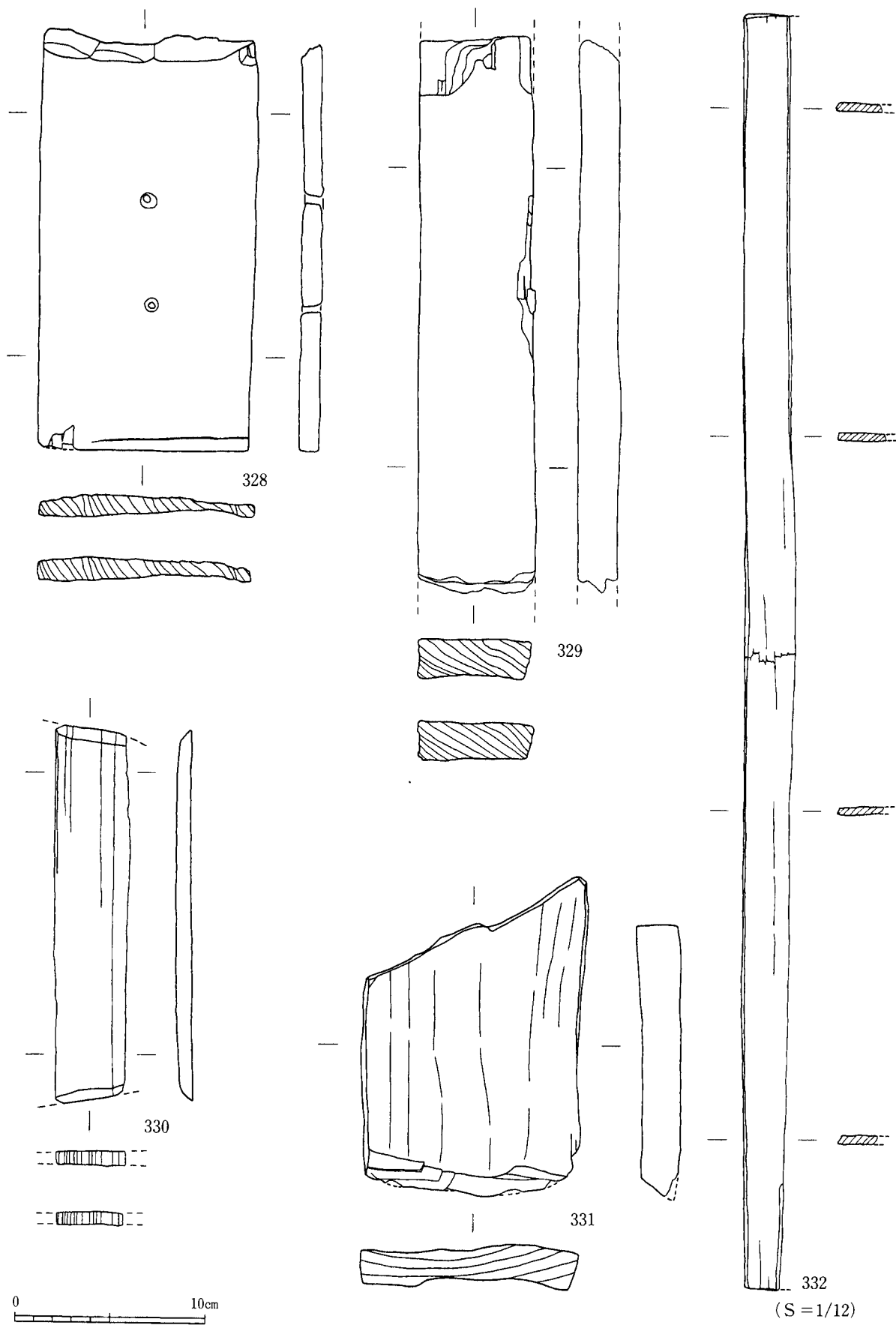
第36図 下層大溝出土木製品 8 (S=1/6)



第37図 下層大溝出土木製品9 (S=1/4)



第38図 下層大溝出土木製品10 (S=1/4)



第39図 下層大溝出土木製品11 (S = 1/3、1/12)



325、326はやや崩れた長方形を呈する。325は長さ59.2cm、残存幅26.0cm、厚さ1.9cmを測る板目材で、上端は後面より斜方向の切断をおこなう。後面には左下がりの幅4.5～5cmの加工痕が残る。326は長さ61.0cm、残存幅23.9cm、厚さ2.5cmを測る柾目材である。上端は両方向より切断をおこない、幅8～8.5cmの工具痕が残る。前面には斜方向の擦痕が顕著に認められる。327は長さ52.9cm、幅17.2cm、厚さ2.1cmを測る板目材で、上半は木痩せが著しい。上下端とも右側面を丸く仕上げ、前面2ヶ所に径2cm前後、深さ0.2～0.3cmの炭化した凹部が認められる。火鑽臼に再利用したものと考えられる。両側面とも斜方向の切断をおこなう。328は長さ22.3cm、幅11.5cm、厚さ1.2cmを測る柾目材である。中央部に2孔一対の小孔を穿つ他、前面下縁部に幅1mm弱の線刻が残る。厚さは一様でなく、上端の切断は粗いものとなる。

329は断面長方形を呈し、残存長29.8cm、幅6.3cm、厚さ2.3cmを測る板目材である。上下端とも粗い切断面をもつ。その方向は、上端は後面よりの斜方向の切断であるのに対して、下端は両面から垂直方向の切断である。330は長さ20.2cm、残存幅4.0cm、厚さ0.8cmを測る柾目材である。上下端とも斜方向に切断する。332は長さ272.5cm、残存幅10.8cm、厚さ2.1cmを測る柾目材である。前後面とも幅約5.5cmの加工痕が残る。

333、334は未製品の可能性をもつ。333は長さ21.0cm、幅29.2cm、厚さ8.8cmを測る柾目材である。平面形は台形に近く、下端は丸味をもつ。また底部を除き斜方向の切断をおこなう。樹種はトチノキ科トチノキである。334は長さ19.5cm、幅19.9cm、厚さ9.1cmを測る柾目材である。下端を多面形を意図しながら加工する他、底部は丸味を有する。

335～337は厚さ約1cmを測る板細片である。337は上方に向かって厚さを減じ、上端中央を円弧状に切断する。樹種は335がブナ科アカガシ亜属、336がニレ科ニレ属、337がブナ科シイ属となる。

338は平行四辺形を呈し、長さ10.0cm、幅11.4cm、厚さ6.2cmを測る。上下端とも中程が稜となるように前後面から斜方向の粗い切断をおこなう。未製品の可能性をもち、ムクロジ科ムクロジを柾目取りする。339も同様に上下端を切断、未製品の可能性をもつ。長さ8.5cm、幅11.1cm、厚さ2.7cmを測る柾目材で、ムクロジ科ムクロジを用いる。

340は柱の一部の可能性をもつ。残存長15.3cm、幅9.2cm、厚さ5.3cmを測る辺材で、断面三角形を呈する。上端は斜方向の切断面をもち、下端は炭化する。樹種はブナ科シイ属となる。341は厚さ2.1cmを測り、下端は鋤の刃先状を呈する。板目取りで後面は炭化する。

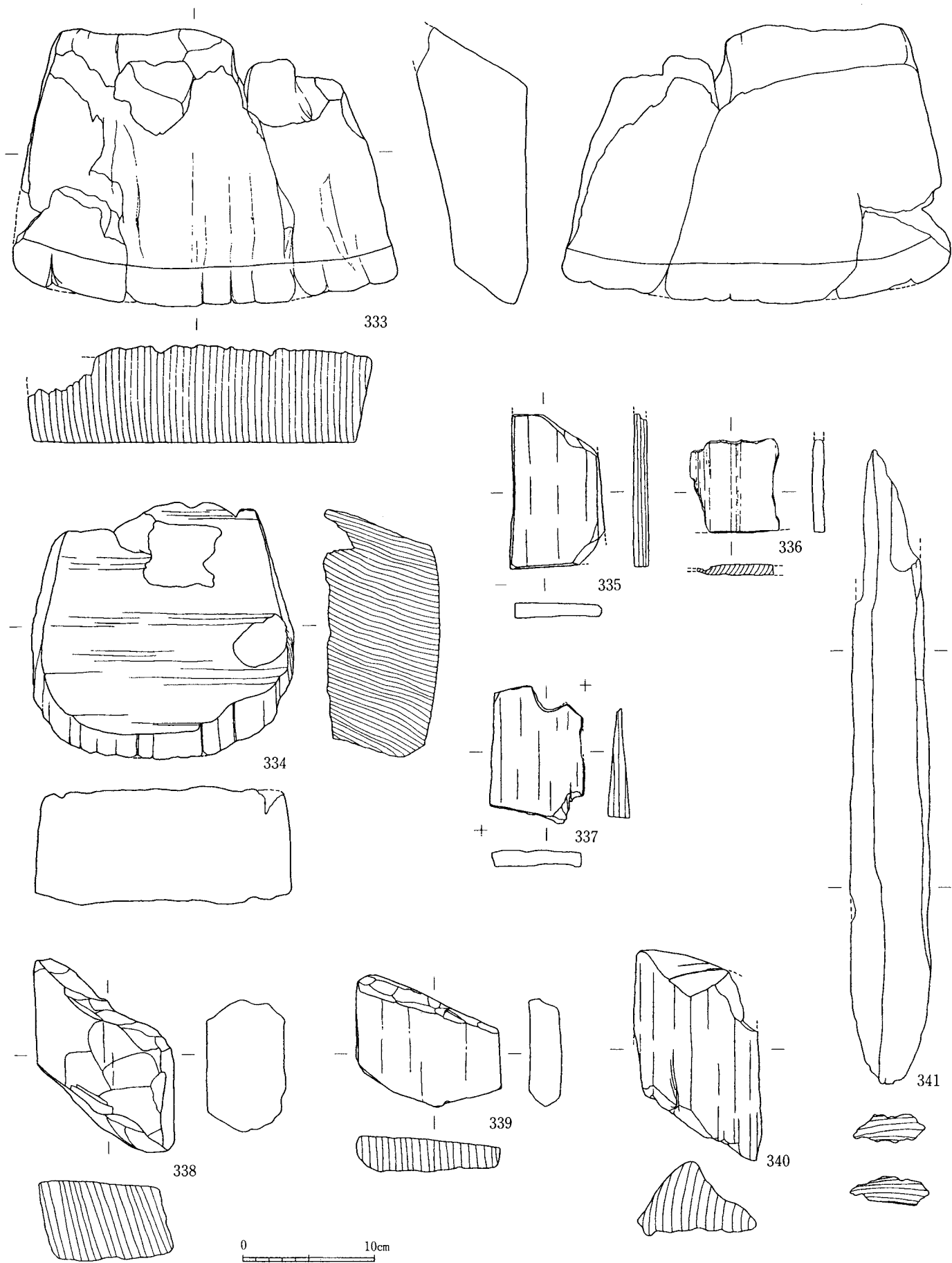
### c) 棒

342～357、362、363は用途不明の細い棒である。使用される樹種は板に比して多様である。

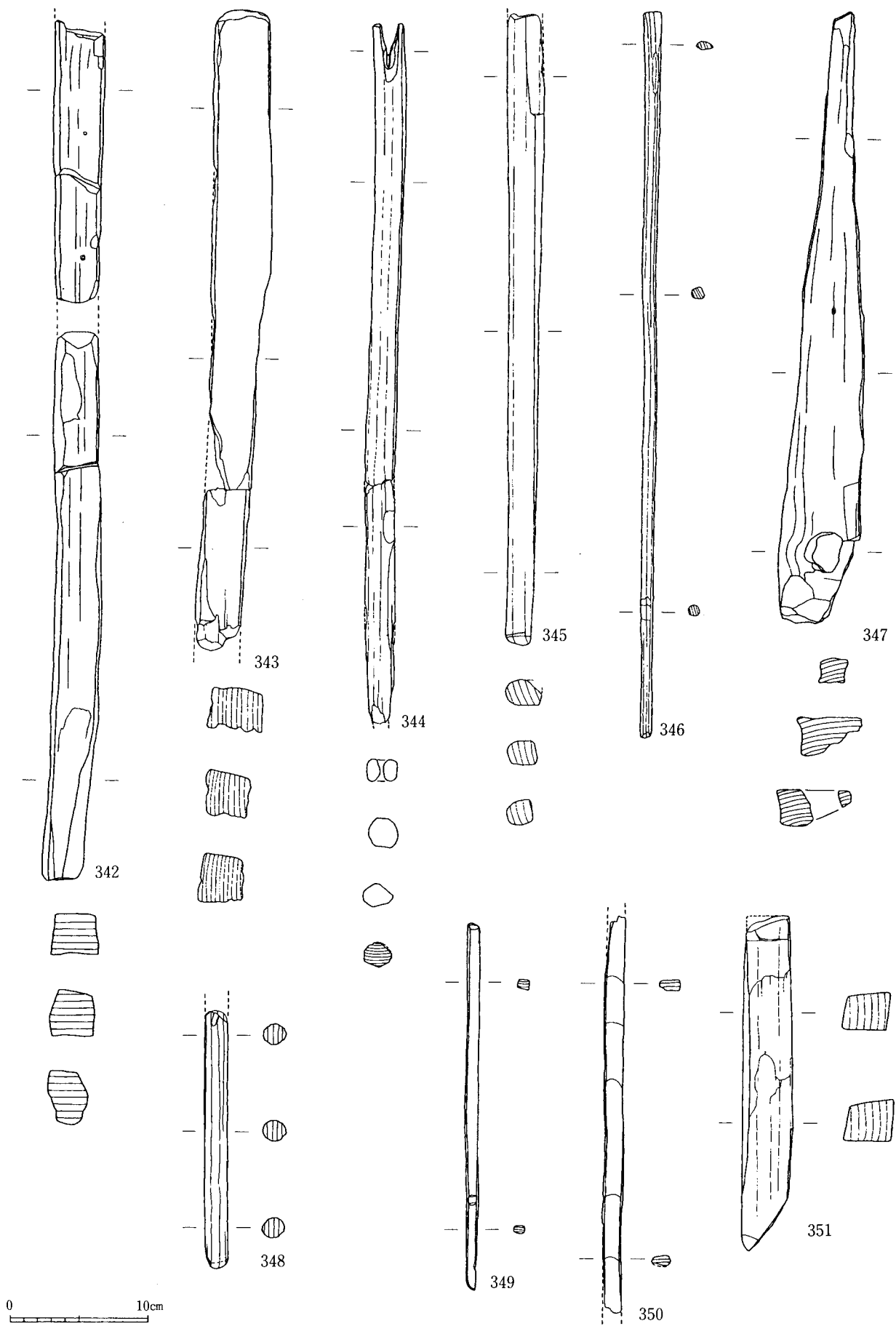
342は断面方形を呈し、下方は屈曲気味となる。幅3.7cm、厚さ4.0cmを測る辺材で、ブナ科クリを用いる。343は幅4.4cm、厚さ3.7cmを測る辺材で、断面方形を呈する。右側面は内湾気味の加工を施し、上端は摩滅のため丸くなる。樹種同定は実施していない。

344は残存長50.8cm、径2.3cmを測る辺材で、断面略円形を呈する。上端に入念な加工を施し、V字形の切れ込みをつくる。次第に細くなる下半部は、木痩せが著しい。樹種はスギ科スギである。345は残存長45.8cm、幅2.7cm、厚さ2.0cmを測る辺材である。前後面は丸味をもたせた加工をおこなうのに対して、側面は平坦に仕上げる。下端は斜方向の切断をおこない、樹種はスギ科スギとなる。346は長さ52.7cmを測る細長い棒である。断面は上部4分の1程度がつぶれた楕円形を呈する。下端は使用により摩滅し、スギ科スギを用いる。347は長さ43.8cmを測る辺材である。節を孔に利用したと考えられ、節の周囲に粗い加工痕が認められる。前後面は平坦で、樹種はスギ科スギである。348は残存長19.8cm、径1.6cmを測り、断面円形を呈する。下端は使用に伴う摩滅で丸くなる。スギ科スギの辺材を用いる。

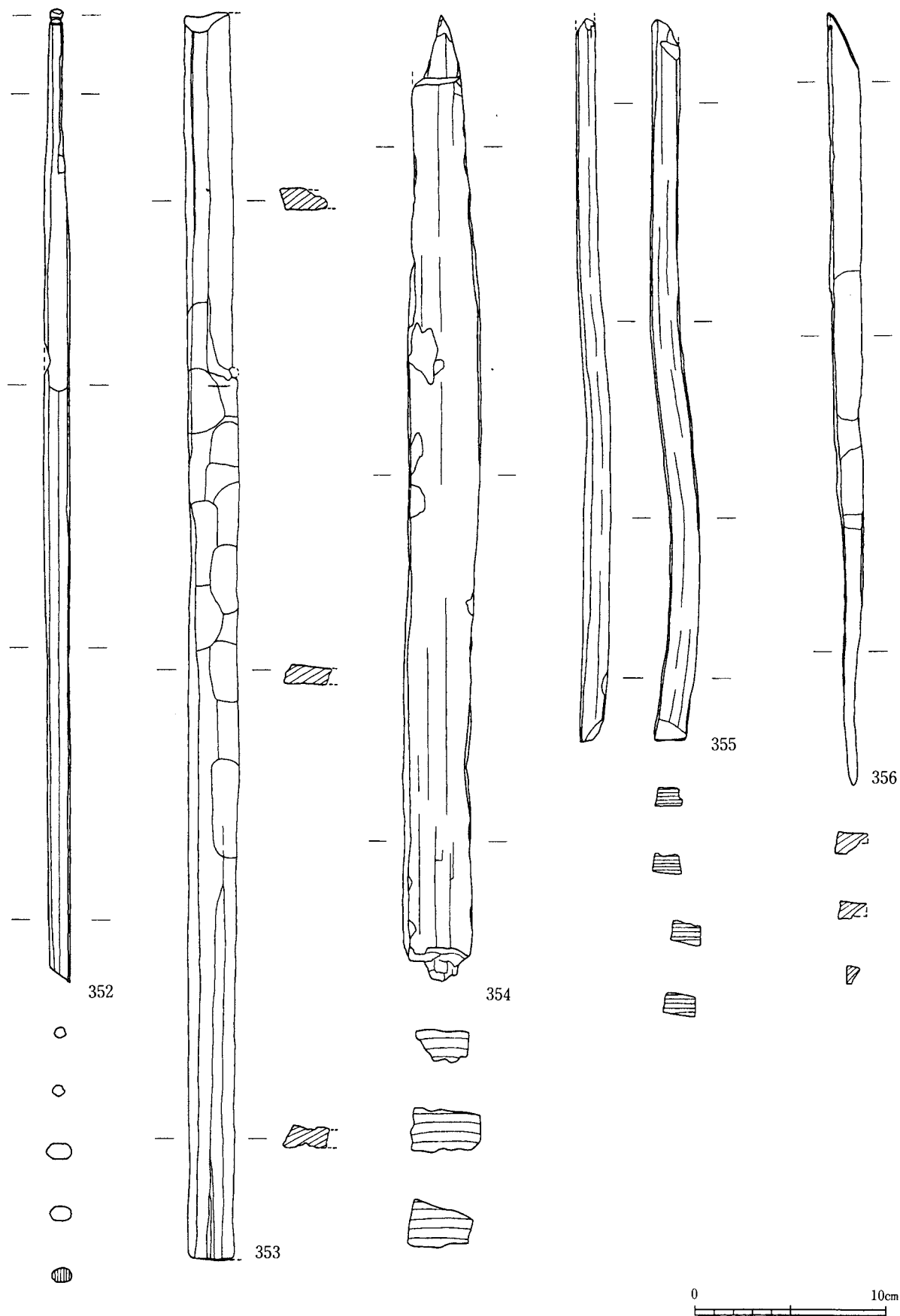
349は長さ26.7cm、幅1.0cm、厚さ0.9cmを測り、断面略方形を呈する。下端を尖らせた辺材で、スギ科スギを用いる。350は残存長28.7cm、幅1.5cm、厚さ0.8cmを測り、断面長方形を呈する。前面に上方向からの加工痕が残り、



第40図 下層大溝出土木製品12 (S=1/4)



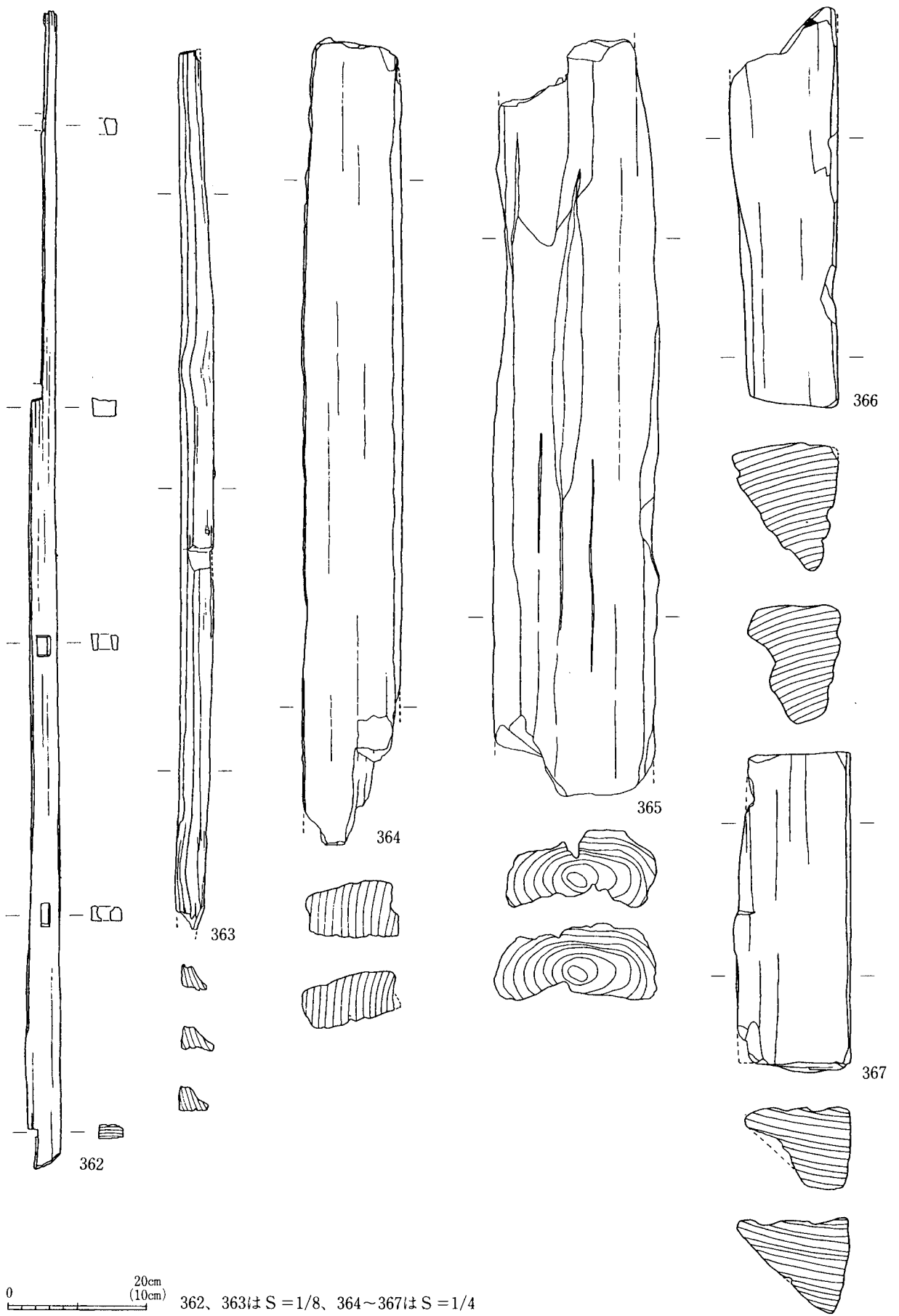
第41図 下層大溝出土木製品13 (S=1/4)



第42図 下層大溝出土木製品14 (S=1/6)



第43図 下層大溝出土木製品15 (S=1/6)



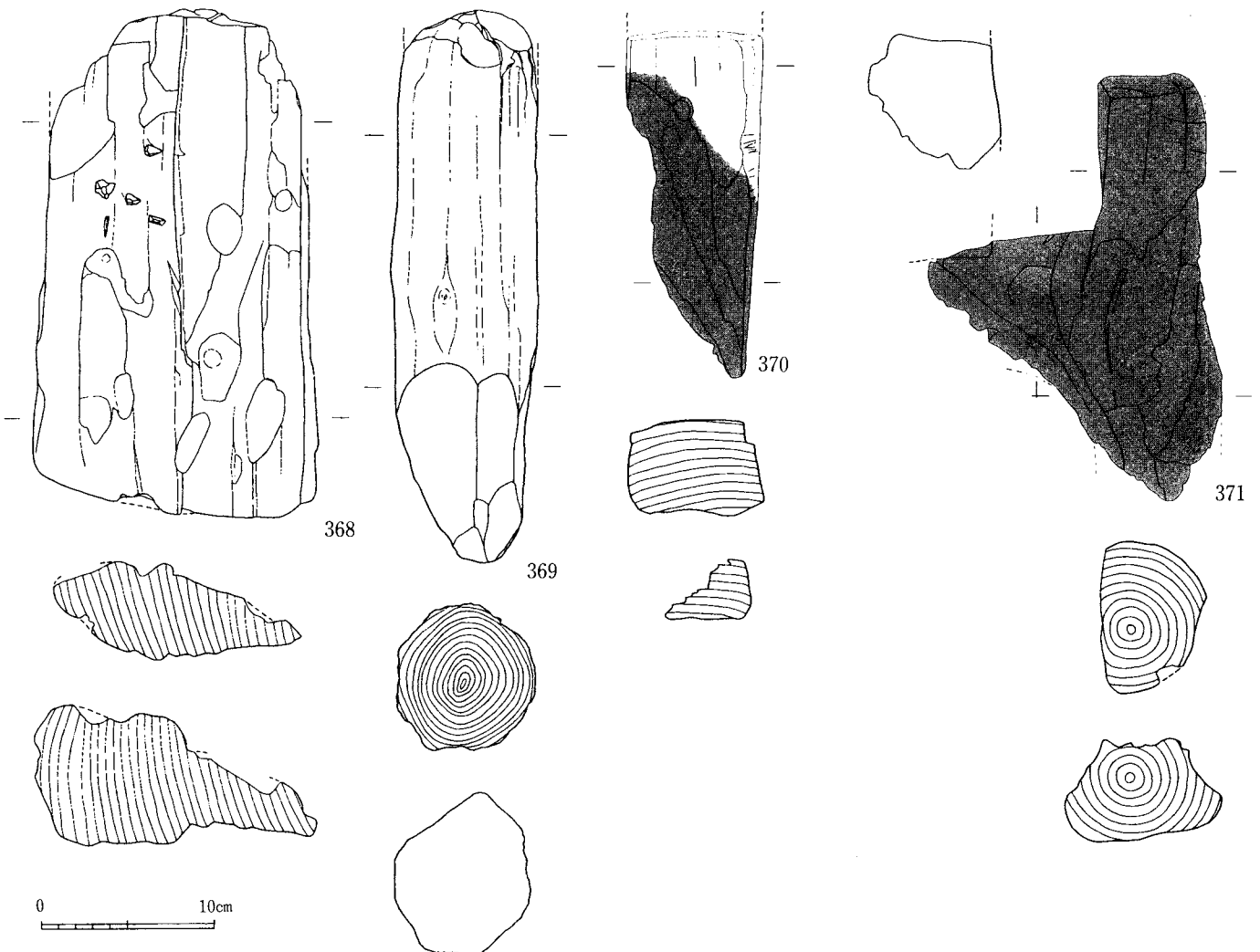
第44図 下層大溝出土木製品16 (S=1/8、1/4)

スギ科スギを用いる。351は断面略方形を呈し、下端は斜方向の切断をおこなう。長さ23.5cm、幅3.6cm、厚さ3.0cmを測る辺材で、樹種はニレ科ケヤキ属となる。352は上端を乳頭状に加工した細長い棒で、長さ103.0cm、長径2.8cm、短径1.6cmを測る。断面は多面形からなるつぶれた楕円形を呈し、下端を斜方向に切断する。スギ科スギを用いる。353は長さ133.1cm、残存幅5.2cm、厚さ2.4cmを測る柁目材で、断面長方形を呈する。上端を前後面から斜方向の切断をおこなうことで尖らせ、前面には幅4cm以上の加工痕が残る。スギ科スギを用いる。

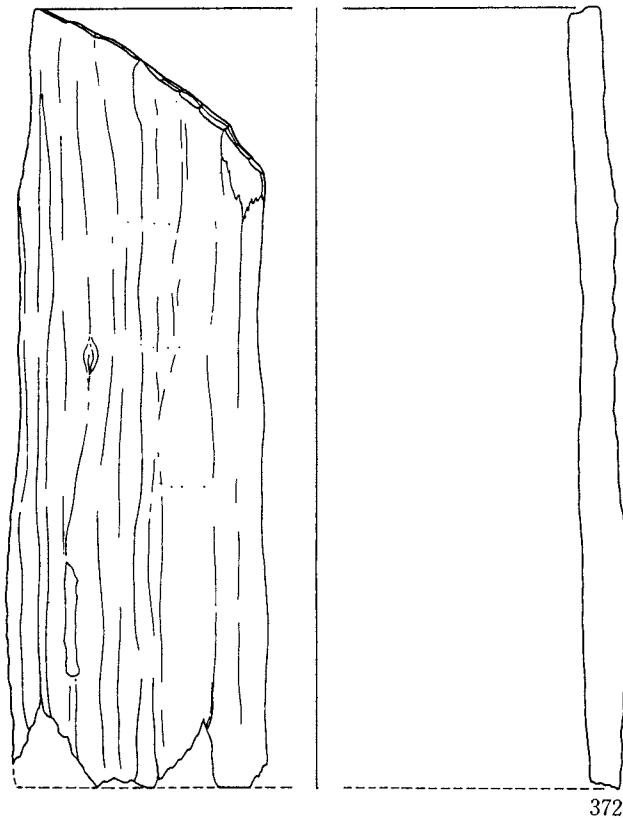
354は長さ103.0cm、幅8.0cm、厚さ5.3cmを測る辺材で、断面長方形を呈する。上下端は切り込みを入れた後にへし折っている。木瘦せが著しく、ブナ科シイ属の材を用いる。355は屈曲した細い棒で、残存長76.5cm、幅3.2cm、厚さ2.3cmを測る。下端を斜方向に切断した辺材で、ヒノキ科ネズコ属の材を用いる。356は断面長方形を呈したと考えられ、残存長は82.3cmを測る。上端を斜方向に切断し、尖らせる。スギ科スギの辺材を用いる。357は残存長68.4cmを測る細長い棒で、スギ科スギの辺材を用いる。下端は使用に伴う摩滅のため丸くなる。

362は残存長168.0cmを測る棒で、断面長方形を呈する。5ヶ所に長方形孔を穿ち、上より1・2・5番目の孔は左側面に貫通する。また下端は粗い加工により丸く仕上げる。ヒノキ科の材を板目取りする。363は残存長127.7cmを測る辺材で、断面台形を呈する。前面中程に下方向からの刻みを入れ、下端は斜方向の切断をおこなう。スギ科スギを用いる。

358～361、364～370は大・中型の棒で、柱などの建築部材を含むと考えられる。358は残存長61.2cm、幅8.0cm、厚さ5.5cmを測る辺材で、断面台形を呈する。加工痕は残存せず、樹種はブナ科シイである。359は残存長61.7cm、厚さ6.3cmを測る。径約14cmの心持ち材を半裁した後、側面を平坦に加工している。カバノキ科カバノキを用いる。



第45図 下層大溝出土木製品17 (S=1/4)



第46図 下層井戸側材 (S=1/6)

360は残存長124.8cm、幅5.7cm、厚さ6.5cmを測る板目材で、断面略長方形を呈する。前面は下方に段を有し、下端を前面から斜方向に切断する。ブナ科コナラ亜属コナラ節の材を用いる。361は表皮をとった状態の枝を利用したもので、下端を斜方向に切断する。径4.6cmを測り、カツラ科カツラを用いる。364は幅7.4cm、厚さ4.0cmを測る柱目材である。木痩せが著しいものの、右側面には段が認められる。樹種はスギ科スギである。365は幅12.0cm、厚さ5.3cmを測る心持ち材である。樹種はカバノキ科ハンノキである。366は長さ29.2cm、幅8.4cm、厚さ6.8cmを測る辺材で、断面三角形または台形を呈する。上端に斜方向の粗い切断面が認められる。ブナ科シイ属の材を用いる。367は長さ23.0cm、幅8.4cm、厚さ6.8cmを測る辺材で、断面三角形を呈する。上下端とも粗い切断面をもち、ブナ科シイ属の材を用いる。368は幅16.5cm、厚さ8.0cmを測る辺材で、断面三角形を呈する。マメ科ネムノキ属の材を用いる。369は長さ31.9cm、径9.4cmを測る心持ち材である。下端を尖らせ、その加工痕は最大幅約6cmを測る。ブナ科アカガシ

亜属の材を用いる。370は幅15.4cm、厚さ9.2cmを測る辺材で、断面長方形を呈する。下半は炭化し、樹種はスギ科スギである。371は全面炭化した心持ち材で、カバノキ科ハンノキを用いる。

372は1号井戸の側材で、ブナ科シイ属の材をくり抜く。

## 6. 古代以降の遺物(第47～50図、第14～16表)

古代以降の遺物はコンテナパットで3箱を数える。二次的移動・堆積により形成された上層包含層・ベース土からの出土が大部分を占め、かつ細片が多い。時期的には7世紀後半代から17世紀代まで存在、中では7世紀末葉～10世紀前半代の須恵器・土師器が多い。なお須恵器は、特記しない限り近接する高松・押水窯跡群産と考えられる。

### 上層1号溝

須恵器坏A(373)、白磁碗(389)が出土した。373は薄手で口径12.0cm、器高3.2cmを測る。口縁部は小さく外反し、底部外面はへら切り未調整である。底部外面にへら記号「/」が焼成前に記される他、底部内面は使用による摩滅が著しい。田嶋明人氏編年<sup>(6)</sup>IV<sub>2</sub>期に位置づけられる。389は口径17.2cmを測る。玉縁は大きく、透明感のある乳白色の釉をかける。太宰府分類<sup>(7)</sup>IV類で12世紀代の所産と考えられる。なお包含層から同時期に位置づけられる白磁碗II類細片が出土した。

### 上層Pit 5

須恵器坏蓋(376)が出土した。口径17.0cmを測り、天井部外面はへら切り後回転ナテ調整を加える。天井部外面にかすかに墨痕が残り、内面には使用による摩滅が認められる。重ね焼きII b類<sup>(8)</sup>に分類され、田嶋氏VI期に位置づけられる。

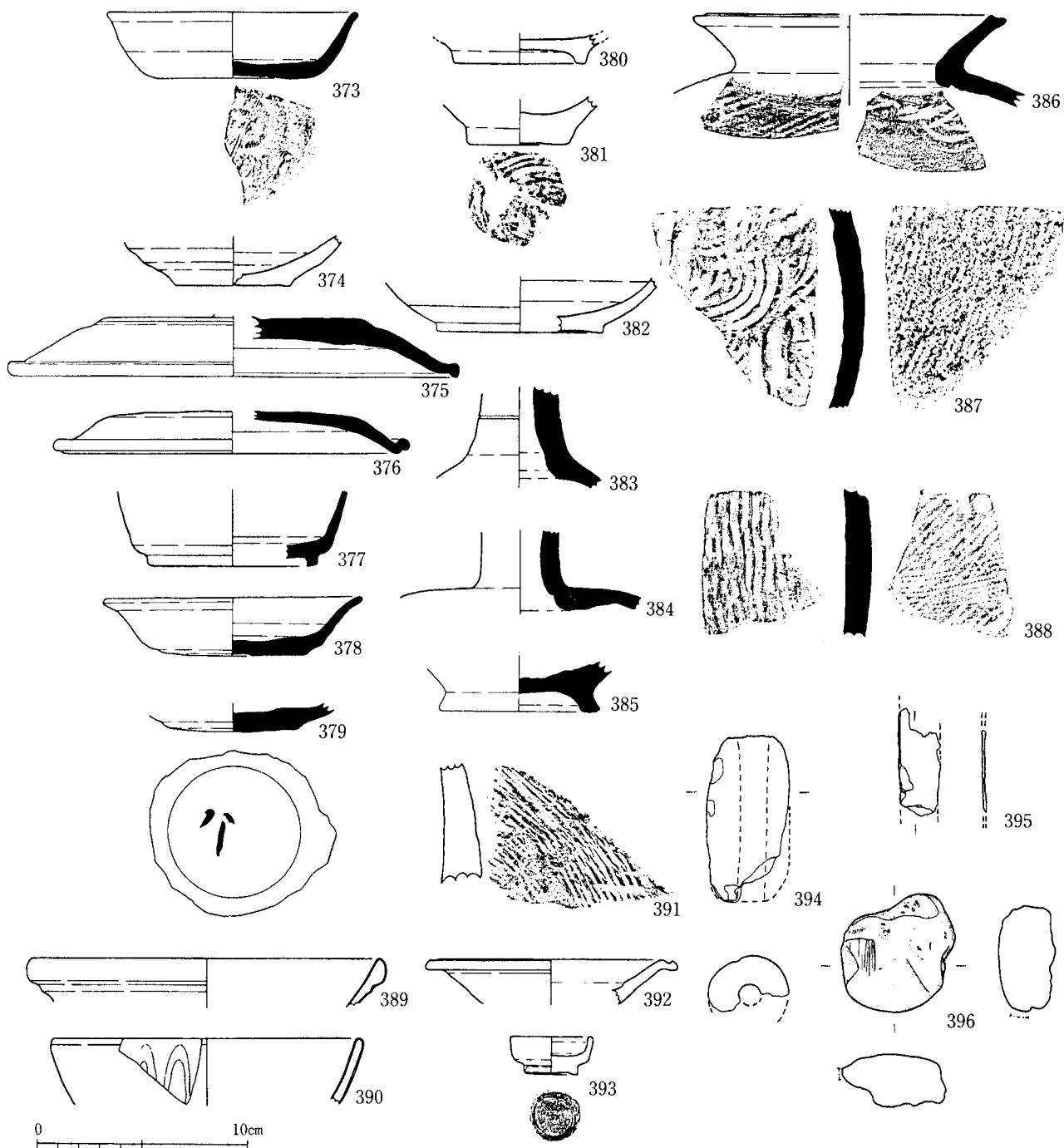
### 上層5号落ち込み



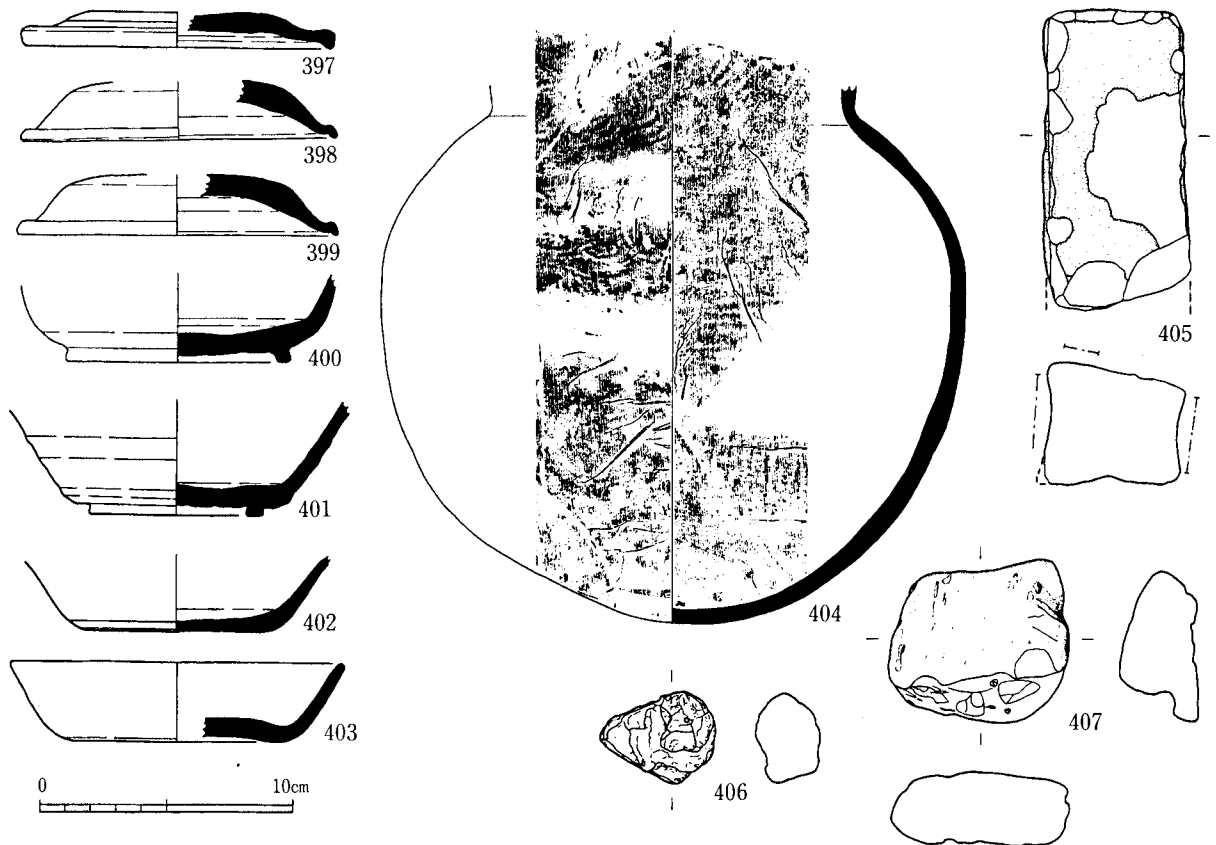
土師器埴A (374)が出土した。器肉は厚く、底部やや台状を呈する。回転糸切り未調整で、11・12世紀代に位置づけられる。

#### 上層包含層・上層ベース土他

土器は375、377～396が上層包含層から、397～407がベース土または下層包含層から出土した。375は須恵器坏蓋で口径21.8cmを測る。器肉は厚く、口縁端部は断面三角形を呈する。天井部外面はヘラ切り後回転ケズリ調整を加え、黒化具合から重ね焼きII b類と考えられる。また天井部内面に使用による摩滅が認められる。田嶋氏IV期に位置づけられる。377は須恵器坏Bで、外面に灰オリーブ色の自然釉が付着する。体部は直線的に立ち上がり、田嶋氏V期と考えられる。378、379は須恵器坏Aである。378は口径12.4cm、器高3.0cmを測り、体部は外反しながら口縁部にいたる。全体に焼きゆがみ、田嶋氏II期と考えられる。379の底部は台状を呈する。底部内面は使用により磨滅し、外面には墨書「个」が記される。田嶋氏VI期と考えられる。380は内面黒色土師器埴Bである。全



第47図 上層出土遺物1 (S=1/3)



第48図 上層出土遺物 2 (S=1/3)

体に摩滅が著しい。381は土師器壺Aで、柱状の底部をもつ。糸切り未調整で、胎土は粉っぽい印象を受ける。11世紀後半代～12世紀代と考えられる。382は京都産緑釉硬陶壺Aである。底径8.0cmを測り、底部外面～体部下半に丁寧な回転ケズリ調整を加える。また底部外面にわずかに淡グリーン色の釉が残る他、底部内面に径約8.5cmの重ね焼き痕が認められる。383～386は須恵器瓶類である。383は外面に1条の沈線を施し、浄瓶の可能性をもつ。焼成は良好で、外面に降灰が認められる。384は内面に降灰が付着することから無蓋となる。ともに胴部の割れ口は規則性を持ち、意図的に胴部下半を取り外したと考えられる。385は強く外展する台部をつける。台径7.7cmを測り、接地面の摩滅が顕著である。横瓶386は口径13cm強を測る。口縁部は外傾し、その端部を外側にひきのばす。外面に灰緑色の自然釉が付着する。387、388は須恵器甕胴部である。387の内面は同心円叩きa類、外面は平行叩きc類である<sup>(9)</sup>。388は焼成が甘く、全体に摩滅が著しい。内外面とも平行叩きである。390は青磁碗で口径15.0cmを測る。盛り上がりや欠いた蓮弁文が認められ、釉はオリブ灰色を呈する。14世紀後半を中心とする時期に位置づけられる。391は珠洲焼甕胴部で、胎土には砂粒・海綿骨片が混じる。392は肥前陶器溝縁皿で、口径12.1cmを測る。17世紀前半に位置づけられる。393は完形の瀬戸・美濃焼入子である。口径3.9cm、器高1.9cmを測り、回転ヘラ切りにより低い台部をつくりだす。体部外面下半～底部外面は無釉となる。394は土師質に焼成された土鍾である。長さ8.0cm、幅3.9cm、孔径1.4cmを測り、外面には指による成形痕が認められる。時期不明。395は鉄製品で、残存長さ5.3cm、幅2.1cm、厚さ0.1cmを測る。396は軽石で、1側面が摩滅することから研ぎに使われたと考えられる。長さ5.5cm、幅5.3cm、厚さ2.6cm、重量11.8gを測り、下層遺物の可能性をもつ。

397～404は須恵器で、404のみ羽咋窯跡群産と考えられる。397～399は坏蓋である。397は口径12.5cmを測り、天井部外面はヘラ切り後に回転ケズリ調整を加える。また器肉は厚く、口縁端部は断面三角形状を呈する。398、399は同一個体の可能性をもつ。398で口径12.6cm、399で口径12.8cmを測る。ともに天井部から口縁部へなだらかに移行し、天井部外面にヘラ切り後不整方向ナデを加える。397～399とも重ね焼きII b類の痕跡が残り、397が田嶋氏IV<sub>1</sub>期に398・399がIV<sub>2</sub>期に位置づけられる。400、401は坏Bである。400の体部下半は張り、断面方形の台部を

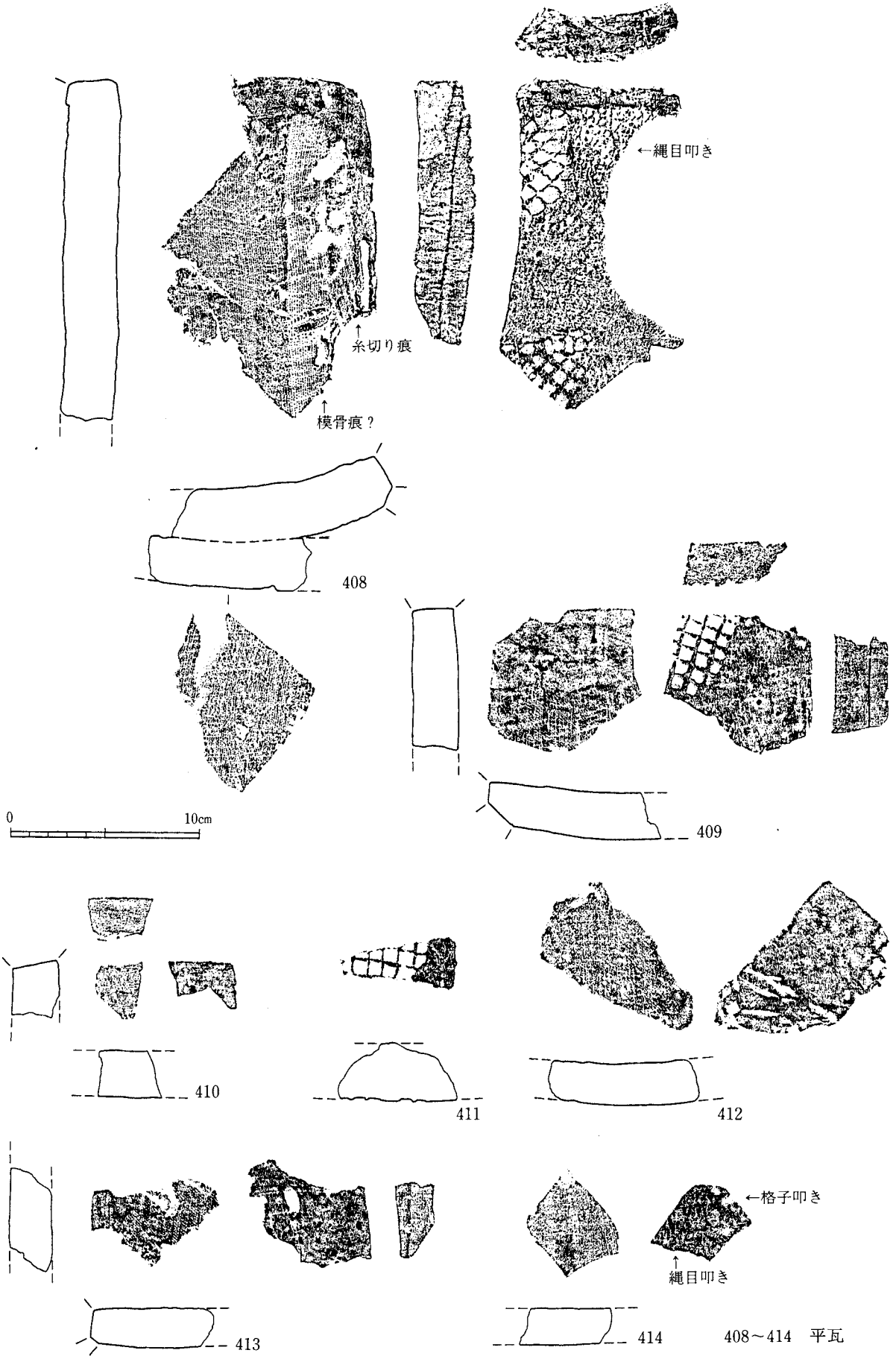
つける。底部内面の使用による磨滅が著しい。田嶋氏IV<sub>2</sub>期に位置づけられる。401の体部は直線的に開き、外面のロクロ目が目立つ。底部外面はヘラ切り未調整である。田嶋氏VI期に位置づけられる。402、403は坏Aである。402は薄手で、体部は外反気味に立ち上がる。底部外面にナデ調整、体部下半に回転ケズリ調整を加える。403は口径13.3cm、器高3.5cmを測る。薄手で、体部は直線的にのびる。底部外面はヘラ切り後に丁寧なナデを加える。402、403とも田嶋氏II<sub>3</sub>期に位置づけられる。404は球形・薄手の甕胴部で、最大径23.4cmを測る。焼成は甘く、胎土に海綿骨片が多く混じる。405は粗粒砂岩の砥石で、乳白色を呈する。3側面は研ぎにより凹状に内湾する。406は鉄滓で、重量47gを測る。407は軽石で、顕著な使用痕は認められない。長さ6.3cm、幅7.1cm、厚さ3.5cm、重量19.1gを測る。

408～425は調査区南半の上層包含層・ベース土から出土した還元炎焼成の瓦である。408～416、418、420～425は平瓦、417は丸瓦、419は軒平瓦で、いずれも小片である。

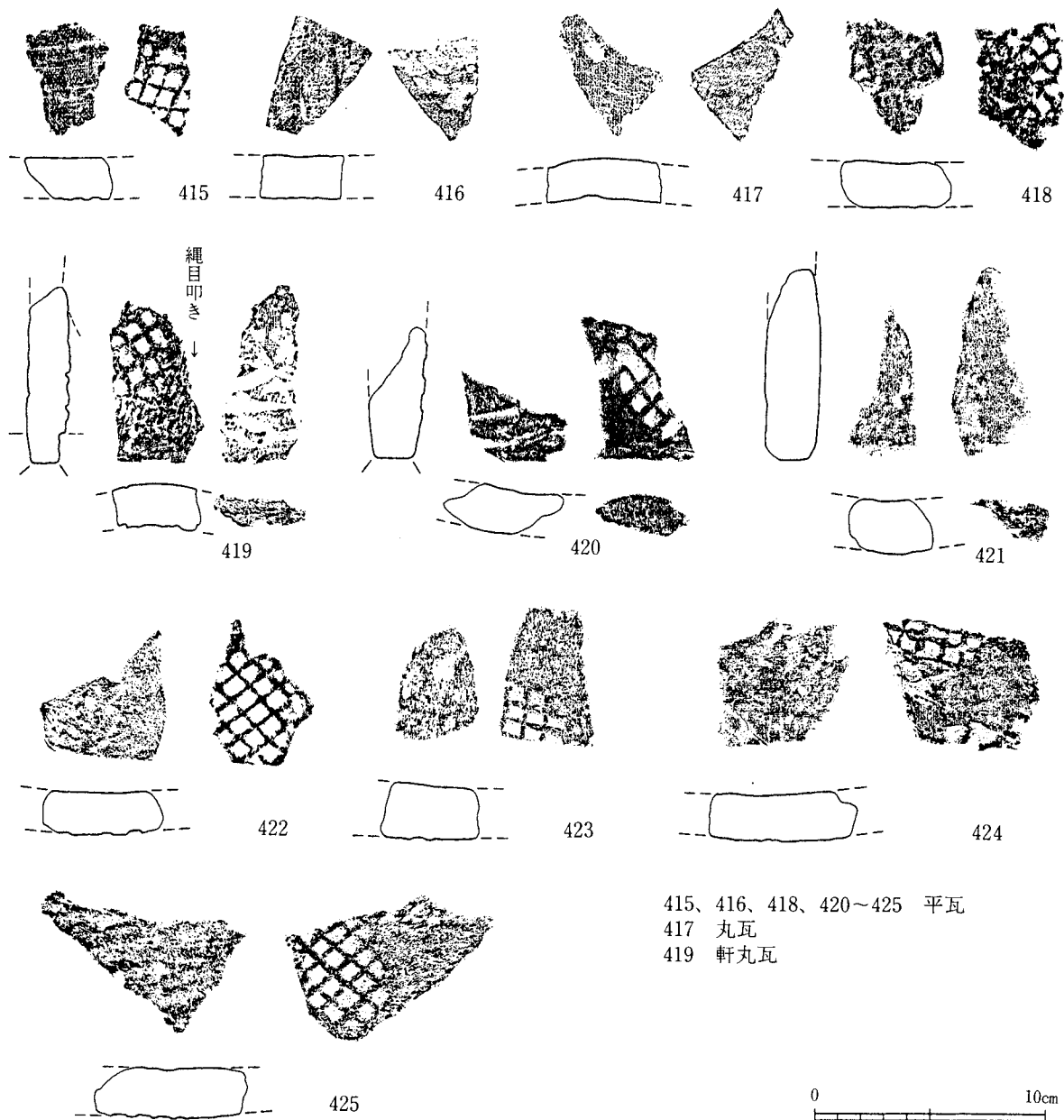
平瓦は全て粘土板桶巻作りで、県内他資料との比較から7世紀後半～末の所産と考えられる<sup>(10)</sup>。凹面には布目圧痕が、凸面には疎い密度でやや崩れた彫りの深い正格子叩き(一部には縄目叩き)が残る。側縁、狭・広端の面取りを含めて1つの型式にまとめられ、色調・焼成・胎土から2群に細別可能である。暗灰色～灰色を呈する408～416は焼成堅緻な一群(a群)で、焼きゆがみにより瓦面の湾曲は消失気味となる。また淡灰色～淡黄色の降灰が付着した個体もある。胎土は粉っぽく、コンクリートの質感をもち、割れ口はザラつく。多量の角張った石英・長石を中心とする砂粒、微量の海綿骨片が混じり、黒色の吹き出しが顕著である。厚さは2.5～3.1cm(408～411)と1.9～2.3cm(412～415、416)に分布する。418、420～425は焼成のかなり甘い一群(b群)で、淡灰色～灰色を呈する。胎土はa群と基本的に同一だが、砂粒の混じりが少なく、多量の海綿骨片が混じる点で異なる。厚さは2.4～2.6cm(420、421、423)、1.9～2.1cm(418、422、424、425)を測り、a群と同様な分布を示す。

408は最も大きい個体で、残存長18.2cm、厚さ3.1cmを測る。凸面には淡黄色の降灰が付着するほか、別個体が溶着する。凹面右側の粘土のあわせ目部分には、側縁にほぼ平行した粘土板製作時の糸切り痕がみえる。また中央部やや右寄りに側縁に平行した帯状のくぼみ(幅約2.2cm)があり、桶の模骨痕の可能性をもつ。側縁・狭端に近い部分にケズリを施す。凸面は中央部上半に縄目叩き、左半に疎い密度の正格子叩きが残り、作業工程としては、縄目叩き→省略気味のすり消し調整→装飾的な疎い正格子叩きという流れが復元できる。側縁は凸面側のみに斜方向の面取りを加える。溶着した平瓦の凹面には布目圧痕、凸面には正格子叩きが認められる。409は灰色を呈し、厚さ2.5cmを測る。両面とも淡乳灰色の降灰が付着する。凹面の側縁、狭端に近い部分にケズリが、また凸面にはすり消し調整と正格子叩きが認められる。410は灰色を呈し、厚さ2.5cmを測る。小片であり、一応狭端に復元した。凸面には狭端平行方向のケズリが認められる。411も小片で、厚さ3.1cmを測る。412は灰色を呈し、厚さ2.3cmを測る。凸面には彫りの浅い正格子叩きを施す。413は暗灰色を呈し、厚さ2.3を測る。凹面の側縁に近い部分にケズリを施す。凸面はすり消しのみ認められる。側縁は408と同様に凸面側のみに斜方向の面取りをおこなう。414の凹面は暗灰色を呈し、乳灰色の降灰が付着する。凹面に布目圧痕、凸面に縄目叩き・正格子叩きが認められる。415は灰色を呈し、厚さ1.9cmを測る。湾曲度合いから平瓦に復元したが丸瓦の可能性をもつ。416の凹面は暗灰色、凸面は灰色を呈する。凹面中央～左側に上下方向のケズリが認められることから、側縁に近い部分と考えられる。厚さ2.0cmを測る。

418～425はb群である。磨滅のためか、すべてに凹面の布目圧痕は認められない。418は淡灰色を呈し、厚さ2.0cmを測る。凸面にやや崩れた正格子叩きがかすかに残る。420は厚さ2.6cmを測り、磨滅が著しい。凹面はいぶし瓦のような色調をもつ。小片のため狭端の可能性もある。421は厚さ2.4cmを測る。磨滅が特に著しいため、成形・調整痕はみえない。小片のため狭端の可能性もある。422は両面ともいぶし瓦のような色調をもち、厚さ1.9cmを測る。凸面の正格子叩きが残るのに対して、凹面の成形・調整痕は認められない。423も同様である。厚さ2.4cm



第49図 上層出土遺物3 (S=1/3)



415、416、418、420～425 平瓦  
 417 丸瓦  
 419 軒丸瓦

第50図 上層出土遺物4 (S=1/3)

を測る。424は淡灰色を呈し、厚さ2.1cmを測る。425はいぶし瓦のような色調をもち、厚さ2.0cmを測る。

417は丸瓦に復元したが、平瓦の可能性も残る。暗灰色を呈し、焼成・胎土などはa群と同じである。凹面に布目圧痕が顕著に残り、凸面にはスリ消しを施す。厚さ1.8cmを測る。

419は瓦当を欠落した軒丸瓦である。暗灰色を呈し、焼成・胎土などはa群と同じである。凹面には瓦当との接合のため、ヘラ状工具により粗い刻み目をつける。刻み目の起伏が明瞭に残ることから、接合は不十分なものであったと考えられる。凸面は縄目叩き・正格子叩きともに明瞭に認められる。広端に近い部分に、広端に平行したケズリを施す。

註

- (1) 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所他1994『古代における農具の変遷』
- (2) 奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録 近畿原始編』
- (3) 註2文献と同じ。

- (4) 金沢市教育委員会1983『金沢市西念・南新保遺跡』
- (5) 石川県立埋蔵文化財センター1997『金沢市下安原海岸遺跡』
- (6) 田嶋明人1988「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題 報告編』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会。氏によれば、II期が7世紀後半～8世紀初頭、III期がほぼ8世紀第2四半期、IV期が8世紀後半～9世紀初頭、V期が9世紀中葉、VI期が9世紀末葉～10世紀中葉の年代観を与えられる。
- (7) 横田賢次郎・森田 勉1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4 九州歴史資料館
- (8) 北野博司1988「第3節 古代」『辰口西部遺跡群I』石川県立埋蔵文化財センター。II類は蓋を逆さにして身と重ねあわせたものを1単位とする。うちII類b類は、その1単位を正位と逆位に組み合わせたもので、下より正位身-逆位蓋-正位蓋-逆位身と積み上げることを基本とする。
- (9) 内堀信雄1988「須恵器甕にみられる叩き目文について」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題 報告編』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会。同心円叩きa類は木目のみられないもの、平行叩きc類は木目が彫り込みに対して左上がりに斜交するものとなる。
- (10) 瓦に関しては、木立雅朗、熊谷葉月氏より多大のご教示を得ている。

#### 引用・参考文献

- 奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録 近畿古代編』
- 埋蔵文化財研究会第20回研究集会世話人1986『弥生時代の青銅器とその共伴関係』
- 石川県立埋蔵文化財センター1986『金沢市戸水C遺跡』
- " 1991『畝田遺跡』
- " 1987『篠原遺跡』
- 金沢市教育委員会1983『金沢市二口六丁遺跡』
- " 1986『金沢市西念・南新保遺跡II』
- " 1992『金沢市西念・南新保遺跡III』
- " 1996『金沢市西念・南新保遺跡IV』
- 松任市教育委員会1996『東大寺領横江庄遺跡II』
- 石川考古学研究会1996『石川県考古資料調査・集成事業報告書 武器・武具・馬具I』
- 北陸古代瓦研究会1987『北陸の古代寺院 その源流と古瓦』桂書房
- 山本直人1987「金沢市戸水C遺跡出土のカゴ」『石川考古学研究会々誌』第30号 石川考古学研究会
- 雄山閣1985『弥生文化の研究』5
- " 1994『季刊考古学』第47号

第2表 下層出土遺物観察表1

図No	実No	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
1	1	甕(縄文)	0-3区 大溝西脇層	A:39.0	小片	外面:褐色 内面:褐色	1mm S	
2	2	底部(縄文)	1-1区 大溝2層	D:9.6	完形	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	底部、網代圧痕 0-4区大溝3層
3	155	底部 C	2-1区 1号井戸上層	D:6.2	底部 完形	外面:淡黄褐色 内面:淡褐色	精良	外面黒班
4	173	底部 B	2-2区 井戸脇くぼみ	D:5	1/2	外面:淡褐色 内面:褐色	1~2mm S	外面一部黒班
5	206	甕形土器 A1a	0-4区 大溝1層	A:13.9 B:11.8	1/5	外面:淡橙褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm S	
6	219	甕形土器 A1a	0-4区 大溝1層	A:13.2 B:11.9	1/5	外面:褐色 内面:風褐色	1~3mm M	
7	139	甕形土器 B2a	3-1区 大溝1層	A:17.0 B:14.2	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~3mm M	外面擬凹線4本
8	98	甕形土器 C1	1-3区 大溝1層	A:15.4 B:12.2	1/4	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm M	
9	146	有孔鉢 A	1-3区 大溝1層		底部 完形	外面:褐色 内面:褐色	1~2mm M	孔径0.8cm
10	170	脚台 A2	2-2区 大溝1層	D:7.0	ほぼ 完形	外面:褐色 内面:褐色	1~2mm M	
11	167	脚台 B2	2-2区 大溝1層	D:7.4	3/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	精良 S	
12	256	蓋形土器 A1c	5-1区 大溝1層	D:7.7	完形	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1mm LL	
13	165	脚台 A1	2-2区 大溝1層	D:10.3	2/5	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~3mm M	内面指押さえ、外面黒班
14	208	底部 B	3-1区 大溝1層	D:6.1	完形	外面:淡橙褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	底部指押さえ
15	179	壺形土器 D	2-4区 大溝1層	A:17.2	3/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	精良	外面擬凹線2本
16	68	壺形土器 G1	2-3区 大溝1層	A:10.0 B:7.8 C:13.1 D:2.7	完形	外面:淡褐色 内面:褐色	1~2mm M	頸部突帯、黒班
17	223	壺形土器 C2a	0-3区 大溝1層	A:14.8 B:11.9	小片	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm S	
18	198	壺形土器 C2c	3-3区 大溝1層	A:14.0 B:10.2	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	
19	15	壺形土器 B1	3-2区 大溝1層	A:11.1 B:9.0	4/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	
20	182	壺形土器 C1a	1-3区 大溝1層	A:11.4 B:7.8	1/2	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	精良	
21	46	壺(中期)	3-4区 大溝1層		小片	外面:淡黄褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	波状文(4条/cm)12条で1単位
22	79	不明	3-4区 大溝1層		小片	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm S	刻目紋、ヨコハケ8条/cm、縦位の 凸帯、竹管文
23	90	高坏・脚部 B2	3-3区 大溝1層		小片	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	竹管文
24	71	鉢形土器	2-1区 大溝1層		小片	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1mm S	成形後、棒状工具にて径0.8cmの孔を 突き開け把手を成形
25	43	高坏・脚部 B1	1-1区 大溝1層	D:19.2	3/5	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	1mm M	透かし4方向、孔径0.7cm
26	204	器台・脚部 A2	4-3区 大溝1層	D:19.4	1/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1mm M	脚部に擬凹線2本、透孔あり
27	12	器台・坏部 C	2-2区 大溝1層		ほぼ 完形	外面:橙褐色 内面:橙褐色	精良	涙状透し孔互い違いで4対、8孔を 穿つ
28	19	高坏・脚部 A1c	1-2区 大溝1層		1/4	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	精良	
29	244	高坏・脚部 A1	0-4区 大溝1層		小片	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	精良	透かし3方向、孔径1.1cm
30	87	ミニチュア壺形 土器	0-2区 大溝1層	C:5.3 D:3.9	完形	外面:淡橙褐色 内面:淡黄褐色	1~3mm M	
31	140	甕形土器 A1b	0-3区 大溝1・2層	A:31.0 B:28	1/5	外面:赤褐色 内面:淡褐色	1~3mm L	

[法量] A:口径、B:頸部径、C:胴部最大径、D:底径 [胎土] 上段:砂粒径、下段:砂粒量

第3表 下層出土遺物観察表2

図No	実No	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
32	127	甕形土器 A 1 b	4-3区 大溝1・2層	A: 24.6	1/5	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	1~2mm L	
33	175	甕形土器 B 2 a	4-2区 大溝1・2層	B: 21.2	1/5	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	1~2mm S	外面擬凹線、肩部刺突文あり
34	138	甕形土器 A 1 b	4-2区 大溝1・2層	A: 18.2 B: 14.0	1/5	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	1~2mm L	
35	224	甕形土器 A 4 a	4-3区 大溝1・2層	A: 15.4 B: 13.0	1/4	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm L	外面煤付着
36	137	甕形土器 A 1 a	3-2区 大溝1・2層	A: 18.3 B: 13.0	1/5	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm L	
37	74	甕形土器 C 4	1区 大溝1・2層	A: 13.6 B: 12.3	1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	外面擬凹線6本?、内外面に煤付着
38	109	甕形土器 C 3	5-1区 大溝1・2層	A: 17.8 B: 15.9	1/4	外面: 淡赤褐色 内面: 淡赤褐色	1~3mm L	
39	143	甕形土器 A 2 b	0-3区 大溝1・2層	A: 16.8 B: 13.3	1/5	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm S	口縁部外面に煤付着
40	114	甕形土器 C 4	4-3区 大溝1・2層	A: 18.4 B: 17.2	小片	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm L	
41	148	底部 C	2-1区 大溝1・2層	D: 3.3	底部 完形	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	1~3mm M	黒斑あり
42	34	底部 C	大溝1層	D: 2.5	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm M	
43	259	有孔鉢 B	4-3区 大溝1・2層	D: 3.2	完形	外面: 褐色 内面: 褐色	1~2mm M	孔径0.9cm
44	152	有孔鉢 A	2区 大溝1・2層		底部 完形	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	1~2mm S	孔径1.0cm
45	147	有孔鉢 C	4-1区 大溝1・2層	D: 4.2	底部 完形	外面: 淡橙褐色 内面: 淡褐色	1~2mm S	孔径1.2cm、指頭圧痕あり
46	161	脚台 B 3	1-3区 大溝1・2層	D: 9.4	1/2	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	外面赤彩
47	169	脚台 B 2	4-4区 大溝1・2層	D: 9.3	完形	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	1mm S	
48	172	底部 C	1-3区 大溝1・2層	D: 2.6	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~3mm S	底部楕円形(3.7×2.2cm)、内外面黒斑、底部内面指頭圧痕
49	215	底部 C	4-3区 大溝1・2層	D: 3.2	完形	外面: 淡黄褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	外面黒斑 4-4区大溝1・2層
50	160	底部 A	2-1区 大溝1・2層	D: 7.4	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm 良S	
51	55	底部 C	3区 大溝1・2層	D: 4.5	完形	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	精良	底部ゆがむ 3-2区大溝1・2層
52	153	壺形土器 E	4-2区 大溝1・2層		小片	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1mm S	口縁縦位貼り付け凸帯
53	211	壺形土器 A 2 b	4-4区 大溝1・2層	A: 14.3 B: 9.8	1/4	外面: 淡黄褐色 内面: 淡赤褐色	1~2mm M	頸部縦位貼り付け凸帯
54	200	壺形土器 A 4 b	3-1区 大溝1・2層	A: 14.4 B: 12.2	1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡赤褐色	1~2mm M	
55	199	壺形土器 A 1 b	4-1区 大溝1・2層	A: 12.8 B: 11.0	1/5	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	1~3mm M	
56	183	壺形土器 C 2 b	4-3区 大溝1・2層	A: 20.6 B: 16.3	小片	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm M	外面擬凹線8本
57	21	壺形土器 C 3	2-3区 大溝1・2層	A: 12.0 B: 9.7	1/2	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	頸部外面に黒斑
58	162	壺形土器 C 2 d	3-2区 大溝1・2層	A: 14.0 B: 10.0	1/5	外面: 褐色 内面: 褐色	精良	
59	181	壺形土器 D	0-3区 大溝1・2層	A: 18.5	1/5	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	精良	
60	251	高坏・脚部 A 1 a	4-1区 大溝1・2層	D: 12.1	1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	内面黒斑
61	237	高坏・脚部 A 1	3-1区 大溝1・2層		脚部 完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	精良	透かし1方向、孔径0.5cm
62	75	高坏・脚部 A 2 a	3-3区 大溝1・2層	D: 18.0	小片	外面: 淡黄褐色 内面: 淡黄褐色	精良	横位沈線、二枚貝腹縁刺突



第4表 下層出土遺物観察表3

図No	実No	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
63	246	器台・脚部 C 1	4-3区 大溝1・2層		完形	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	精良	透かし3方向、孔径1.0cm
64	37	器台・脚部 C 1	4-4区 大溝1・2層	D : 10.0	1/2	外面：淡褐色 内面：褐色	1~2mm M	透かし3ヶ1単位3方向、孔径0.9cm
65	226	器台・脚部 C 2	1-3区 大溝1・2層	D : 10.7	2/5	外面：橙褐色 内面：橙褐色	1~3mm M	透かし2ヶ1単位3方向、孔径1.1cm
66	205	鉢形土器 A 2	3-4区 大溝1・2層	A : 19.2	小片	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1~2mm M	
67	39	蓋形土器 B	大溝1・2層	A : 12.4 鈕径：2.9	1/2	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	精良	外面赤彩
68	154	壺形土器 G 2	4-1区 大溝1・2層		小片	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	精良	二枚貝腹縁刺突
69	220	壺形土器 C 2 a	1-2区 大溝1・2層	A : 11.6 B : 10.3	小片	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1mm S	内・外面赤彩
70	38	鉢形土器 C 2	4-4区 大溝1・2層	A : 9.4 B : 7.4 C : 8.0	2/5	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	精良	外面赤彩
71	221	壺形土器 C 2 c	3-4区 大溝1・2層	A : 10.0 B : 7.4	1/5	外面：淡赤褐色 内面：淡赤褐色	1mm S	
72	222	鉢形土器 C 2	4-3区 大溝1・2層	A : 10.2	1/5	外面：橙褐色 内面：橙褐色	1~2mm S	
73	248	脚台 B 1	2-4区 大溝1・2層		脚部 完形	外面：淡褐色 内面：淡黄褐色	1mm S	透かし4方向、孔径1.0cm、外面黒斑
74	99	壺(中期)	1-2区 大溝2層	A : 24.4	小片	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1mm S	口唇部刻目文あり
75	117	甕形土器 A 2 a	2-1区 大溝2層	A : 18.6 B : 15.2	1/6	外面：橙褐色 内面：橙褐色	1~2mm M	
76	120	甕形土器 A 2 a	2-1区 大溝2層	A : 16.2 B : 14.3	1/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1mm M	外面煤付着 1-4区大溝2層
77	58	甕形土器 A 2 a	1-1区 大溝2層	A : 20.7 B : 16.9	1/2	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1mm M	口縁部外面煤付着
78	125	甕形土器 A 3 a	2-2区 大溝2層	A : 17.0 B : 15.3	1/5	外面：明橙褐色 内面：淡橙褐色	1~3mm M	
79	126	甕形土器 A 1 a	0-4区 大溝2層	A : 18.4 B : 15.2	1/5	外面：淡黄褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面煤付着 1-1区大溝2層
80	131	甕形土器 B 2 a	1-2区 大溝2層	A : 18.4 B : 15.1	1/5	外面：褐色 内面：淡褐色	1~2mm L	外面擬凹線、外面煤付着
81	129	甕形土器 A 2 b	1-3区 大溝2層	A : 14.1 B : 11.4	1/5	外面：淡褐色 内面：淡赤褐色	1~3mm L	口縁部外面煤付着
82	6	甕形土器 A 2 b	2-3区 大溝2層	A : 16.8 B : 13.5	ほぼ 完形	外面：橙褐色 内面：橙褐色	1~2mm M	外面煤付着
83	4	甕形土器 A 2 b	2-3区 大溝2層	A : 18.4 B : 14.8	1/4	外面：橙褐色 内面：橙褐色	1~2mm S	
84	128	甕形土器 A 1 b	0-1区 大溝2層	A : 18.2 B : 15.0	1/4	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	1~2mm M	
85	135	甕形土器 A 3 b	1-1区 大溝2層	A : 15.0 B : 13.4	1/5	外面：褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面煤付着
86	216	甕形土器 A 4 a	2-3区 大溝2層	A : 14.4 B : 12.1	1/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~3mm M	外面煤付着
87	119	甕形土器 A 2 a	3-2区 大溝2層	B : 10.2 C : 13.4	1/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1~2mm M	体部外面一部煤付着
88	188	甕形土器 A 3 b	0-4区 大溝2層	A : 16.0 B : 13.9	1/5	外面：明橙褐色 内面：明橙褐色	良、1mm SS	外面黒斑
89	124	甕形土器 A 1 b	2-1区 大溝2層	A : 15.4 B : 12.2	1/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1~2mm L	
90	136	甕形土器 A 1 b	3-1区 大溝2層	A : 14.8 B : 12.1	1/5	外面：褐色 内面：淡橙褐色	1mm M	口縁部外面煤付着
91	23	甕形土器 A 1 b	0-4区 大溝2層	A : 18.0 B : 14.6	1/2	外面：灰色 内面：灰色	1~3mm L	0-4、1-1区大溝3層
92	144	甕形土器 B 2 b	2-1区 大溝2層	A : 15.4 B : 13.0	2/5	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	1mm L	外面擬凹線、肩部刺突
93	141	甕形土器 A 1 b	1-1区 大溝2層	A : 16.6 B : 12.8	1/4	外面：淡褐色 内面：淡橙褐色	1~3mm S	肩部刺突文

第5表 下層出土遺物観察表4

図No	実No	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
94	191	甕形土器 A 2 b	0-4区 大溝2層	A:13.0 B:9.9	1/2	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm S	外面煤付着
95	134	甕形土器 B 2 b	3-2区 大溝2層	A:18.7 B:14.8	1/5	外面:橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	外面擬凹線5本、口縁部外面煤付着
96	184	甕形土器 B 2 b	1-1区 大溝2層	A:20.4 B:18.8	1/5	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm M	外面擬凹線5本、内面輪積み痕残る
97	121	甕形土器 B 2 a	1-2区 大溝2層	A:16.5 B:14.0 C:14.3	2/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~3mm M	外面擬凹線5本、肩部外面刻目、外面煤付着
98	130	甕形土器 B 2 a	1-1区 大溝2層	A:18.6 B:16.2	2/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm S	外面擬凹線5本、口縁部外面煤付着
99	122	甕形土器 B 1	1-4区 大溝2層	A:20.2 B:15.4	2/5	外面:橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	外面擬凹線5本、外面煤厚く付着
100	40	甕形土器 B 2 a	3-4区 大溝3層	A:17.2 B:12.8	3/5	外面:橙褐色 内面:橙褐色	1~3mm M	口縁部外面外面擬凹線9本、口縁部外面煤付着
101	132	甕形土器 B 3	1-4区 大溝2層	A:21.3 B:19.0	1/4	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm L	外面擬凹線7本、口縁部内面指頭圧痕、口縁部一部煤付着
102	118	甕形土器 B 3	2-4区 大溝2層	A:18.0 B:14.0	1/5	外面:橙褐色 内面:橙褐色	1mm M	外面擬凹線単位不明
103	115	甕形土器 C 3	1-4区 大溝2層	A:12.6 B:11.8	小片	外面:明橙褐色 内面:明橙褐色	1mm S	
104	123	甕形土器 C 4	1-2区 大溝2層	A:17.1 B:15.9	1/4	外面:明赤褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	肩部刻目文、外面煤付着
105	102	甕形土器 C 2	1-3区 大溝2層	A:28.6 B:26.6	小片	外面:淡褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm L	
106	104	甕形土器 C 2	2-4区 大溝2層	A:20.3 B:18.4	1/5	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm L	
107	101	甕形土器 C 1	0-4区 大溝2層	A:17.2 B:14.6	1/5	外面:褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	外面煤付着
108	100	甕形土器 C 1	1-2区 大溝2層	A:15.8 B:12.9	1/4	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	外面擬凹線1本、ゆがみ大、口縁部外面煤付着
109	106	甕形土器 C 2	0-4区 大溝2層	A:13.0 B:10.4	1/5	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm S	
110	95	甕形土器 C 1	0-3区 大溝2層	A:16.9 B:14.7	2/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	外面煤付着
111	97	甕形土器 C 1	0-4区 大溝2層	A:8.7 B:14.8	1/5	外面:淡橙褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	口縁部外面煤付着
112	113	甕形土器 C 1	2-3区 大溝2層	A:17.6 B:13.5	1/5	外面:褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	口縁部外面煤付着
113	82	甕形土器 C 1	5-1区 大溝1・2層	A:17.4 B:14.7	3/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1mm M	
114	103	甕形土器 C 1	2-4区 大溝2層	A:17.2 B:14.3	小片	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	1mm M	口縁部外面煤付着
115	108	甕形土器 C 1	1-3区 大溝2層	A:17.0 B:12.9	小片	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm M	
116	107	甕形土器 C 1	3-1区 大溝2層	A:15.0 B:14.0	1/4	外面:明橙褐色 内面:明橙褐色	1~2mm L	
117	51	壺形土器 H	3-1区 大溝2層	A:14.0 B:13.7	2/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~3mm M	
118	105	甕形土器 C 2	1-1区 大溝2層	A:18.0 B:14.2	1/5	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~3mm L	外面煤付着
119	110	甕形土器 C 3	2-3区 大溝2層	A:14.5 B:12.7	1/6	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~3mm L	
120	48	甕形土器 A 1 a	3-2区 大溝2層	A:16.0 B:13.6	1/2	外面:明橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	輪積み痕あり、外面煤付着
121	20	鉢形土器 A 1 b	1-1区 大溝2層	A:17.0 B:14.4 C:16.1	1/2	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1mm S	肩部擬凹線6本、肩部櫛歯刺突、外面煤付着
122	116	甕形土器 A 1 a	1-1区 大溝2層	A:16.6 B:13.6	1/5	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	0.5~2 S	口縁部外面煤付着
123	142	甕形土器 D 2	2-4区 大溝2層	A:17.7 B:14.8	3/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	精良	口縁部・肩部外面櫛歯刺突、肩部波状文、輪積み痕あり、外面煤付着
124	17	有孔鉢 B	1-2区 大溝2層	D:3.6	完形	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	孔径1.8cm、外面黒斑

第6表 下層出土遺物観察表5

図No.	実No.	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
125	260	有孔鉢 A	1-4区 大溝2層	D:1.6	完形	外面:淡褐色 内面:褐色	1~2mm L	孔径0.6cm
126	150	有孔鉢 B	1-3区 大溝2層	D:3.6	底部 完形	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	孔径1.4cm、外面片半面煤付着
127	258	壺(中期)	1区 大溝2層	D:6.2	完形	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1mm M	底部外面指頭圧痕・ヘラ刻み「×」
128	207	底部 B	4-1区 大溝2層	D:10.8	2/5	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	1~3mm M	
129	262	底部 B	0-4区 大溝2層	D:6.5	2/5	外面:淡橙褐色 内面:橙褐色	精良	底部外面黒斑
130	174	底部 A	2-4区 大溝2層	D:7.3	1/2	外面:淡橙褐色 内面:灰白色	1mm M	底部外面黒斑
131	196	底部 B	1-2区 大溝2層	D:6.0	1/5	外面:淡橙褐色 内面:橙褐色	1~2mm M	底部外面黒斑
132	176	高坏・脚部	0-3区 大溝2層	D:14.9	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	
133	257	鉢形土器 D2a	3-2区 大溝1・2層	D:4.1	底部 完形	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1mm S	2-4区大溝2層
134	166	鉢形土器 D2c	3-2区 大溝2層	D:4.8	2/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	内・外面赤彩
135	171	鉢形土器 D2c	3-2区 大溝2層	D:5.8	完形	外面:褐色 内面:褐色	1~3mm M	
136	225	脚台 A2	3-2区 大溝2層	D:6.4	1/4	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	精良	
137	229	脚台 A1	0-4区 大溝2層	D:7.7	2/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	
138	151	脚台 A1	0-4区 大溝2層		小片	外面:暗褐色 内面:暗褐色	1~3mm M	
139	180	壺形土器 A4b	2-1区 大溝2層	A:14.6 B:12.9	小片	外面:淡橙褐色 内面:淡赤褐色	1~2mm M	外面擬凹線2本
140	164	壺形土器 A2a	2-2区 大溝2層	A:12.1 B:9.0	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm S	
141	212	壺形土器 A4b	0-4区 大溝2層	A:13.9	小片	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm S	
142	26	壺形土器 C1b	1-1区 大溝2層	A:16.0 B:11.5	2/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	口頸部内面赤彩 0-4区大溝2層
143	203	壺形土器 A4a	2-1区 大溝2層	A:15.4	完形	外面:明赤褐色 内面:淡黄褐色	1~2mm S	
144	202	甕形土器 A1b	0-3区 大溝2層	A:11.5	小片	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1mm S	
145	42	壺形土器 B2a	3-2区 大溝2層	A:14.5 B:12.3	2/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1mm M	
146	185	壺形土器 A3c	1-1区 大溝2層	A:15.8	1/5	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	1mm M	
147	186	甕形土器 A4b	0-4区 大溝2層	A:12.6	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	
148	177	壺形土器 B2b	0-4区 大溝2層	A:17.6 B:12.8	1/6	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~3mm S	外面擬凹線5本、外面煤付着
149	156	壺形土器 B3	1-3区 大溝2層	A:20.4 B:15.6	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm L	外面擬凹線7~8本
150	41	壺形土器 C2a	4-1区 大溝2層	A:12.6 B:8.9	4/5	外面:暗褐色 内面:暗褐色	1~3mm L	砂粒特に多い
151	197	壺形土器 C2c	1-1区 大溝2層	A:14.6 B:12.8	1/4	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	
152	190	壺形土器 C2a	0-3区 大溝2層	A:16.0 B:14.4	1/4	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	1~2mm M	
153	1	壺形土器 D	2-2区 大溝2層	A:18.0 B:9.8	1/2	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~3mm S	口頸部内・外面赤彩
154	18	壺形土器 C2a	1-2区 大溝2層	A:16.3 B:10.7	3/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~2mm M	
155		壺形土器 F1	0-4区 大溝2・3層	A:8.0 C:18.6	1/5	外面:淡褐色 内面:淡褐色	1~3mm L	156と同一個体の可能性あり。 1-1区大溝2・3層

第7表 下層出土遺物観察表6

図No.	実No.	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
156	7	壺形土器 F 1	不明		完形	外面：淡黄白色 内面：黄白色	1mm S	
157	189	壺形土器 B 2 a	1-3区 大溝2層	A: 14.5 B: 9.9	1/5	外面：淡黄白色 内面：黄白色	1~2mm L	砂粒特に多く異質
158	209	甕形土器 A 4 a	0-3区 大溝2層	A: 14.2 B: 9.5	1/4	外面：暗赤色 内面：暗赤色	1~2mm S	
159	201	壺形土器 C 2 c	3-1区 大溝2層	A: 11.0 B: 6.9	1/5	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	精良	
160	194	壺形土器 G 2	1-3区 大溝2層	A: 11.0	3/5	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	精良	
161	69	壺形土器 F 2	1-2区 大溝2層	C: 15.1	小片	外面：淡橙褐色 内面：褐色	精良	
162	93	器台・坏部 A	0-3区 大溝2層	A: 15.4	小片	外面：淡褐色 内面：淡黄褐色	1mm S	口縁部外面竹管4個1単位に刺突
163	168	甕形土器 C 4	2-2区 大溝2層	A: 18.8	1/5	外面：明橙褐色 内面：明橙褐色	1~2mm S	
164	45	壺形土器 E	0-3区 大溝2層	A: 20.2	1/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1mm S	口縁部指押さえ、口縁部縦位凸帯2個1単位貼り付け
165	227	器台・坏部 A	2-1区 大溝2層	A: 25.2	1/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	良、1mm S	口縁部円板状粘土貼付
166	195	壺形土器	1-4区 大溝2層	B: 11.4	小片	外面：淡赤褐色 内面：淡赤褐色	1mm S	肩部内面に指頭圧痕
167	213	壺形土器	1-2区 大溝2層	B: 10.0	1/2	外面：淡褐色 内面：褐色	精、2mm S	体部内面に指頭圧痕
168	88	鉢類把手	0-4区 大溝2層		完形	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1mm M	
169	8	高坏・坏部 A	2区 大溝2層	A: 29.6	2/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面黒斑
170	10	高坏・坏部 B 1	1-3区 大溝2層	A: 28.6	1/2	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	一部赤彩 1-3・4区大溝1層
171	30	高坏・脚部 B 2	2-3区 大溝2層		脚部 完形	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1~3mm S	裾部赤彩・円文、透かし4?
172	76	高坏・脚部 B 1	0-4区 大溝2層		脚部 完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	
173	67	高坏・脚部 A 1 a	1-2区 大溝2層		脚部 完形	外面：灰白色 内面：灰白色	精良	透かし3方向、孔径1.3cm
174	232	器台・脚部 B 2 a	1-2区 大溝2層	D: 18.0	2/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	透かし数不明、裾部外面擬凹線4本以上
175	241	高坏・脚部 A 1 b	2-2区 大溝2層	D: 18.0	2/5	外面：赤褐色 内面：赤褐色	1~2mm M	透かし4方向、孔径0.6cm
176	234	高坏・脚部 A 2 b	1-4区 大溝2層	A: 20.6	1/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	半載竹管刺突4条、外面赤彩、2-1区大溝2・3層、0-4区大溝3層
177	22	器台・脚部 A 2	1区 大溝2層	D: 19.6	脚部 完形	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	1mm L	内面指頭圧痕
178	253	器台・脚部	2-1区 大溝2層		脚部 完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	透かし3方向、孔径1.3cm
179	243	器台・脚部	1-1区 大溝2層		脚部 完形	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1~2mm M	外面一部黒斑、棒状具に粘土を巻きつけ成形
180	35	高坏・坏部 B 3	1-4区 大溝2層	A: 34.9	2/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	良、1mm S	半載竹管刺突5条、内・外面赤彩、2-4区大溝2層、3-1区大溝1層
181	247	高坏・坏部 C 1	3-1区 大溝2層	A: 9.0	2/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	精良	
182	252	高坏・脚部 A 1	3-1区 大溝2層	A: 11.6	小片	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	
183	249	高坏・脚部 C 1	4-2区 大溝2層		脚部 完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	透かし4個?
184	238	器台・脚部 C 2	0-4区 大溝2層	D: 8.7	1/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1mm M	透かし3方向、孔径1.2×0.9cm、沈線1条
185	250	高坏・脚部 A 1 b	1-3区 大溝2層	D: 12.0	完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1mm S	脚部内面に一部黒斑、輪積み痕あり
186	231	高坏・脚部 A 1 c	1-3区 大溝2層		脚部 完形	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	1~2mm L	透かし4方向、口径1cm、脚部内面黒斑

第8表 下層出土遺物観察表7

図No	実No	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
187	242	器台・坏部 C	2-4区 大溝2層		1/5	外面：橙褐色 内面：橙褐色	1mm M	透かし孔10、孔径0.8cm
188	112	鉢形土器	3-2区 大溝2層	A:17.0	小片	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	外面擬凹線?
189	187	鉢形土器 A1a	1-3区 大溝2層	A:19.6	小片	外面：赤褐色 内面：黄褐色	精良	内面赤色粒
190	29	鉢形土器 E	1-1区 大溝2層	D:19.2	完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1mm L	裾部外面に2条程度の沈線
191	86	高坏・坏部 C2	3-1区 大溝2層		小片	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	精良	横位沈線2条、波状文6条1単位
192	217	鉢形土器 C1	2-1区 大溝2層	A:8.0 B:6.5	1/5	外面：淡橙褐色 内面：橙褐色	1mm S	
193	16	高坏・坏部 D	1-2区 大溝2層	A:8.4	完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	良、1mm S	
194	91	グイノミ形 土器	1-1区 大溝2層	A:5.0 D:3.8	ほぼ 完形	外面：淡橙褐色 内面：橙褐色	精良	黒斑
195	89	蓋形土器 A2	1-3区 大溝2層	D:13.0 鈕径:2.5	1/5	外面：赤褐色 内面：赤褐色	1~2mm S	
196	59	蓋形土器 A1b	0-3区 大溝2層	D:7.4 鈕径:2.3	ほぼ 完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	良、1mm S	外面黒斑
197	61	蓋形土器 A1a	2-4区 大溝2層	D:8.9 鈕径:2.7	1/2	外面：淡褐色 内面：淡褐色	良、1mm S	
198	64	土 錘	2-4区 大溝2層		完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	精良	外面黒斑
199	83	甕形土器 D1	0-4区 大溝3層	A:18.8 B:15.2 C:17.8	2/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面煤付着
200	111	甕形土器 C4	1-4区 大溝3層	A:20.6 B:17.5	1/4	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1~2mm L	外面擬凹線2~3本、外面煤付着
201	65	甕形土器 B1	0-4区 大溝3層	A:18.4 B:14.4 C:21.0	1/4	外面：淡橙褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面擬凹線3本、外面煤付着 0-3区3層セクション
202	133	甕形土器 B1	2区 大溝3層	A:17.4 B:13.5 C:19.9	1/4	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	外面擬凹線3本、外面煤付着
203	62	甕形土器 B1	2-1区 大溝3層	A:18.4 B:15.2 C:23.3	3/5	外面：褐色 内面：淡褐色	1~3mm L	外面擬凹線7本、肩部櫛歯刺突、外面煤付着
204	33	甕形土器 B2b	1-1区 大溝3層	A:18.6 B:15.4 C:20.5	3/5	外面：淡褐色 内面：淡黄褐色	1mm L	外面擬凹線4本、肩部刺突、外面煤付着
205	3	甕形土器 B1	1-1区 大溝	A:18.5 B:15.2	4/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~3mm M	外面擬凹線7本、肩部刺突、外面煤付着、1~3層
206	18	甕形土器 B1	0-3区 大溝2・3層	A:16.6 B:13.4	3/5	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面擬凹線4本?、肩部刺突、外面煤付着
207	27	甕形土器 B1	0-4区 大溝3層	A:18.6 B:13.9	2/5	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	1~3mm M	外面擬凹線5本、肩部刺突、外面煤付着
208	70	甕形土器 B3	2-1区 大溝3層	A:20.0 B:14.3	1/5	外面：明橙褐色 内面：暗褐色	1~2mm L	外面擬凹線10~11本
209	31	甕形土器 B3	1-1区 大溝2層	A:20.0 B:15.2	3/5	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	1mm S	外面擬凹線7本、口縁部内面指頭圧痕、1-2区、0-4区大溝2・3層
210	44	甕形土器 C1	1-1区 大溝3層	A:15.8 B:12.9 C:17.2 D:3.3	ほぼ 完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	内面輪積み痕あり、外面煤付着、0-1区大溝2層、0-4区大溝3層
211	11	甕形土器 C1	1-3区 大溝3層	A:13.8 B:11.0 C:13.7 D:4.2	ほぼ 完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	外面煤付着
212	263	有孔鉢 B	1-2区 大溝3層	D:5.8	完形	外面：淡橙褐色 内面：暗褐色	1~2mm M	孔径1.4cm、底部外面黒斑
213	53	鉢形土器 D1	大溝3層	A:10.5 D:3.7	完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm S	底部外面指押さえ
214	261	底 部 C	0-3区 大溝3層	D:5.3	1/2	外面：淡褐色 内面：褐色	1~2mm M	外面一部黒斑 0-3区大溝1・2層
215	158	壺(中期)	2-4区 大溝3層	C:31.6	小片	外面：褐色 内面：暗褐色	1mm S	波状文4条、沈線9条
216	57	壺形土器 A1b	2-2区 大溝3層	A:15.2 B:11.9	完形	外面：淡橙褐色 内面：淡橙褐色	1~2mm M	波状へら描きあり
217	47	壺形土器 A1a	大溝3層	A:13.2 B:11.3	完形	外面：淡褐色 内面：淡褐色	1~2mm M	口縁部外面黒斑

第9表 下層出土遺物観察表8

図No.	実No.	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
218	56	壺形土器 A 1 b	2-3区 大溝3層	A: 13.0 B: 11.0	完形	外面: 赤褐色 内面: 淡橙褐色	1~3mm M	口縁部外面煤付着
219	159	壺形土器 A 1 a	2-4区 大溝3層	A: 11.4 B: 10.8 C: 18.3	1/5	外面: 淡橙褐色 内面: 明橙褐色	1~3mm M	
220	214	壺(中期)	1-1区 大溝3層	B: 12.9	1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	
221	80	壺形土器 A 4 a	1-3区 大溝3層	A: 13.2 B: 9.2	3/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm M	
222	178	壺形土器 A 4 b	1区 大溝2層	A: 15.9 B: 10.5	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm S	1-2・3区大溝3層
223	77	壺形土器 A 3 a	2-2区 大溝3層	A: 14.0 B: 10.0	1/4	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~3mm M	
224	193	壺形土器 A 3 b	0-3区 大溝3層	A: 17.2	1/5	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	1~2mm M	外面擬凹線5本、内・外面煤付着
225	60	甕形土器 C 3	1-3区 大溝3層		1/5	外面: 褐色 内面: 淡褐色	1~3mm L	外面煤付着
226	210	壺形土器 E	0-4区 大溝2層	A: 16.7 B: 10.8	1/5	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm S	0-4区大溝3層
227	145	甕形土器 A 2 b	1-3区 大溝3層	A: 17.8 B: 15.0	1/4	外面: 褐色 内面: 淡褐色	1~2mm L	外面煤付着
228	72	高坏・脚部 A 1 b	2-4区 大溝3層	D: 14.2	1/2	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~3mm S	透かし4方向、孔径1cm、外面赤彩
229	63	高坏・脚部 A 1 b	2-1区 大溝3層		脚部 完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	透かし4方向、孔径1cm、外面赤彩
230	36	器台・脚部 A 3	2-1区 大溝1層	D: 22.2	1/2	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~3mm M	透かし4方向、孔径1.2cm、外面赤彩 2-1区大溝3層
231	236	高坏・脚部 A 2 b	1-4区 大溝3層	D: 20.8	1/2	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm S	半載竹管刺突4条、透かし方向不明 外面赤彩、2-1区大溝3層
232	245	器台・脚部 A 3	0-4区 大溝3層	D: 20.2	2/5	外面: 淡赤褐色 内面: 淡赤褐色	1mm L L	透かし4方向、孔径1cm、内・外面 赤彩
233	85	器台・脚部 A 4	1-1区 大溝3層	D: 18.6	1/2	外面: 淡橙褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm S	透かし4方向、孔径1.2cm 2-1区大溝3層
234	230	器台・脚部 B 3 a	2-3区 大溝3層	D: 19.8	1/2	外面: 淡橙褐色 内面: 橙褐色	1~2mm M	半載竹管刺突、透かし5方向、孔径 1.2cm
235	25	器台・脚部 B 2 a	1-4区 大溝3層	D: 21.0	1/2	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	外面擬凹線12本、外面赤彩 2-1区大溝3層
236	233	器台・脚部 B 2 b	1-1区 大溝3層	D: 22.0	1/5	外面: 淡黄褐色 内面: 淡赤褐色	1mm M	外面擬凹線8本
237	73	器台・脚部 A 4	1-4区 大溝2・3層	D: 24.2	2/5	外面: 褐色 内面: 褐色	1mm S	透かし数不明
238	254	高坏・坏部 B 2	1-4区 大溝3層	A: 33.8	1/4	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	良、1mm S	外面擬凹線11本、内・外面赤彩 2-1区大溝2層
239	5	高坏・坏部 B 2	2-1区 大溝3層	A: 35.6	2/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	外面擬凹線12本、内・外面赤彩口縁 部内・外面煤付着
240	163	高坏・坏部 B 2	2-1区 大溝3層	A: 29.0	1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm S	外面擬凹線10本、内・外面赤彩
241	9	高坏・坏部 B 3	1-3区 大溝2層	A: 31.6	2/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	半載竹管刺突、内・外面赤彩、口縁部内・外煤 付着、1-4、2-1区大溝3層
242	228	高坏・坏部 A	1-4区 大溝3層	A: 34.2	2/5	外面: 淡黄褐色 内面: 淡褐色	1~2mm S	口唇部赤彩
243	66	高坏・坏部 A	2-1区 大溝3層	A: 33.0	2/5	外面: 灰白色 内面: 淡黄褐色	1~2mm M	
244	235	器台・坏部 B	1-4区 大溝2層	A: 27.6	小片	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	外面擬凹線10本、内・外面赤彩 2-1区大溝3層
245	94	高坏・脚部 B 2	1-4区 大溝2層	D: 23.4	3/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	精良	半載竹管刺突、外面赤彩、透かし5 方向、2-1区大溝3層
246	239	器台・脚部 B 1	2-1区 大溝3層		1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	透かし4方向
247	81	器台・坏部 A	大溝3層	A: 21.5 D: 18.6	1/2	外面: 淡黄褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm M	口縁端部に黒斑
248	54	壺形土器 F 2	1-4区 大溝3層	C: 19.2	小片	外面: 淡褐色 内面: 褐色	1mm S	半載竹管刺突、外面赤彩、外面煤付 着、2-1区大溝3層

第10表 下層出土遺物観察表9

図No	実No	器種・分類	出土地点	法量 (cm)	遺存度	色調	胎土	備考
249	32	鉢形土器 A 1 b	1-1区 大溝3層	A: 18.3 B: 15.7 C: 17.4	2/5	外面: 褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm M	肩部外面擬凹線7本、口縁部・肩部 櫛齒刺突
250	50	鉢形土器 A 1 a	2-4区 大溝3層	A: 20.4 B: 16.5 C: 17.7	2/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	内・外面煤付着
251	96	鉢形土器 B	2-2区 大溝3層	A: 20.2 B: 17.3 C: 17.6	1/5	外面: 褐色 内面: 淡褐色	1~2mm L	外面煤付着
252	240	蓋形土器 C	1-3区 大溝3層	鈕径: 2.3	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~3mm S	つまみ穿孔、孔径1cm
253	92	鉢形土器 D 2 b	1-4区 大溝3層	鈕径: 4.6	完形	外面: 淡褐色 内面: 褐色	1mm M	
254	49	壺(中期)	不明	A: 18.4	小片	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm M	口唇部内面羽状刻目
255	218	甕形土器 A 3 b	3-1区 大溝	A: 13.8 B: 12.2	1/5	外面: 褐色 内面: 褐色	1~2mm M	
256	14	壺形土器 A 1 b	大溝	A: 13.1 B: 9.6	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm M	
257	192	甕形土器 A 3 b	不明	A: 10.8 B: 9.7	1/4	外面: 淡褐色 内面: 褐色	1~2mm M	
258	52	不明	不明		1/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1mm S	
259	149	脚台 B 3	5区排土	D: 8.2	3/5	外面: 明橙褐色 内面: 明橙褐色	1~2mm M	
260	28	高坏・脚部 A 1 c	不明		脚部 完形	外面: 赤褐色 内面: 赤褐色	精良	透かし3方向、孔径1cm
261	24	器台・脚部 B 3 b	不明	D: 28.4	1/2	外面: 橙褐色 内面: 橙褐色	1mm M	半載竹管刺突
262	84	器台・脚部 A 1	不明	D: 17.0	脚部 完形	外面: 淡黄褐色 内面: 淡橙褐色	1~2mm M	透かし4方向、孔径1cm
263	2	器台・坏部 A	2-2区 大溝2・3層	A: 20.3 B: 5.0	完形	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~2mm M	
264	3	高坏・脚部 A 2 c	2-1区 大溝3層	D: 23.2	4/5	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色	1~3mm M	半載竹管刺突、透かし4方向外面赤 彩
265	15	砥石?	4-2区 大溝1・2層					軽石(1.5g)
266	8	砥石	1-2区 大溝2層					軽石(194.6g)
267	17	砥石	2-1区 大溝3層					軽石(26g)
268	6	石片	2-1区 大溝2層					安山岩(21.6g)
269	5	砥石	2-4区 大溝2層					粗粒砂岩(44.4g)
270	11	石片	2-4区 大溝3層					チャート(29.1g)
271	10	凹石	2-4区 大溝3層					デイサイト(51.6g)
272	1	叩石・磨石	上層排土					花崗岩(435.7g)
273	9	石鏃	1区 上層包含					輝石安山岩(1.1g)
274	4	剥片	2-1区 大溝2層					輝石安山岩(5.2g)
275	12	石核	1-3区 大溝3層					緑色凝灰岩(11.4g)
276	13	剥片	2-2区 大溝3層					輝石安山岩(9.1g)
277	7	石核	3-1区 大溝1層					石材不明(109.8g)
278	19	箆	1-3区 大溝3層					

第11表 下層出土遺物観察表 10

図No	実No	名 称	出 土 地 点	法 量 (mm) 長さ×幅×厚さ	木取り	樹 種	備 考
279	14	直柄広鋏	2-1区大溝3層	(275)×(126)×柄部24・ 刃部6	板目取り	ブナ科アカ ガシ亜属	方形孔2ヶ所
280	40	又鋏または又鋤	2-3区大溝3層	(205)×55×14	"	"	283と同一個体か
281	13	狭鋏	2-1区大溝3層	(540)×78×12	"	スギ科スギ	孔1ヶ所
282	12	組み合わせ鋤	"	(379)×143×13	"	"	孔2ヶ所
283	15	曲柄又鋏	2-3区大溝3層	(129)×(96)×13	"	ブナ科アカ ガシ亜属	281と同一個体か
284	20	経(布)巻具	2-1区大溝3層	488×36×17	柁目取り	スギ科スギ	
285	93	器台(高杯)	2-2区大溝3層	底径474×高(102)	"	イチイ科カ ヤ	略台形透かし孔16ヶ所。
286	3	桶側板	1-3区大溝3層 No.293下	径216×高191×18	"	スギ科スギ	容量約3.5ℓ
287	4	桶蓋	1-3区大溝3層	径232×高48×16	"	"	突起2ヶ所。革綴補修3ヶ所。
288	5	方形脚付盤・槽	2-3区大溝3層	(225)×(103)×高124	板目取り	ニレ科ケヤ キ属	
289	16	杓子形木製品	0-4区大溝3層	250×身部67・柄部20×6	柁目取り	スギ科スギ	
290	2	皿状木製品	2-2区大溝3層 No.327下	231×(94)×高19	"	ニレ科ケヤ キ属	
291	7	円形板	0-4区大溝3層	275×(105)×6	"	スギ科スギ	両面赤彩。小孔1ヶ所。 復元径30cm弱
292	11	"	3-2区大溝2層 底	(180)×(74)×6	板目取り	"	復元径19.5cm
293	6	"	1-3区大溝3層	径285×16	"	"	桶底板か
294	10	"	3-2区大溝2層 底	(147)×(31)×7	"	"	復元径約20cm
295	22	編台目盛り板	1-4区大溝3層	(94)×1150×24	"	"	孔5ヶ所。刻み79ヶ所。
296	21	経(布)巻具	2-1区大溝3層	879×42×16	"	"	
297	43	鞘状木製品	1-2区大溝3層 No.319下	(653)×44×10	"	"	
298	92	木鋏	1号井戸覆土下層	49(身部30・茎部19)×身 部8・茎部径4	辺 材	-	四稜鋏
299	17	刀形木製品	0-4区大溝3層	826(刃部644・把部182)× 刃部51・把部50×12	板目取り	ブナ科アカ ガシ亜属	諸歯10ヶ所
300	18	栓	1-4区大溝3層	245×115・82×52・31	柁目取り	スギ科スギ	隅丸方形孔1ヶ所(53×37mm)
301	19	柄状木製品	2-4区大溝3層	193×22×16	"	"	
302	34	板	0-4区大溝3層	(278)×(32)×9	"	"	不規則孔10ヶ所(2~5mm)
303	32	不明木製品	"	31×78×6	板目取り	"	三角形刻み2ヶ所
304	31	"	2-1区大溝3層	117×84×9	柁目取り	"	方形・円形孔各1ヶ所
305	9	楔形木製品	2-3区大溝3層	(184)×28×15	"	"	



第12表 下層出土遺物観察表 11

図No	実No	名 称	出 土 地 点	法 量 (mm) 長さ×幅×厚さ	木取り	樹 種	備 考
306	8	楔形木製品	3-1区大溝3層	187×31×15	柁目取り	スギ科スギ	
307	19	板	1-4区大溝3層	309×227×7	"	"	孔2ヶ所
308	46	板(礎板)	4-1区大溝2層底	274×98×50	"	"	中央部に凹部
309	47	板	2-1区大溝3層	325×110×22	"	"	孔7ヶ所、溝1ヶ所
310	74	"	2-1区大溝3層	(1450)×104×15	板目取り	"	
311	77	"	1-1・2区大溝3層	1200×108×24	"	"	孔4ヶ所
312	80	"	1-2区大溝3層	(1040)×94×13	"	"	孔1ヶ所
313	81	"	1-3区大溝3層	616×(74)×18	"	"	方形孔1ヶ所
314	82	"	1-4区大溝3層	1005×164×20	"	"	
315	49	"	1-2区大溝3層	(810)×(116)×20	柁目取り	"	
316	51	"	1-1区大溝3層	614×138×26	板目取り	"	
317	70	"	1区大溝3層	(623)×160×28	"	"	
318	38	"	0-4区大溝3層	(350)×154×15	"	"	
319	39	"	1-2区大溝3層	(470)×(60)×16	柁目取り	"	
320	48	"	2-4区大溝3層	(435)×105×16	"	"	
321	50	"	1-4区大溝3層	(547)×109×22	板目取り	"	
322	44	"	3-3区大溝3層	253×(126)×19	"	"	
323	69	"	1-2区大溝3層	266×92×19	柁目取り	"	
324	55	"	1-4区大溝3層	157×131×24	"	"	長方形孔1ヶ所
325	54	"	"	592×(260)×19	板目取り	"	
326	53	"	2-3区大溝3層	610×(239)×25	柁目取り	"	
327	52	"	0-3区大溝3層 セクションa	529×172×21	板目取り	"	
328	88	"	2-3区大溝3層	223×115×12	柁目取り	"	孔2ヶ所
329	41	"	1・2区大溝3層	(298)×63×23	板目取り	"	
330	33	"	1-3区大溝3層	202×(40)×8	柁目取り	"	
331	45	井戸側材	1号井戸	(158)×(116)×22	くり抜き材	ブナ科シイ属	372と同一個体
332	86	板	1-1・2区大溝3層	2725×(108)×21	柁目取り	スギ科スギ	
333	57	加工材	1-1区大溝3層	210×292×88	"	トチノキ科 トチノキ属	未製品か
334	56	"	0-4区大溝3層	195×199×91	"	スギ科スギ	未製品か
335	36	板	1-3区大溝3層 No.293下	(119)×72×11	板目取り	ブナ科アカ ガシ亜属	
336	37	"	1-2区大溝3層	(71)×(66)×10	柁目取り	ニレ科ニレ 属	
337	35	"	1-1・2区大溝3層	98×72×16	板目取り	ブナ科シイ 属	
338	58	加工材	2-1区大溝3層	100×114×62	柁目取り	ムクロジ科 ムクロジ	未製品か
339	61	"	0-4区大溝3層	85×111×27	"	"	未製品か
340	59	"	1-2区大溝3層	(153)×92×53	辺 材	ブナ科シイ 属	断面三角形、一部炭化

第13表 下層出土遺物観察表12

図No.	実No.	名 称	出 土 地 点	法 量 (mm) 長さ×幅×厚さ	木取り	樹 種	備 考
341	42	板	2-1区大溝3層	(475)×(60)×21	板目取り	スギ科スギ	
342	91	棒	"	(600)×37×40	辺 材	ブナ科クリ	
343	101	"	2-2区大溝3層	(464)×44×37	柱目取り	-	
344	24	"	2-1区大溝3層	(508)×径23	辺 材	スギ科スギ	上端抉り
345	28	"	2-3区大溝3層	(458)×27×20	"	"	
346	30	"	"	527×12×9	"	"	
347	85	"	1-2区大溝3層	438×59×28	"	"	
348	27	"	"	(198)×径16	"	"	
349	23	棒	2-2区大溝3層	267×10×9	"	スギ科スギ	
350	25	"	1-3区大溝2層	(287)×15×8	板目取り	"	
351	29	"	2-3区大溝3層	235×36×30	辺 材	ニレ科ケヤ キ属	
352	72	"	"	1030×28×16	柱目取り	スギ科スギ	上端乳頭状
353	75	"	0-1区大溝3層	1331×(52)×24	板目取り	"	孔1ヶ所
354	79	"	1-4区大溝3層	1030×80×53	辺 材	ブナ科シイ 属	
355	83	"	1-2区大溝3層	(765)×32×21	"	ヒノキ科ネ ズコ属	
356	76	"	2-1区大溝3層	(823)×34×23	"	スギ科スギ	
357	89	"	1-4区大溝3層	(684)×24×19	"	"	
358	90	"	1-1・2区大溝 3層	(612)×80×55	"	ブナ科シイ 属	断面台形
359	66	"	0-4区大溝3層	(617)×142×63	心持材	カバノキ科 ハンノキ	
360	78	"	1-1・2区大溝 3層	(1248)×57×65	板目取り	ブナ科コナラ 亜属コナラ節	
361	84	"	2-1区大溝3層	(836)×径46	心持材	カツラ科カ ツラ	
362	71	"	1-2区大溝3層	(1682)×(50)×27	板目取り	ヒノキ科	方形孔5ヶ所
363	73	"	"	(1277)×51×36	辺 材	スギ科スギ	
364	67	"	"	(586)×74×40	柱目取り	"	
365	68	"	0-4区大溝3層	(549)×120×53	心持材	カバノキ科 ハンノキ	
366	65	"	1-1・2区大溝 3層	292×77×94	辺 材	ブナ科シイ 属	
367	60	"	"	230×84×68	"	"	
368	62	"	2-2区大溝3層	(290)×165×80	"	マメ科ネム ノキ属	
369	64	"	1-4区大溝3層	(319)×径94	心持材	ブナ科アカ ガシ亜属	先端尖る
370	63	"	"	197×78×56	辺 材	スギ科スギ	炭化
371	87	"	"	(247)×154×92	心持材	カバノキ科 ハンノキ	全面炭化
372	1	井戸側材	1号井戸	径約450×高約620×37	くり抜き材	ブナ科シイ 属	

第14表 上層出土遺物観察表1

図No.	実No.	器種	出土地点	法量 (cm)			遺存度 /36	色調	胎土	備考
				口径	器高	その他				
373	22	須恵器坏A	上層1区1号溝	12.0	3.2	底径7.2	2	淡灰色	粘質で石英・長石粒が混じる	底部外面へラ記号 高松・押水産
374	27	土師器碗A	上層3区5号落ち込み	-	-	底径5.6	0	黄橙色	微砂粒多く混じる	
375	5	須恵器坏蓋	上層4-2・3区包含層	21.8	-		2	灰色	粘質で石英・長石粒が混じる	重ね焼きIIb類 高松・押水産
376	2	須恵器坏蓋	上層2区ピット5覆土	17.0	-		17	灰色	"	天井部外面墨書、 重ね焼きIIb類
377	15	須恵器坏B	上層4-1区包含層	-	-	台径8.2	0	"	"	高松・押水産
378	1	須恵器坏A	上層1-4区包含層	12.4	3.0	底径6.6	12	"	"	高松・押水産
379	30	"	上層包含層	-	-	底径6.4	0	淡灰色	"	底部外面墨書 高松・押水産
380	7	内黒土師器碗B	上層4-4区包含層 上層5-1区包含層	-	-	台径6.4	0	浅黄橙色	微砂粒少量混じる	
381	4	土師器碗A	上層5-2区包含層	-	-	底径4.8	0	灰黄色	"	
382	25	緑釉碗A	上層3-1区包含層	-	-	底径8.0	0	灰白色	粘質	釉かすかに残る
383	20	須恵器瓶類	"	-	-		0	淡灰色	粘質で石英少量混じる	外面降灰、沈線1条。 高松・押水産
384	16	"	上層4-2・3区包含層	-	-		0	灰色	粘質で石英・長石混じる	高松・押水産
385	9	須恵器壺・瓶類	上層4-4区包含層 上層5-1区包含層	-	-	台径7.7	0	淡灰色	粘質で微砂粒混じる	高松・押水産
386	8	須恵器横瓶	"	13.4	-		2	灰色	粘質で石英・長石混じる	外面自然釉付着、 高松・押水産
387	6	須恵器甕	上層1-1区包含層	-	-		0	内面灰色 外面灰黄色	粘質で石英・長石多く混じる	外面自然釉付着、 高松・押水産
388	23	"	上層1-4区包含層	-	-		0	淡灰色	"	高松・押水産
389	13	白磁碗	上層2区1号溝	17.2	-		5	灰白色	黒色細粒混じる	乳白色透明の釉
390	14	青磁碗	上層2-4区包含層	15.0	-		3	灰色	白色細粒混じる	オリーブ灰色の釉
391	28	珠洲焼甕	上層6区包含層	-	-		0	灰色	砂粒多く混じる	
392	29	肥前陶器溝縁皿	上層4-4区包含層 上層5-1区包含層	12.1	-		4	"	黒色の吹き出し若干あり	淡灰オリーブ色・ 透明の釉
393	12	瀬戸・美濃焼灰釉入子	上層5-2区包含層	3.9	1.9	台径2.5	34	灰白色	黒色細粒混じる	灰オリーブ色・ 透明の釉
394	10	土師質土錘	上層6区包含層	長8.0	幅3.9	孔径1.4	-	灰黄～灰色	石英粒混じる	残存重量65.0g
395	石14	鉄製品	上層3-1区包含層	(5.3)	幅2.1	厚さ0.1	-	-	-	
396	石16	砥石	上層4-1区包含層	長5.5	幅5.3	厚さ2.6	-	-	軽石	重量11.8g
397	19	須恵器坏蓋	上層2-3区ベース土	12.5	-		4	灰色	粘質で石英・長石少量混じる	重ね焼きIIb類 高松・押水産
398	24	須恵器坏蓋	上層3区ベース土	12.6	-		4	灰色	"	"
399	17	須恵器坏蓋	上層4-2区ベース土	12.8	-		5	灰色	"	"
400	18	須恵器坏B	上層4-3区ベース土	-	-	台径8.9	0	淡灰色	砂粒多く混じる	底部内面磨減顕著
401	26	"	上層3-1区ベース土	-	-	台径6.9	0	灰色	粘質で石英・長石少量混じる	" 高松・押水産
402	21	須恵器坏A	下層4-3区大溝1層	-	-	底径7.6	0	浅黄色	"	高松・押水産

第15表 上層出土遺物観察表2

図No.	実No.	器種	出土地点	法量 (cm)			遺存度 /36	色調	胎土	備考
				口径	器高	その他				
403	11	須恵器 坏A	上層0-3・4区包含層	13.3	3.5	底径8.4	1	灰色	粘質で石英・長石混じる	高松・押水産
404	3	須恵器 甕	上層4-1区ベース土 下層3-3区大溝1層	-	-	胴部径 23.4	0	内面灰色 外面暗灰色	海綿骨片多く混じる	内外面磨滅顕著 羽咋産
405	石2	砥石	下層4-4区包含層	(12.1)	幅5.6	厚さ5.4	-	乳白色	粗粒砂岩	三面摩滅
406	石3	鉄滓	上層3-4区ベース土	長4.7	幅3.7	厚さ2.6	-	-		重量47.0g
407	石18	軽石	上層1-2区包・ベース土	長6.3	幅7.1	厚さ3.5	-	淡灰色		重量19.1g

第16表 上層出土遺物観察表3

図No.	実No.	器種	出土地点	法量 (cm)			色調	胎土	備考
				残存長	残存幅	厚さ			
408	15	平瓦	上層6区包含層	18.2	13.2	3.1	凹面灰色 凸面暗灰色	石英・長石他多く混じる。 海綿骨片若干	a群
409	17	"	上層4-4区・5-1区包含層	7.7	9.4	2.5	灰色	"	a群
410	14	"	上層3-3区包含層	3.2	3.2	2.5	"	"	a群
411	13	"	上層4-4区・5-1区包含層	3.5	6.8	3.1	"	"	a群
412	11	"	上層4-2・3区包含層	8.9	7.2	2.3	"	"	a群
413	16	"	上層3区包含層	5.9	7.4	2.3	暗灰色	"	a群
414	3	"	上層4-2区ベース土	5.6	5.8	2.0	灰色	"	a群
415	6	"	上層6区包含層	5.3	3.9	1.9	"	"	a群
416	5	"	上層2-4区包含層	4.7	4.0	2.0	凸面暗灰色 凹面灰色	"	a群
417	7	丸瓦?	上層包含層	4.3	3.9	1.8	暗灰色	"	a群
418	19	平瓦	上層4-2区ベース土	6.0	4.9	2.1	淡灰色	石英・長石他混じる。 海綿骨片多い。	b群
419	4	軒丸瓦	上層6区包含層	7.9	4.1	1.9	暗灰色	石英・長石他多く混じる。海綿骨片若干。	a群 瓦当欠落
420	18	平瓦	上層4-1区ベース土	5.8	4.3	2.3	淡灰色	石英・長石他混じる。海綿骨片多い。	b群
421	2	"	上層3区ベース土	6.8	4.4	2.4	灰色	"	b群
422	12	"	上層4-3区ベース土	6.3	5.2	1.9	"	"	b群
423	8	"	上層4-4区・5-1区包含層	6.4	4.2	2.4	淡灰色	"	b群
424	1	"	上層4-3区ベース土	5.6	6.1	2.1	"	"	b群
425	10	"	上層5-1区包含層	6.4	7.7	2.0	灰色	"	b群























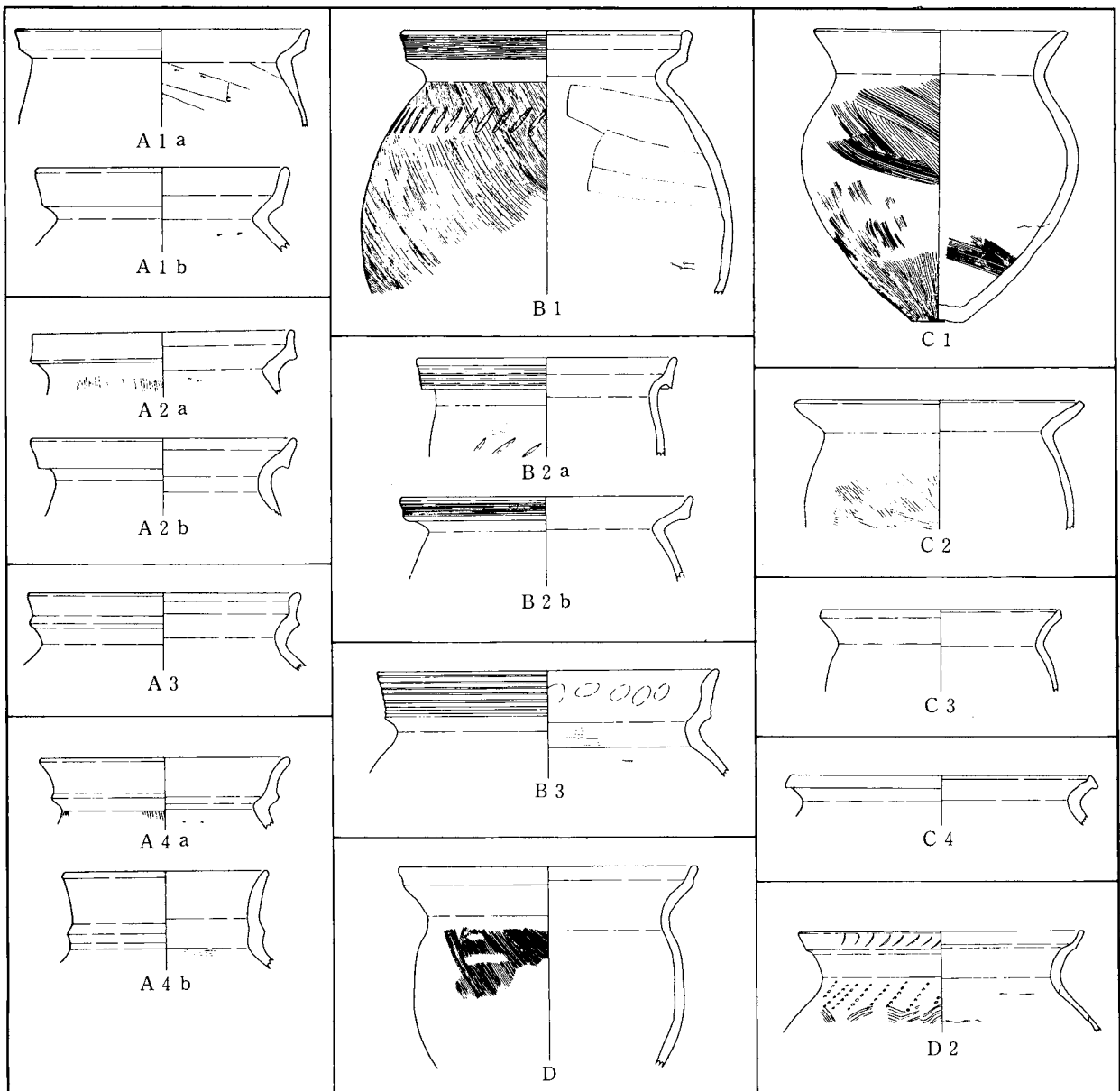
# 第5章 まとめ

## 第1節 下層遺構出土土器

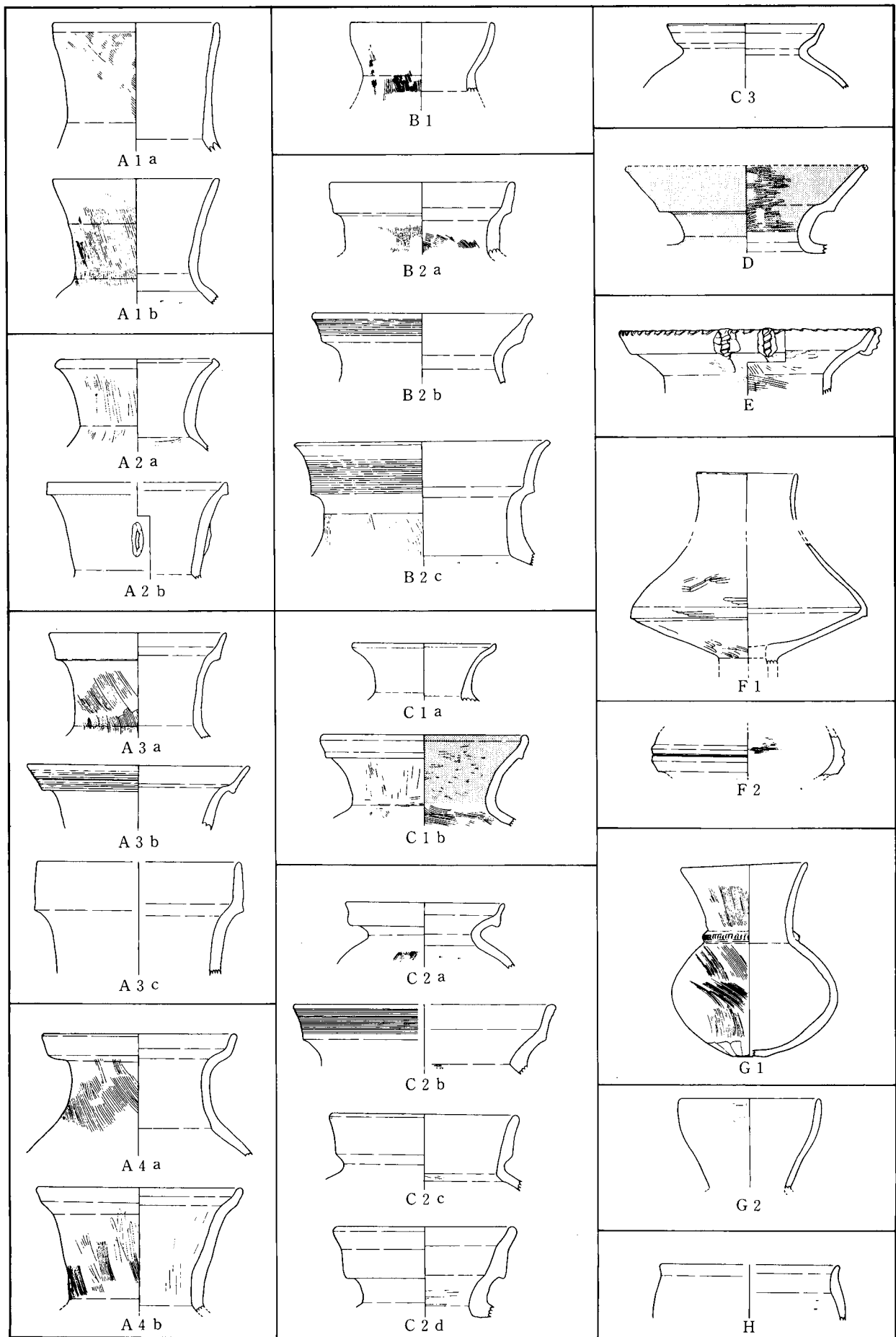
第3章第3節では、大溝出土土器に形から分類を加え報告した。統一した視点を欠き、時期差を内包したままの不十分な分類であったが、以下では、その各分類の代表的な土器を図示するとともに、羽咋市柳田ウワノ遺跡（谷内尾1973）、鹿島町徳前C遺跡（県センター1986）、志賀町鹿首モリガフチ遺跡（県センター1984）など、該期土器のうち能登地区に所在し編年上の位置づけがなされている土器群と対比することで本遺跡出土土器を概観していきたい。また、分類に出土層位からの説明を加えることで、下層大溝の埋没過程をうかがいたい。

### 甕形土器

無文有段口縁部をもつA類の中では、A1類は時期幅をもつが、大方は徳前C遺跡第1群土器（以下、第1群と省略）に含まれよう。なかでは短く折り上げた口縁部端を角張らせる120はより古相を示す可能性がある。幅



第51図 甕形土器の分類



第52図 壺形土器の分類



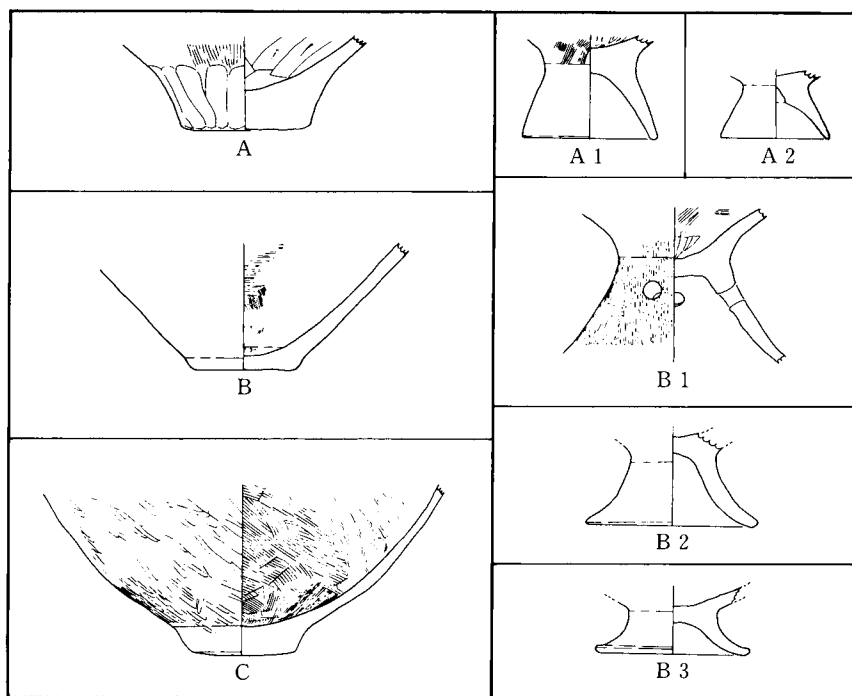
狭の有段部を上下に伸張するA 2類は第1群E 3類に、口縁部下端を突出させるA 3類は徳前C遺跡第2群土器（以下、第2群と省略）B 6類に、口縁帯部を高く延ばし内面を明瞭な有段とするA 4類も第2群B 5類に対比できよう。有段擬凹線口縁部を持つB類では、B 1・B 2類は肩部に連続刺突を加えるもので第1群A 1類に、B 3類は第1群A 2類あるいは第2群B 3類に対比できる。口縁部内面に指頭圧痕を加える101や口縁端部の尖鋭度の強い209などは第2群に比定できよう。くの字口縁部をもつC類は口縁部片のみでは時期決定が困難であるが、口縁端部を上または上下に伸張するC 3・C 4類は第1群に多く認められる。C 1類のなかでは210・211が最大径を胴部上半にもち、比較的幅広な底部であることから、第1群に属すると考えられる。また、受け口状口縁をもち口縁部・肩部に櫛歯刺突を加える近江系の技法をもつものは、徳前C遺跡では第1群D 2類あるいはD 3類として定量を占めるが、荻市遺跡では甕に1点、鉢に2点存在するのみである。これらの甕の出土層位をあらためて示すなら、5～8が第1層、199～204・210・211・225・227は第3層出土、他は第2層あるいは第1・2層他出土である（以下、出土層位において番号を示さないものは第2層あるいは第1・2層他出土）。

#### 壺形土器

長筒状口頸部をもつA類は多様な形態を示すが、大方は第1群A類のなかで捉えられよう。柳田ウワノ遺跡溝状遺構Aにも類例を多く認める。5点を数える短筒状口頸部のB類は徳前C遺跡では比較資料に乏しい。なかではB 2 c類は口縁部を大きく伸張・外反し第1群より新しい様相を示す。短頸のC類も多様な形態をもち、時期差を含む。C 2 c類が第2群1類に対比できるほか、C 2 d類などが柳田ウワノ遺跡2号住居跡出土土器に類例を求めよう。二重口縁を持つD類は時期幅をもつ。15～20が第1層出土、216～219、221・223・224・248が第3層出土である。

#### 高坏形土器

坏部A類は第1群A 3類や柳田ウワノ遺跡溝状遺構A出土土器に類例を多く認める。坏部B 2・3類、脚・裾部A類、B類の大方もここに比定できよう。坏部B 2・B 3類の口縁部：体部比をみるなら（谷内尾1984）法仏II式期に位置づけられるものであろうか。宿東山遺跡（県センター1987）の鉢に同様の形態を認める。坏部B 1類170は月影I式に位置づけられている七尾市津向大杉崎遺跡出土土器に類似する。坏部C類、脚・裾部A 1 a類のうち幅狭の坏底部平坦部を持つ29、A 1 c類などは第2群に対比できよう。坏部C 2類および脚・裾部A 2 a



第53図 底部、脚台の分類

類は有文高坏である。坏部は平坦な底部に内湾する口縁部をもち、口径は図より小さくなる可能性がある。出土層位的には坏部238～240・242・243、脚・裾部228・229・231・264は第3層出土。また、脚・裾部25・28・29は第1層出土である。

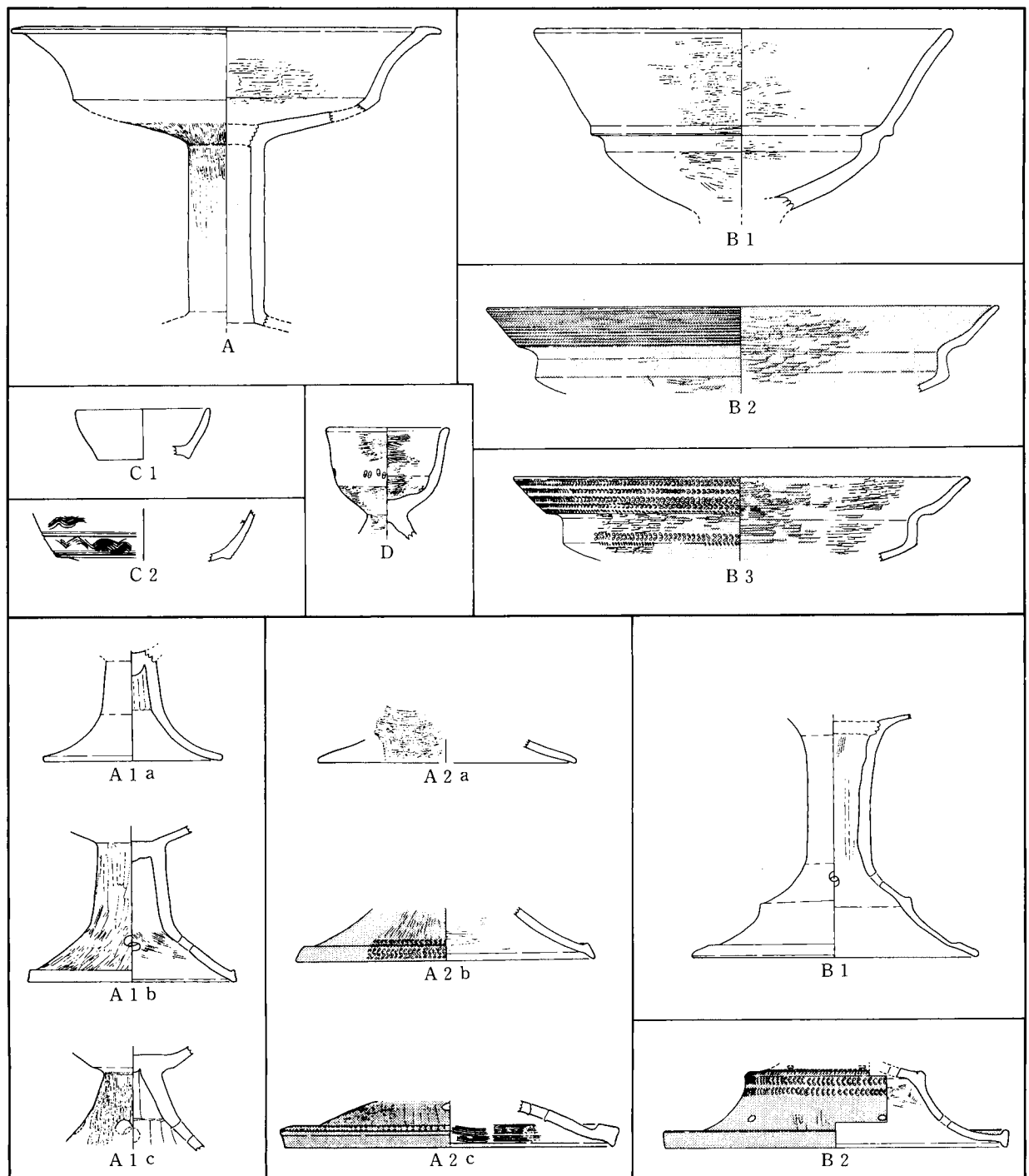
#### 器台形土器

坏部A類、脚・裾部A類、B類の大方は第1群に、脚・裾部C類は第2群B類に対比できる。これも出土層位を示すと坏部27、脚・裾部232～234・235・236・246が第3層出土、坏部27、脚・裾部26・230が第1層出土で

ある。

ここまでで茨市遺跡出土土器の主な器種について周辺の遺跡と対比してみてきた。徳前C遺跡や柳田ウワノ遺跡溝状遺構A、同2号住居址、鹿首モリガフチ遺跡T18調査区出土土器にそれぞれ多く比較資料を認めることができた。徳前C遺跡第1群は法仏式併行に、徳前C遺跡第2群は月影Ⅱ式から白江式併行、溝状遺構Aは法仏Ⅰ式に、2号住居址は月影Ⅱ式に、また、T18調査区は法仏Ⅱ式併行に位置づけられているが、本遺跡出土土器はこれらの範囲において説明できるものといえる。

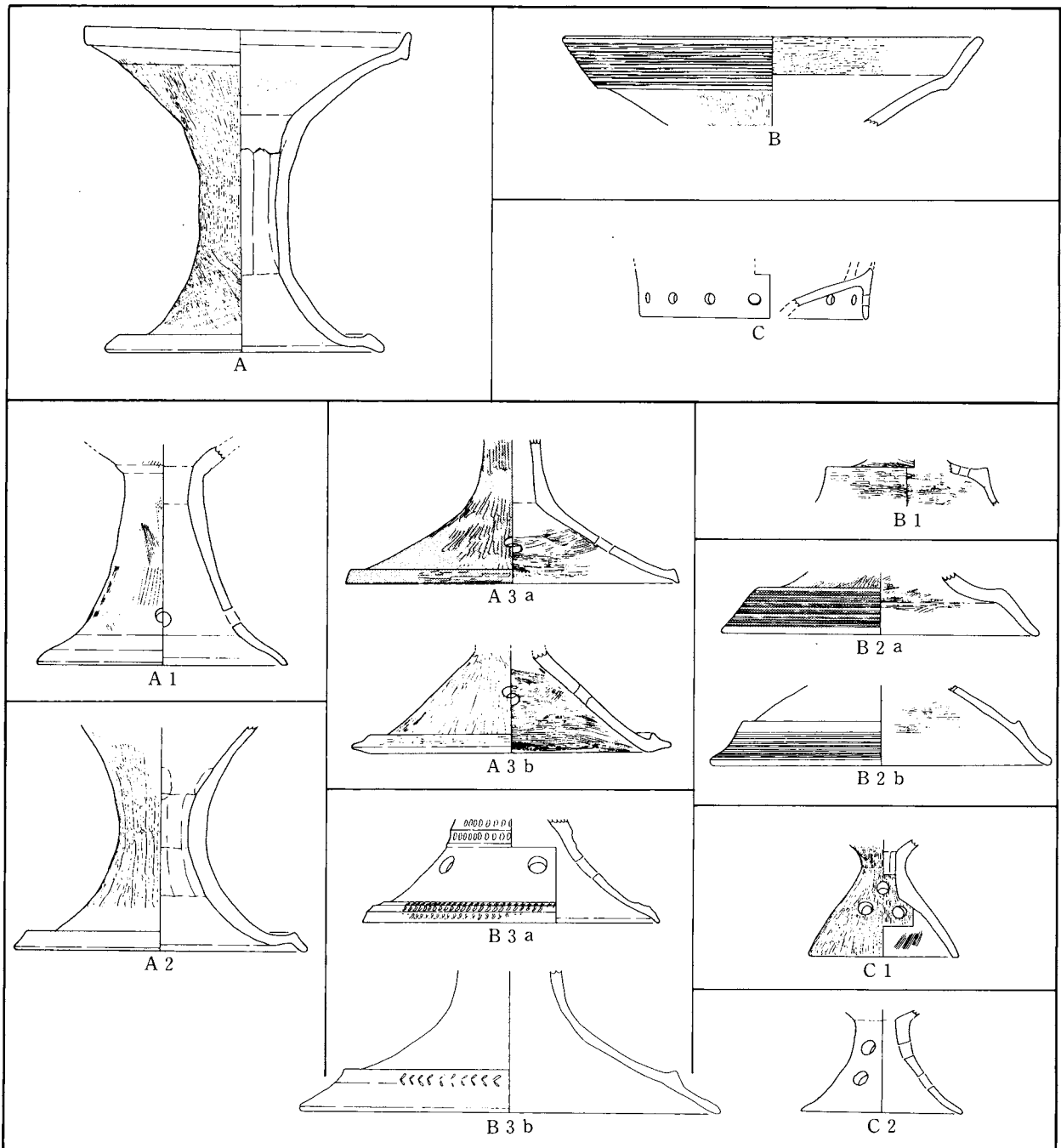
大溝は3層に分層されたが、各層出土土器をみると、大溝開削頭初の滞流状態の中で堆積していったと考えられる淡灰褐色粘質の第3層には、法仏式の土器が主体的に存在する。さらに、この第3層より大量に出土した木製遺物の遺存状況より指摘されているが、土器の観察からも1・2層と比較し摩耗の少ない大片が多く、類似す



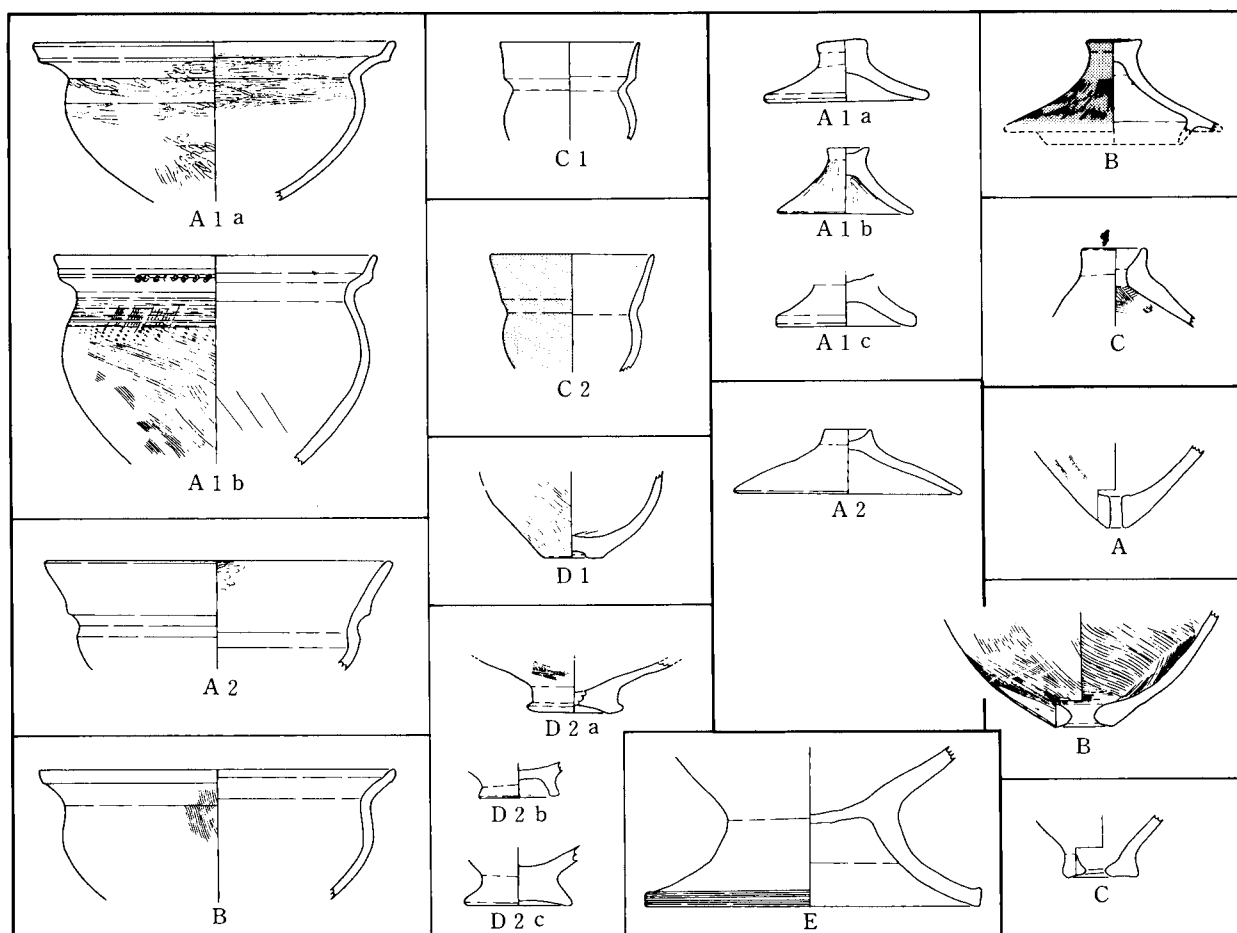
第54図 高坏形土器の分類

る土器も目につくことから、その堆積が比較的短時間であったことがうかがえる。黄褐色砂質の第2層は大量の土器を出土しており、時期的には法仏式から月影式併行の土器が認められた。最上層の第1層は黄灰褐色あるいは暗灰褐色粘質であり、大溝廃絶後の流入土と考えられるが、この第1層および第2層中には白江式併行の土器も含まれた。各層出土の土器をみると一部例外もあるが下層から上層に向けてこのような時間的変化を大略追うことができるようである。第3層と第2層の間には遺物包含量の少ない黄褐色粘質土層を挟むことからその間に若干の時間的空白も予想される。

以上に、本遺跡下層大溝出土の弥生時代後期から古墳時代前期の土器についてまとめてきた。多数の方から有益なご教示を頂いたにもかかわらず、時間的位置付けの不充分さに加え、空間的位置付けを欠き、該期資料の蓄積に資するにははなはだ不十分な報告となった。事実誤認も多々あると思われる。大方のご叱正を頂ければ幸いである。



第55図 器台形土器の分類



第56図 鉢形土器、蓋形土器、有孔鉢の分類

引用・参考文献

谷内尾晋司 1973「柳田ウワノ遺跡」『羽咋市史 原始古代編』羽咋市史編纂委員会  
 湯尻修平 1978『鹿島町徳前C遺跡調査報告I』石川県教育委員会  
 三浦純夫 1980『上田出西山遺跡発掘調査報告書』押水町教育委員会  
 西野秀和他 1982『七尾市奥原縄文遺跡・奥原遺跡』石川県立埋蔵文化財センター  
 石川県立埋蔵文化財センター 1983『鹿島町徳前C遺跡(IV)』  
 石川県立埋蔵文化財センター 1984『鹿首モリガフチ遺跡』  
 谷内尾晋司 1984「鹿首モリガフチ遺跡出土土器の様相と占める位置」『鹿首モリガフチ遺跡』石川県立埋蔵文化財センター  
 石川考古学研究会 1986『シンポジウム「月影式」土器について』報告編・資料編  
 石川県立埋蔵文化財センター 1986『鹿島町徳前C遺跡(II・III)』  
 石川県立埋蔵文化財センター 1987『竹生野遺跡』  
 藤田邦雄他 1987『宿向山遺跡』石川県立埋蔵文化財センター  
 北野博司他 1987『宿東山遺跡』石川県立埋蔵文化財センター  
 (社)石川県埋蔵文化財保存協会 1994『藤井サンジョガリ遺跡・高島テラダ遺跡・高島カンジダ遺跡』  
 志雄町教育委員会 1995『二口かみあれた遺跡』  
 石川県立埋蔵文化財センター 1995『谷内・杉谷遺跡群』

## 第2節 下層遺構出土木製品

弥生時代後期～古墳時代前期に位置づけられる下層大溝からは、多数の木製品が出土している。うち92点に対して実測を、91点に対して樹種鑑定をそれぞれ実施している。それらを整理したのが第17表である。本来は、奈良国立文化財研究所などで検討されたような機能・形態に従った分類を実施した上で、樹種鑑定結果と比較・検討すべきことは論を待たない。しかし本遺跡では用途の判明した木製品に限られるため、第3章第3節で記述した順にそれぞれの傾向を記述したい。

全体的にみれば14～15の樹種が認められる。中ではスギ科スギが61点（67%）と圧倒的に多く、ついでブナ科15点（25%）となり、他の樹種は数点にとどまる。一般に加工が容易とされるスギ科スギは、農具類・容器類・板・棒など広範な用途に利用され、弥生時代～古代の北陸地方の傾向と一致する。また重さに耐える堅牢なブナ科は用途不明の板・棒に偏在して用いられる中で、アカガシ亜属のみ鋏・鋤類に使われる特徴をもつ。

農具のうち鋏・鋤類は、ブナ科アカガシ亜属とスギ科スギが同程度存在する。ブナ科アカガシ亜属が鋏・鋤類本体に使われるのに対して、スギ科スギは泥除けなどの付属品に使われたと考えられる。金沢市畝田遺跡出土農具で確認できたような用材の使い分けが存在した可能性が高い。祭祀具・武具では、刀形木製品はブナ科アカガシ亜属を用いる。また鞘状木製品は、色彩や精緻性の劣るスギ科スギを用いることから実用品の可能性を多分に残す。容器類では、方形盤・皿状木製品がニレ科ケヤキ属を用いるのに対して、桶・杓子形木製品・円形板はスギ科スギを用いる。また器台には唯一イチイ科カヤを用い、その特殊性が伺われる。装飾性を強調するか、実用性を強調するかで、何らかの用材の選択がおこなわれた可能性が高い。

様々な用途を含むと考えられる小形雑具・板・棒・加工材（未製品含む）では、小形雑具・板がスギ科スギを偏重して用いる。加工の容易性を重視した用材の選択がおこなわれた可能性が高い。一方、棒・加工材はスギ科スギを主体にしつつも多様な広葉樹・針葉樹を使っており、本遺跡周辺で利用可能な材をできるだけ利用したものと考えられる。

第17表 下層出土木製品樹種一覧表

用途	樹種	ブナ科			ニレ科		カツラ科 カツラ	マメ科 ネムノキ属	ムクロジ科 ムクロジ	トチノキ科 トチノキ属	スギ科 スギ	ヒノキ科		イチイ科 カヤ
		カバノキ科 ハンノキ	コナラ属 コナラ節	シイ属	ク	アカガシ 亜属						ケヤキ 属	ニレ 属	
農具(鋏・鋤類)					3						2			
〃 (編目盛板)											1			
経(布)巻具											2			
祭祀具・武具					1						2			
容器類						2					3			1
円形板											4			
小形雑具											6			
板			1		1		1				27			
棒	3	1	5	1	1	1		1	1		14	1	1	
加工材			1						2	1	1			
井戸側材						1								

### 第3節 上層遺構

上層遺構は検出した遺構がほとんどなく、周辺の地形を加味すれば、調査区は集落の縁辺部にあたると考えられる。集落の中心位置に関しては、①国道159号線東側の一段高くなった丘陵裾部（現在、畑地・宅地）で瓦・土器の散布が認められること、②県教育委員会文化財課が実施した分布調査・立ち会い調査の結果、調査区南西側約200mにわたり遺構・遺物が確認できたことから、調査区南東側の舌状に張り出した丘陵裾部と、それに続く微高地に立地した比較的規模の大きな集落と推される。そして出土遺物から7世紀後半代に形成、10世紀前半代まで継続して営まれ、その後も15世紀代まで断続的に盛衰を繰り返した可能性が高い。

このうち7世紀後半代と考えられる上層遺構の形成期に関して、若干言及しておきたい。県内では北陸道（および支道）の推定ルートに近接した地点では、7世紀末葉～8世紀初頭に特徴的な集落の形成が認められる。これらの集落は、墨書土器（加賀市篠原遺跡、津幡町加茂遺跡、太田シタンダ遺跡、羽咋市四柳白山下遺跡など）や瓦（篠原遺跡）の出土を伴う場合が多く、いずれも公的性格をもつと考えられている。本遺跡の近辺にも、後の加賀国横山駅から石動山山地に沿って能登国府へ北上する北陸道支道が想定されている。調査区の制約のため判然としないが、本遺跡の形成も一連の動きの中で理解できる可能性をもつ。

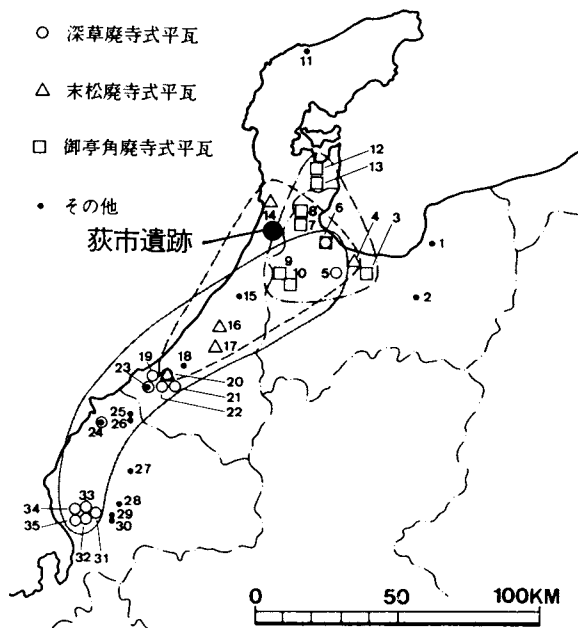
次に上層遺構の出土遺物のうち、白鳳時代に位置づけられる平瓦について整理したい。平瓦凸面は、縄目叩き（1次叩き）→スリ消し→密度の疎い装飾的な正格子叩き（2次叩き）という工程で製作されている。本立雅朗氏は北陸地方の平瓦を検討する中で、このような特徴をもつ平瓦を福井県深草廃寺を最古とする「深草廃寺系平瓦」に分類している（木立1987）。そして深草廃寺系平瓦は、越前南部と加賀南部に集中、越中西部にも分布が認められ、「1次叩きの不明な越前南部、縄叩きの痕跡を残す江沼、叩きしめが密になりつつある越中西部という3つの地域色」を指摘している。本遺跡出土平瓦は、江沼地方（現在の加賀南部）と酷似する特徴をもち、江沼地方から本地域に技術が導入されたとみて大過ないと考えられる。

また本遺跡が平瓦の消費地か生産地かという問題がある。調査結果からはいずれとも判断がつかず、両者の立場での評価と今後の課題を指摘しておきたい。

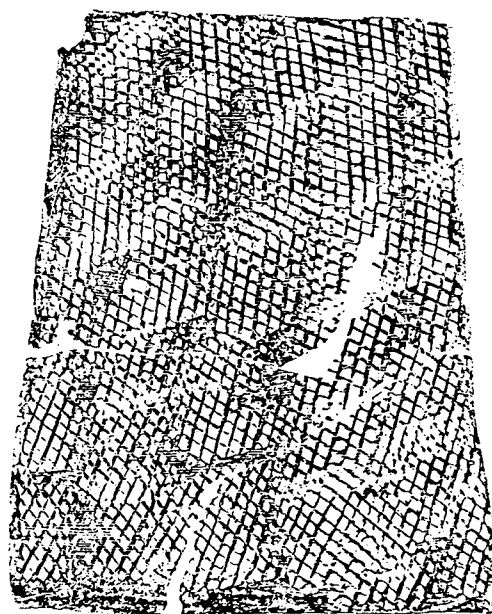
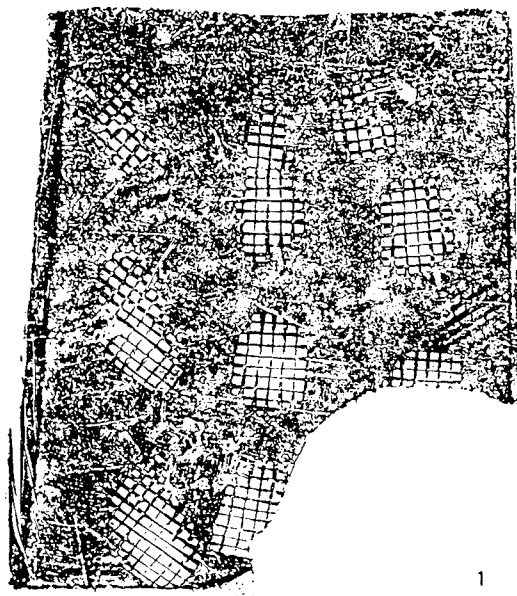
まず調査区に隣接して瓦の消費地（白鳳時代の寺院）があるとみた場合、瓦の生産地の問題が出てくる。出土した瓦は、胎土中に海面骨片を含む点に特徴をもつ。この特徴は、本遺跡下層出土土器（弥生時代後期～古墳時代前期）の他、羽咋窯跡群出土須恵器にも認められ、そのいずれかが瓦の生産地となろう。前者の場合は①調査区に比較的近い地点、後者の場合は②羽咋窯跡群内と換言できる。①とすれば、本遺跡東側に張り出した丘陵反対斜面に位置する子浦旧瓦場遺跡（直線距離約1km）が有力な候補地の一つとなる。子浦旧瓦場遺跡からは詳細不明ながら奈良・平安時代とされる軒丸瓦が出土している。また②とすれば、羽咋窯跡群で同時期に異なる二つの平瓦系譜が存在していたことになる。本遺跡出土平瓦は、前述のとおり「深草廃寺系平瓦」に属する。一方、同窯跡群に隣接する柳田シャコデ廃寺からは、細かい斜格子叩きを密にし、円弧を描きながら叩きしめる特徴をもつ「末松廃寺系平瓦」（木立1987）が出土、同窯跡群産と考えられている。今度、生産窯跡の比定を含め、能登地域内での技術系譜の整理が課題といえる。

一方、溶着平瓦や焼成の不具合を重視し、調査区に隣接して瓦の生産地（窯跡）があると仮定すれば、すでに削平を受けて調査区東側丘陵斜面が好適地といえる。平瓦の范の等質性から1基のみの単独立地と考えられ、須恵器甕（404）も類似の胎土特徴をもつことから瓦陶兼業窯の可能性も指摘できる。既存の須恵器窯跡群を大きく離れ、消費地である寺院への便を重視した一時的生産といえる。そして瓦の消費地（寺院）の比定が今後の課題となり、前述の子浦旧瓦場遺跡が候補地の一つといえる。

いずれにしても、本調査区とそれ程離れない地点に白鳳時代の寺院が存在していた可能性が高く、これは本遺跡東側の子浦川に面した谷平野の動向と密接に関連したものといえる。この子浦川に面した谷平野では、6世紀



- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 友道遺跡      | 19 宮地廃寺・篠原遺跡 |
| 2 中山王窯      | 20 弓波廃寺      |
| 3 寺町遺跡      | 21 津波倉廃寺     |
| 4 白石遺跡      | 22 保賀廃寺      |
| 5 小杉丸山1号窯   | 23 黒瀬窯       |
| 6 御亭角廃寺     | 24 波寄窯       |
| 7 小窪瓦窯      | 25 瓦谷2号窯     |
| 8 小窪廃寺      | 26 坪江遺跡      |
| 9 福田遺跡      | 27 篠尾廃寺      |
| 10 杉谷床ノ山遺跡  | 28 室谷廃寺      |
| 11 稲舟窯      | 29 野々宮廃寺     |
| 12 国分廃寺     | 30 宮谷窯       |
| 12 千野遺跡     | 31 深草廃寺      |
| 14 柳田シャコデ廃寺 | 32 大虫廃寺      |
| 15 観法寺瓦窯    | 33 高森遺跡      |
| 16 末松廃寺     | 34 片山窯       |
| 17 湯屋窯      | 35 広瀬窯       |
| 18 十九堂山遺跡   |              |



2



3

- 1 深草廃寺系平瓦  
(黒瀬1号窯出土)
- 2 末松廃寺系平瓦  
(湯屋B-1号窯出土)
- 3 御亭角廃寺系平瓦  
(国分廃寺(「能登国分寺跡」)出土)



木立1989より転載。一部改変。

第57図 北陸の白鳳時代平瓦の系譜

後半以降に散田金谷古墳・小谷寺山横穴群をはじめとする古墳群が活発に築造され、「羽咋地域で当時もっとも有力な族長」(志雄町教委1980)の奥津城と考えられている。そして、その理由の一つとして律令国家の成立を契機とする東北地方への活発なアプローチのため、羽咋と富山湾をもっとも短距離で結ぶ交通の要衝として本地域の重要性が指摘されている。このような本地域を代表する支配集団の基盤にたち、古墳築造の延長線上に寺院が建立されたと考えられる。

以上、小規模調査の二次堆積資料を介して、推測を重ねてまとめにかえたい。

#### 引用・参考文献

- 石川県教育委員会 1995『能登街道Ⅰ』歴史の道調査報告書 第二集  
木立雅朗 1987「2 篠原遺跡出土瓦の系譜」『篠原遺跡』石川県立埋蔵文化財センター  
木立雅朗 1989「2 北陸における瓦生産」『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会  
北陸古代瓦研究会 1987『北陸の古代寺院 その源流と古瓦』桂書房  
志雄町教育委員会 1980『能登散田金谷古墳』



# 図 版

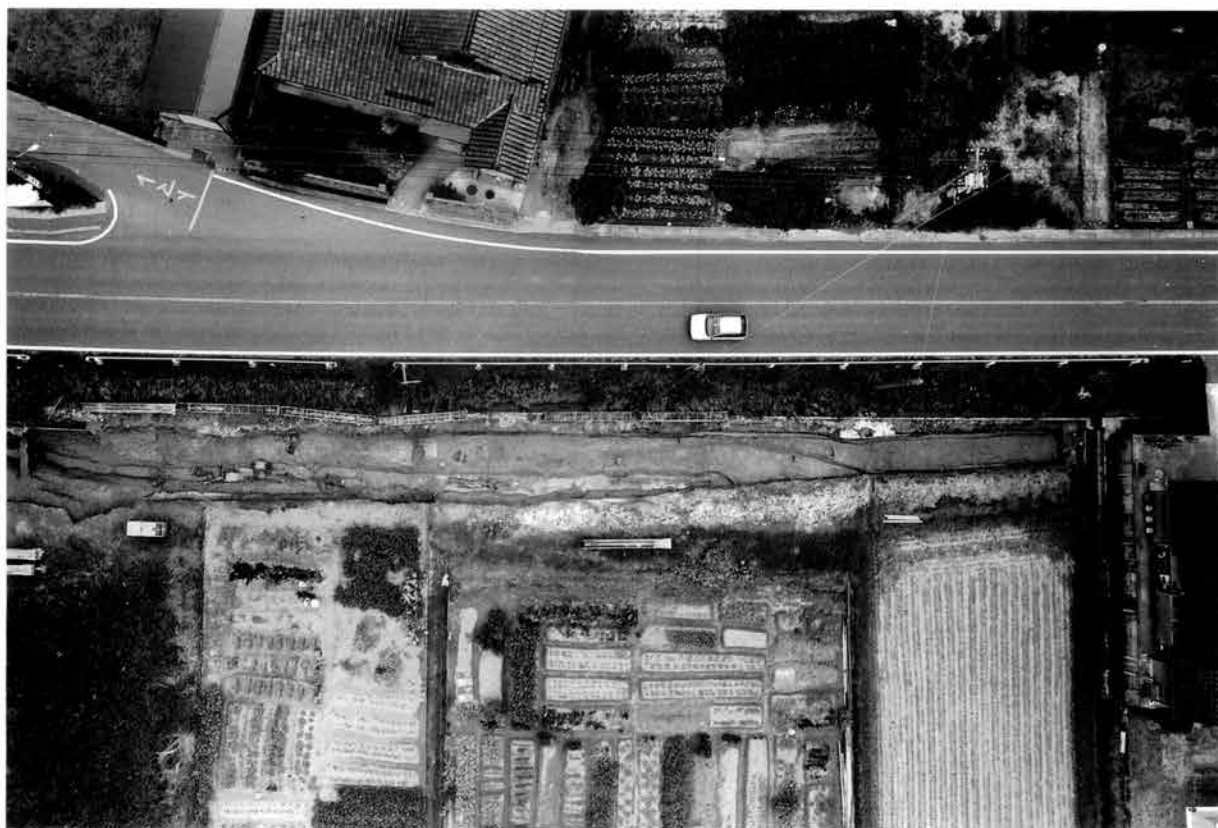




(1) 調査区遠景 (南西から)



(2) 調査区遠景 (北東から)



(1) 調査区全景



(2) 調査区全景 (北東から)



(1) 下層北半完掘状況



(2) 下層南半完掘状況



(1) 下層大溝完掘状況 (南西から)



(2) 下層大溝完掘状況 (北東から)



(1) 下層大溝完掘状況 (南西から)



(2) 下層大溝 0～2区完掘状況 (西から)



(1) 下層大溝 0～1区完掘状況（西から）



(2) 下層大溝 0～1区作業風景（北東から）





(1) 下層大溝 a - a'ライン土層 (北から)



(2) 下層大溝 a - a'ライン縄文土器出土状況 (東から)



(1) 下層大溝 b - b'ライン土層 (南西から)



(2) 下層大溝 c - c'ライン土層 (南西から)



(1) 下層大溝掘り下げ作業  
風景（南西から）



(2) 下層大溝25m付近 2層  
遺物出土状況(西から)



(3) 下層大溝23m付近 3層  
木製品出土状況（南西  
から）



(1) 下層大溝3層組み合わせ  
鋤出土状況(北東から)



(2) 下層大溝3層桶蓋出土状  
況(南西から)



(3) 下層大溝3層器台出土状  
況(北東から)



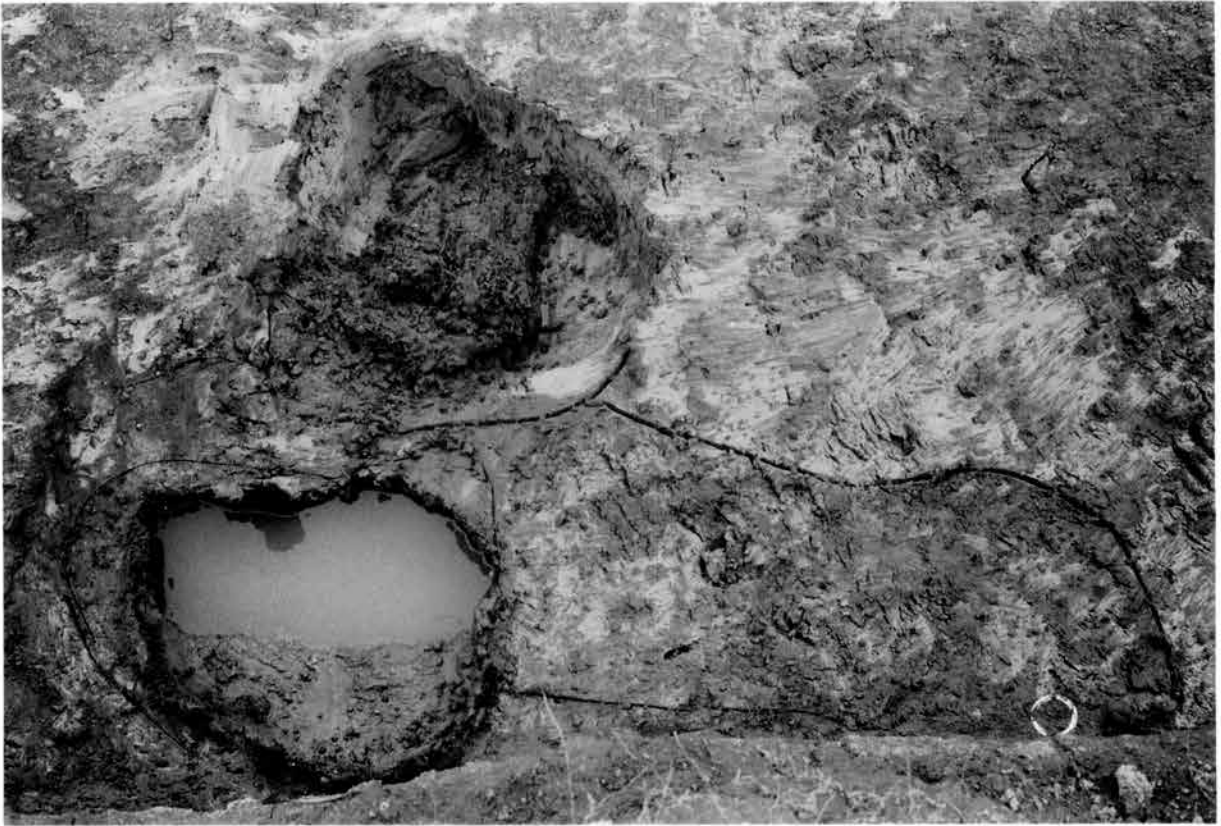
(1) 下層大溝3層刀形木製品  
出土状況(南東から)



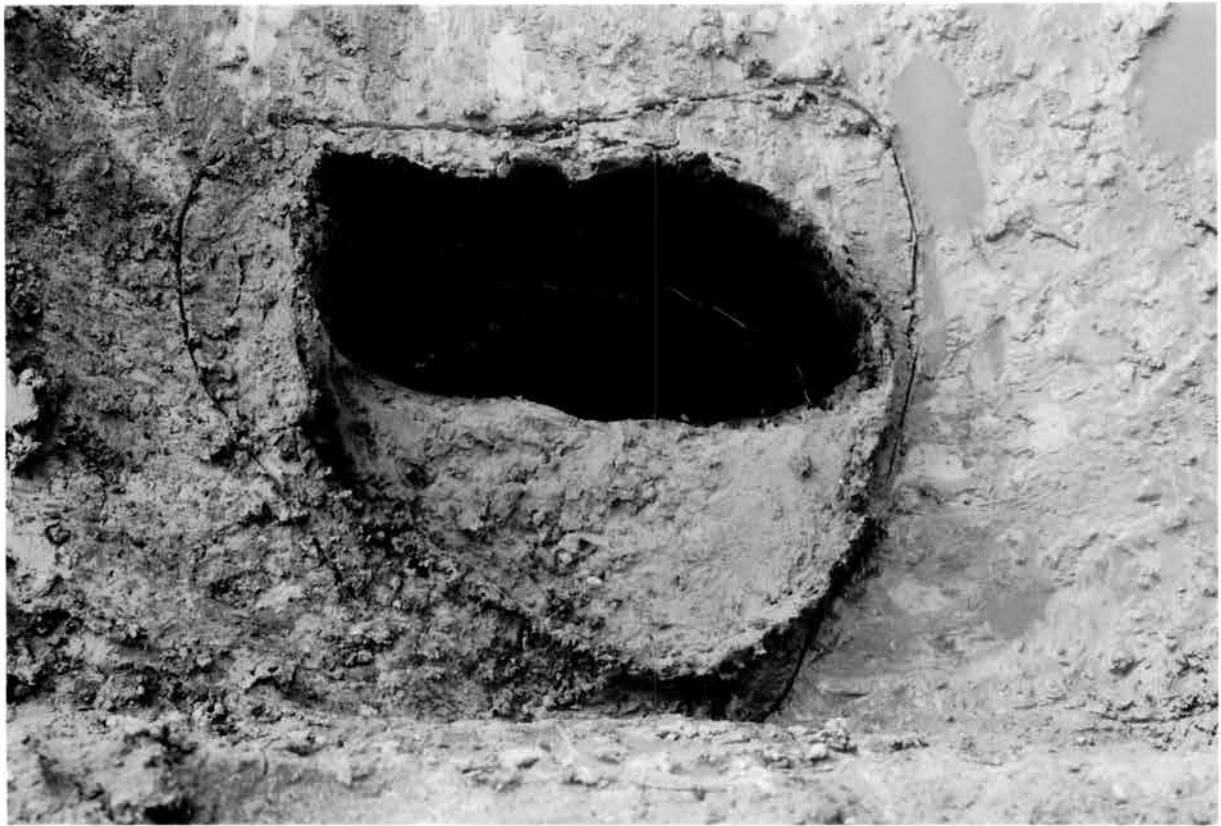
(2) 下層大溝3層栓出土状況  
(南東から)



(3) 下層大溝3層木製品出土  
状況(北東から)



(1) 下層1号井戸周辺検出状況



(2) 下層1号井戸半裁状況



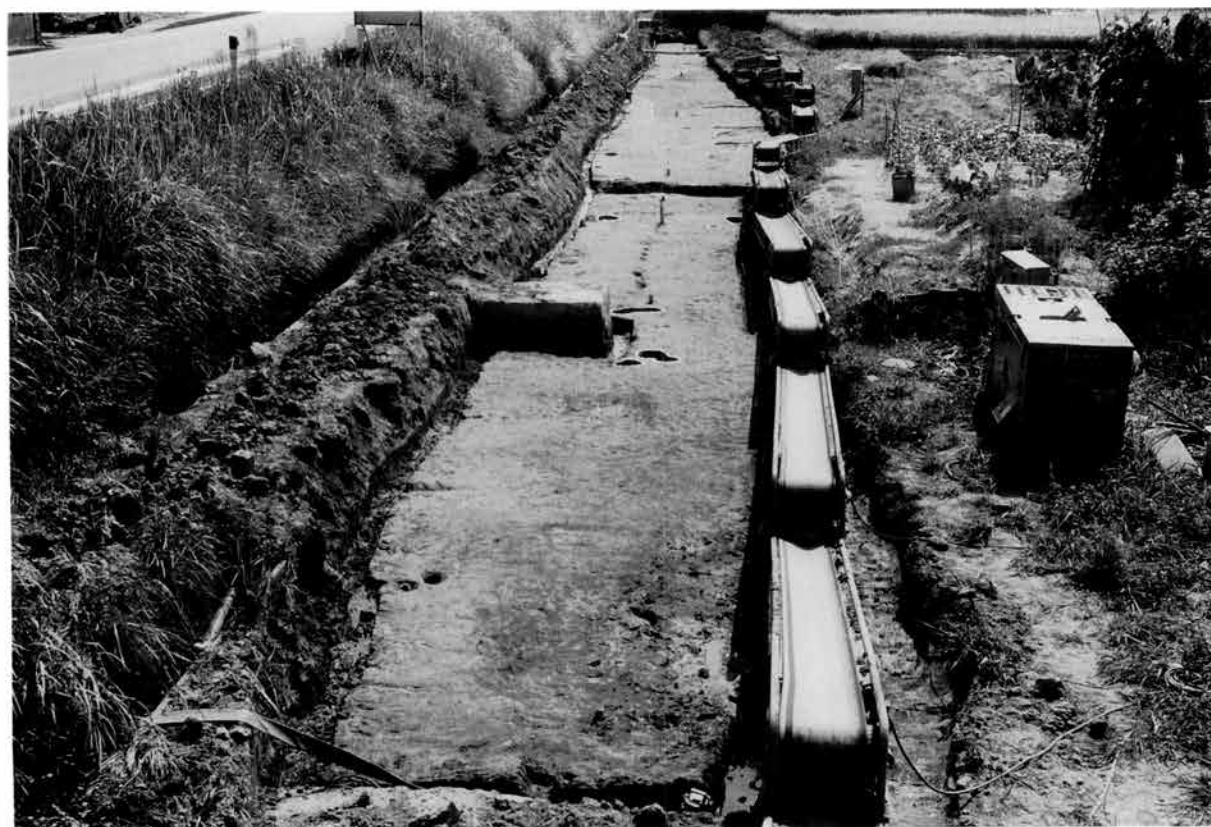
(1) 下層1号井戸土層（北西から）



(2) 下層1号井戸半裁状況（南東から）



(1) 上層完掘状況（南西から）

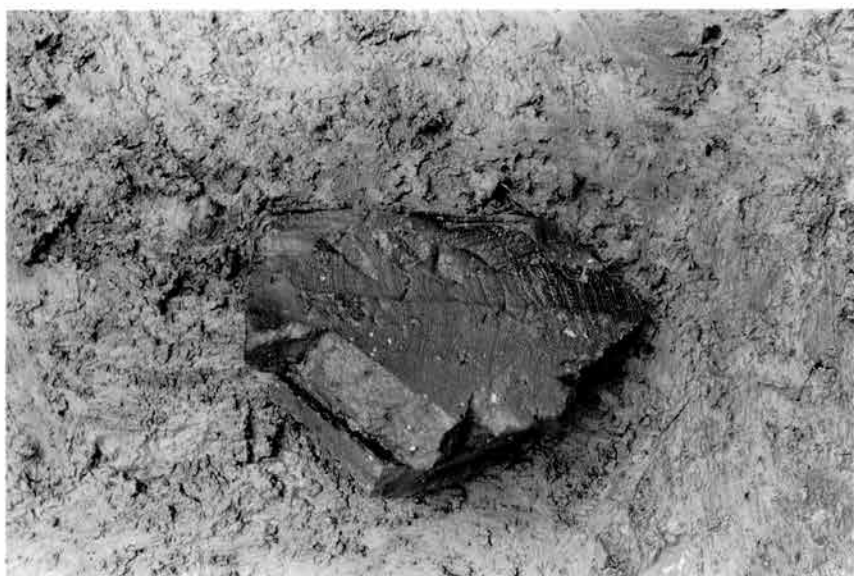


(2) 上層完掘状況（北東から）





(1) 上層 4～6 区完掘状況  
(北東から)

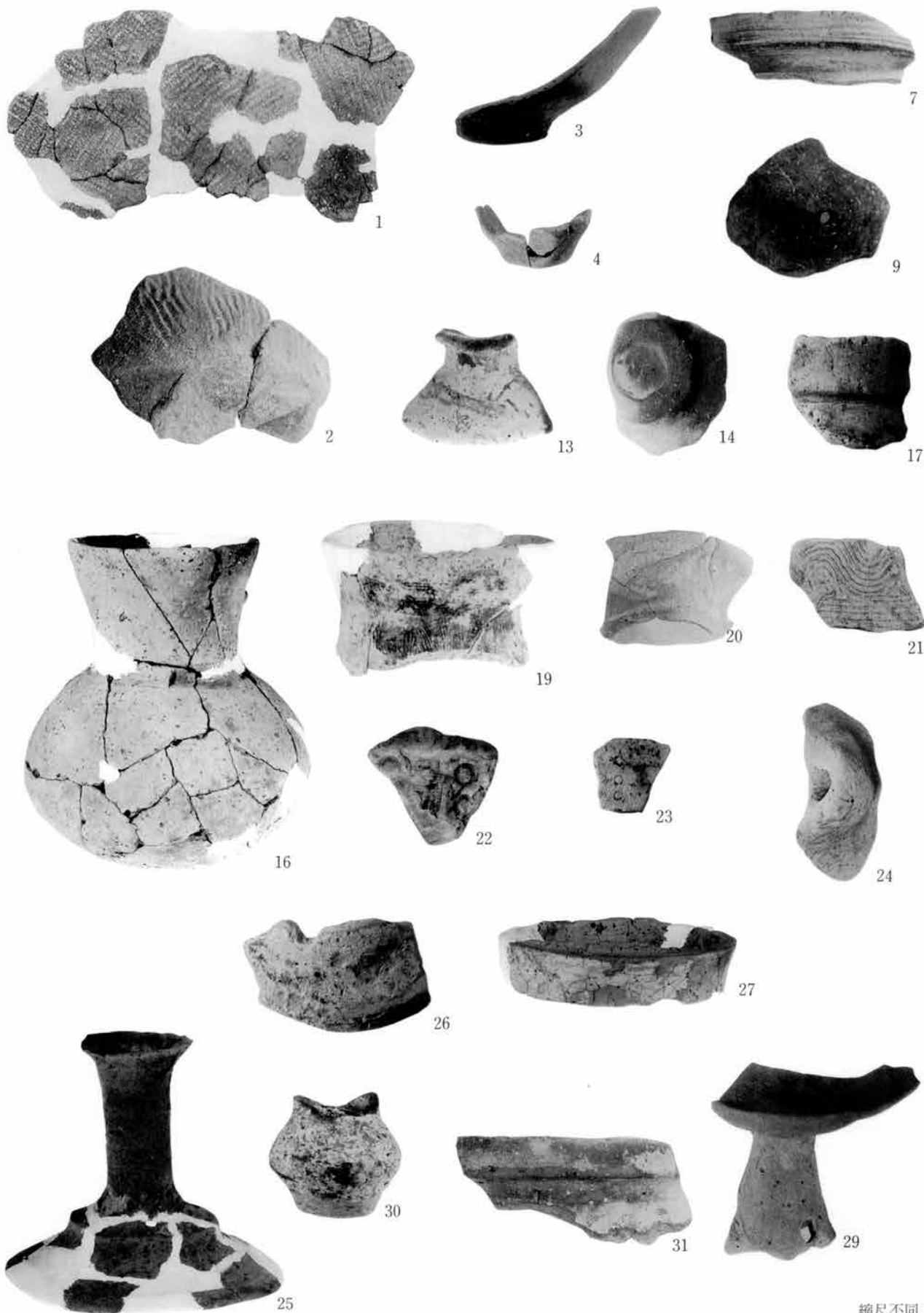


(2) 上層 6 区瓦出土状況 (北  
西から)

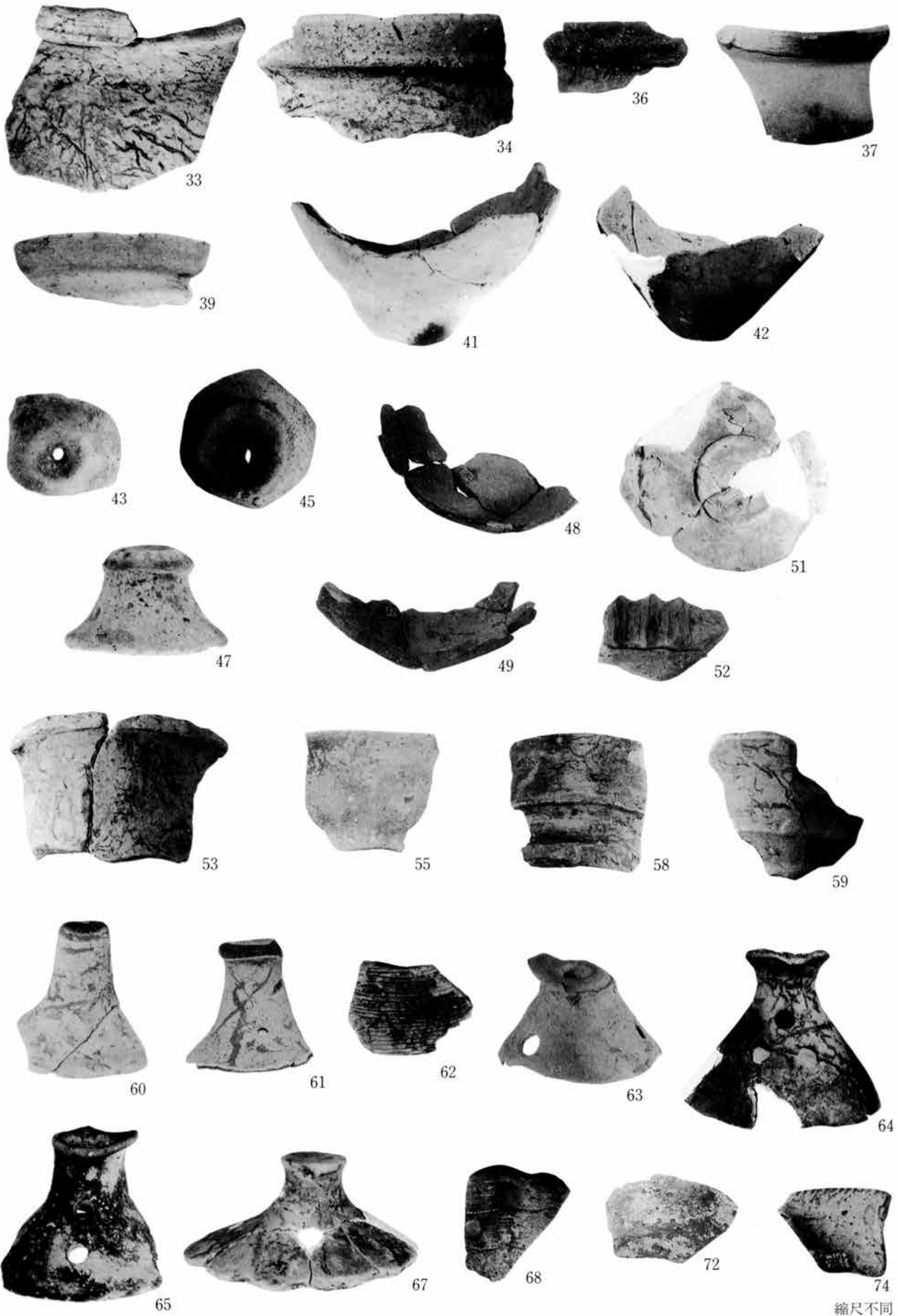


(3) ベース土下試掘調査風景  
(南から)

図版 16 下層出土遺物 1



縮尺不同



縮尺不同



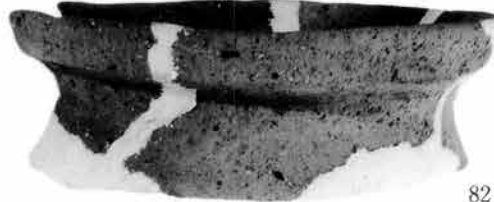
73



77



80



82



84



86



90



92



93



91



96



98



99



101



104



105



107



108



110



113



111



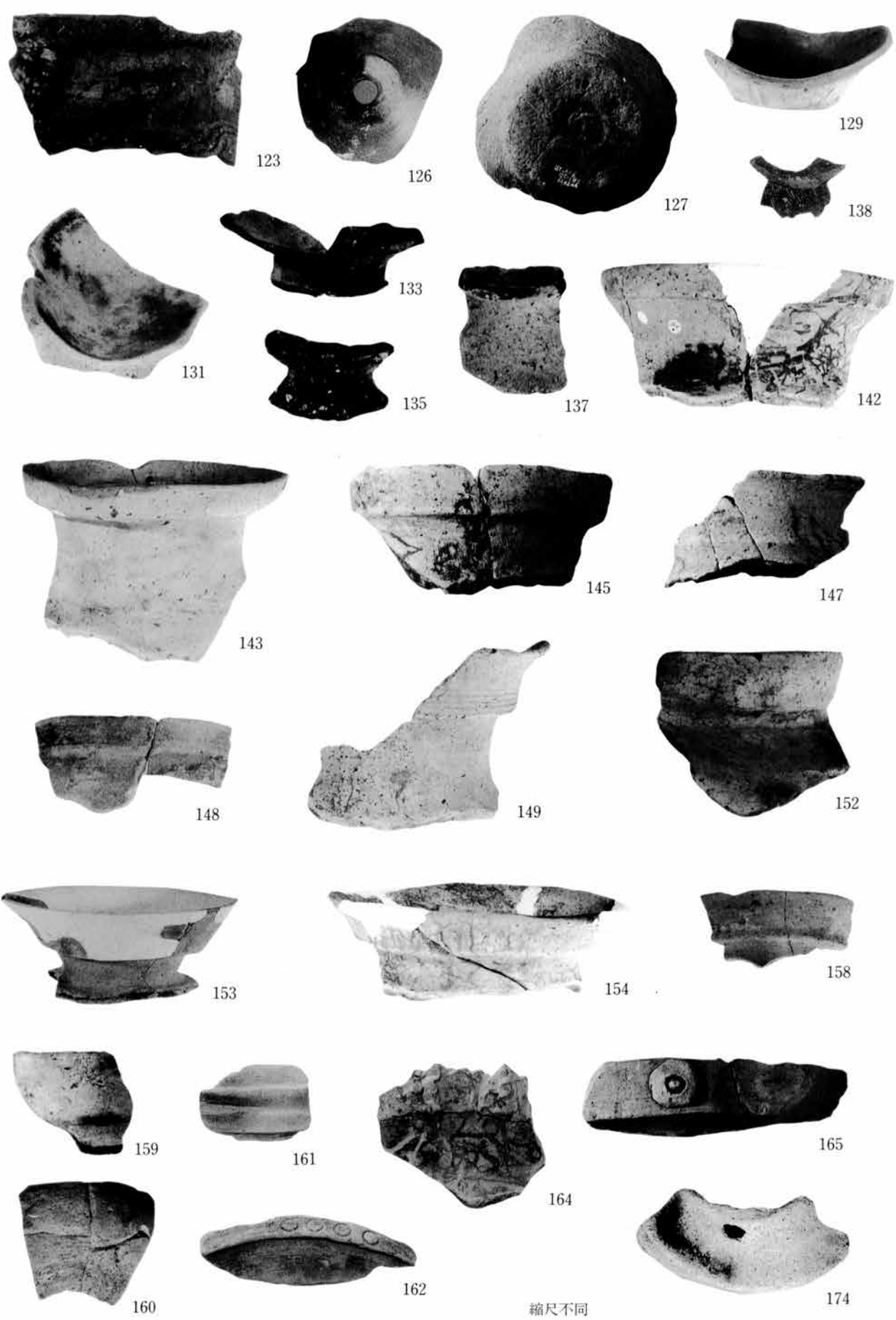
115



117



119  
縮尺不同



縮尺不同



169



171



177



178



179



180



182



183



181



184



185



187



189



188



190



193



194



195



191



192



196



197



198

縮尺不同



204



207



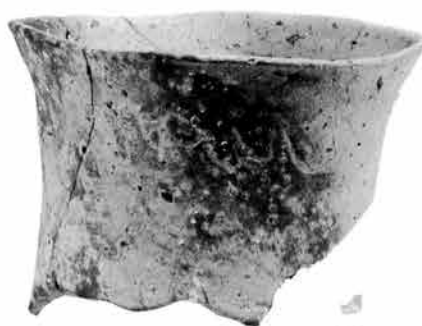
212



213



215



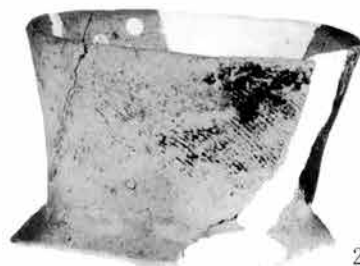
216



214



217



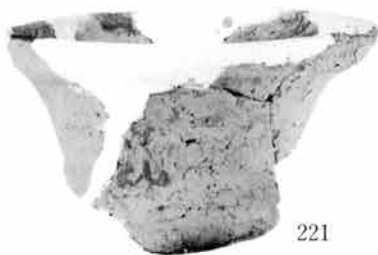
218



219



220



221



222



223



229

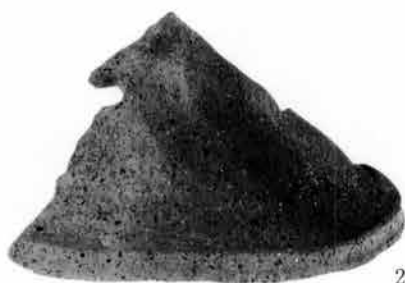


230

縮尺不同



231



232



233



234



235



236



238



239



241



244



245



247



251



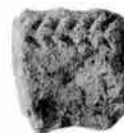
253



248



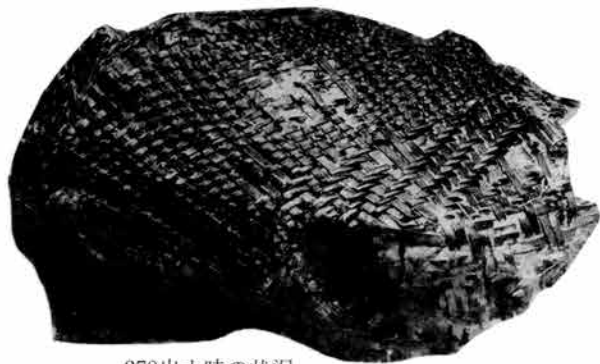
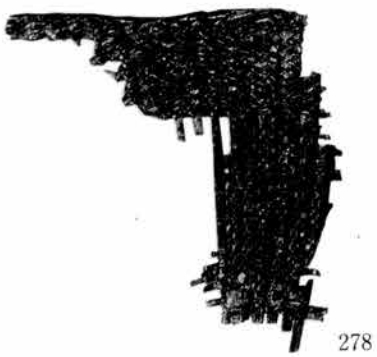
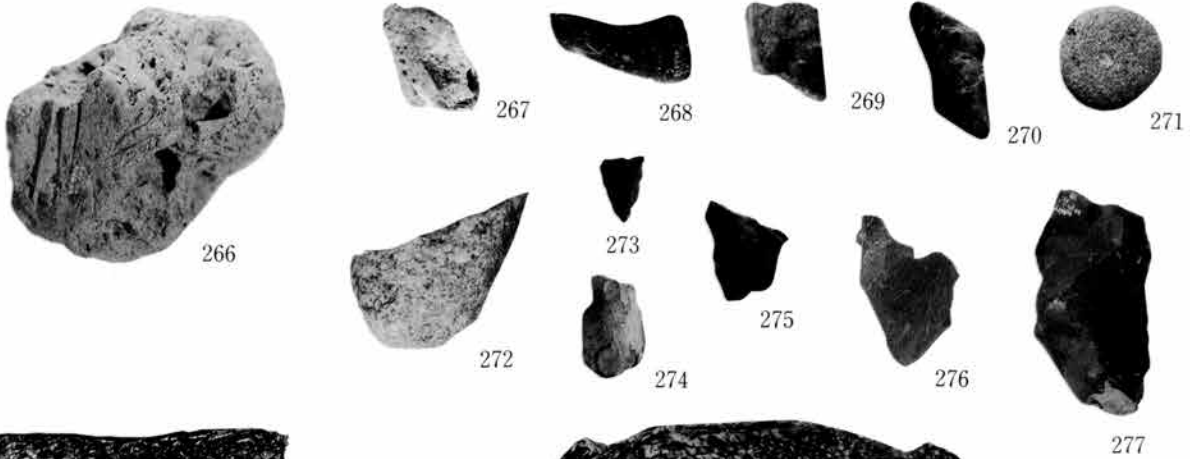
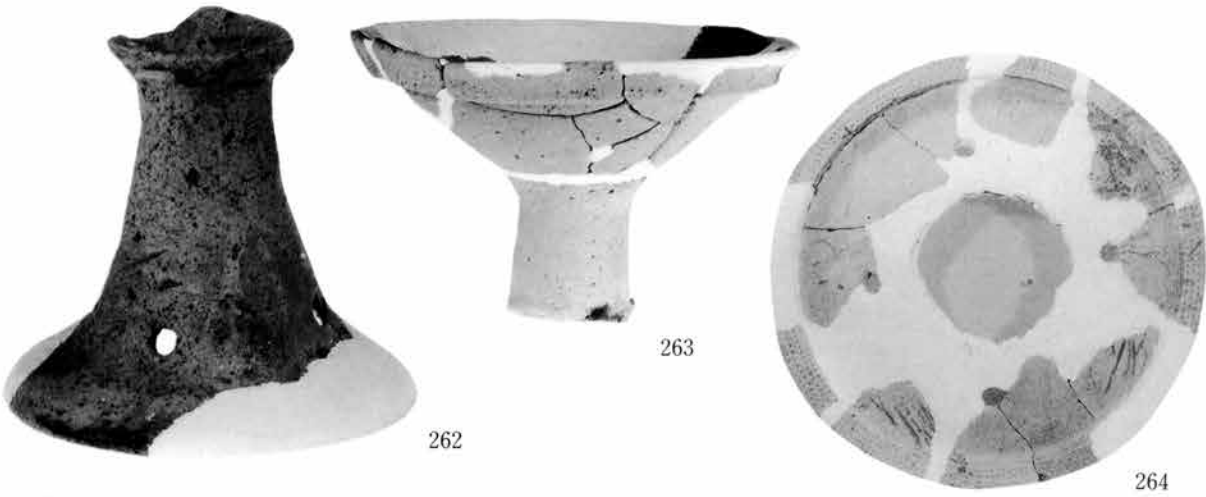
252



254

縮尺不同





縮尺不同



279

280



281



282



283



284



285



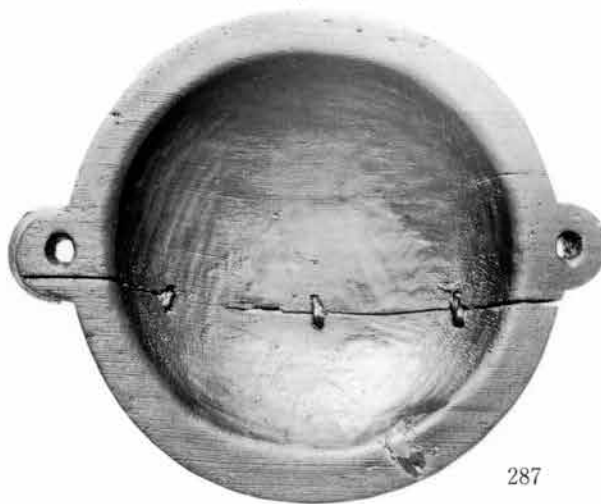
286



289



288



287

縮尺不同



290



291



292



293



294



296



297



299

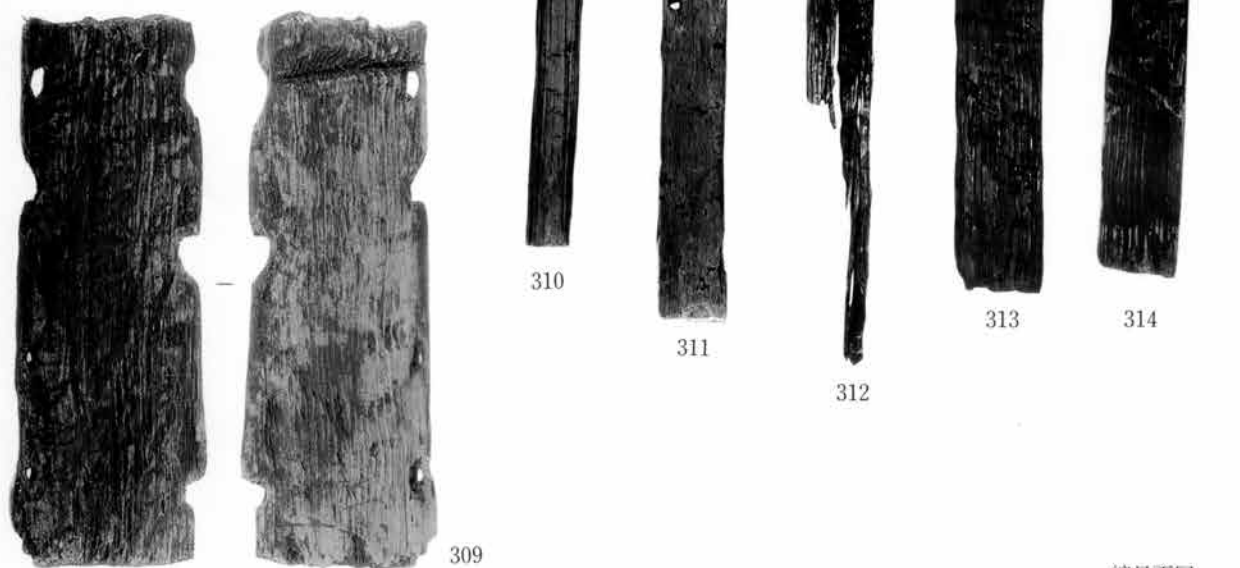
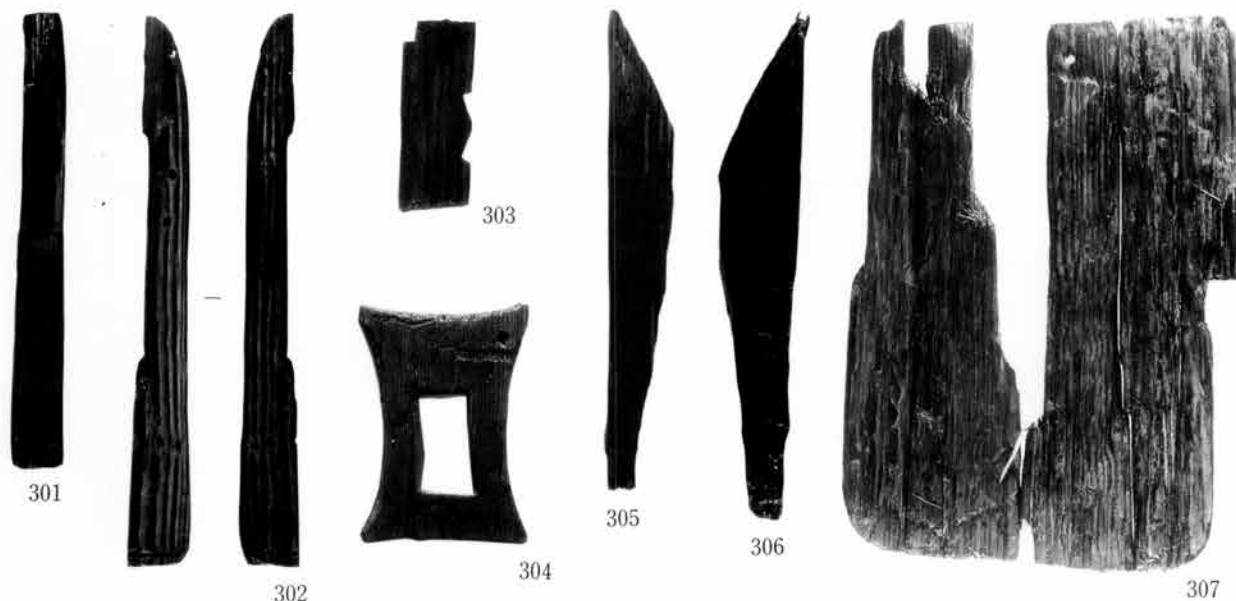


295



300

縮尺不同



縮尺不同



315



316



317



318



319



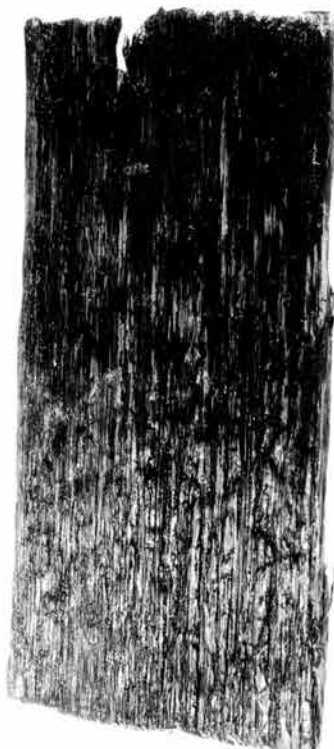
321



322



324



325

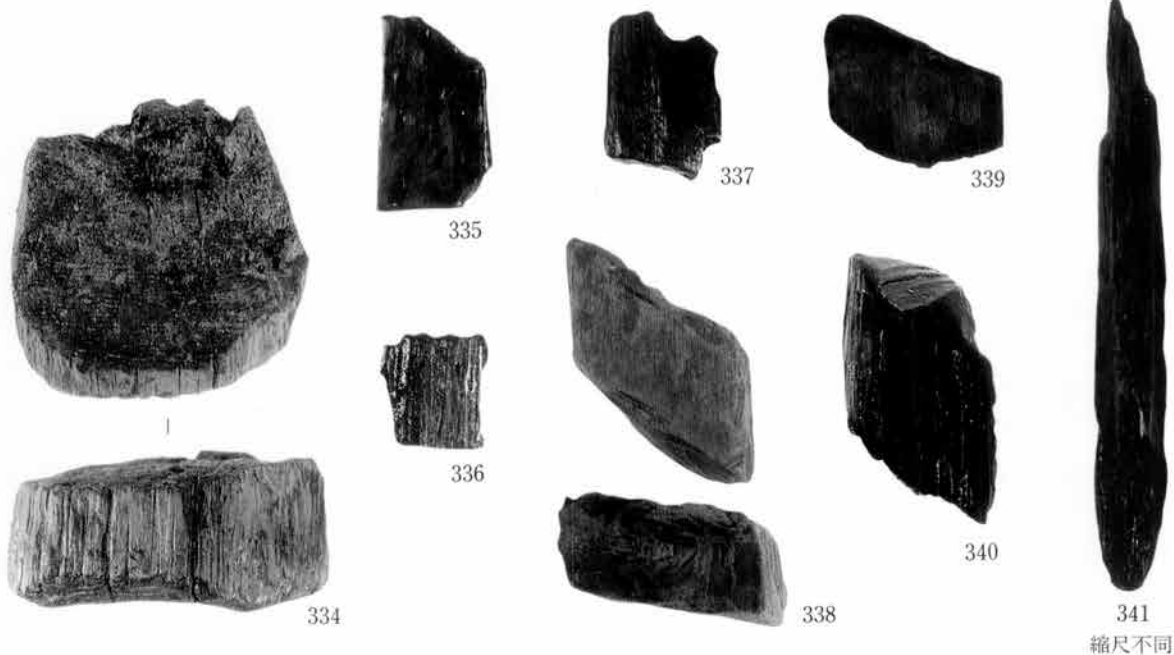
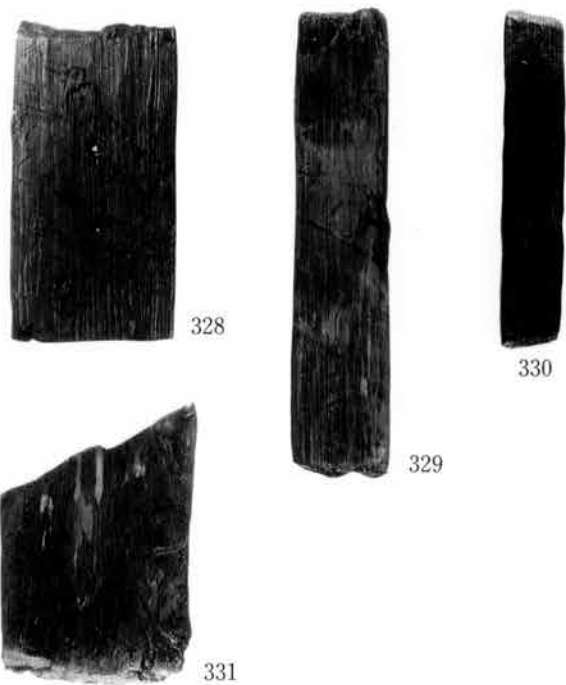
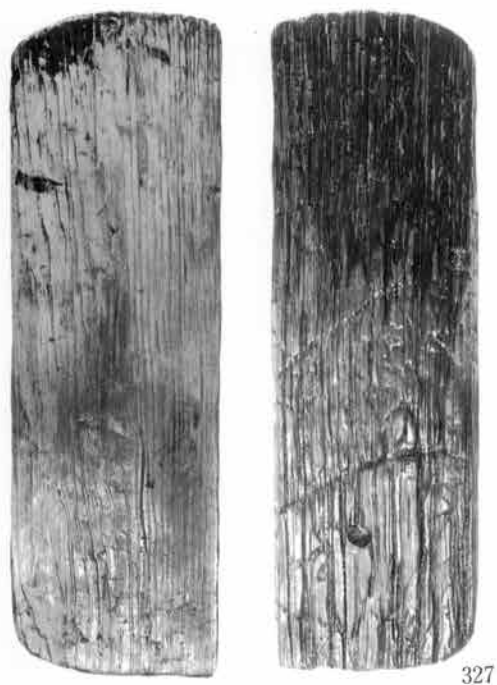


323



326

縮尺不同

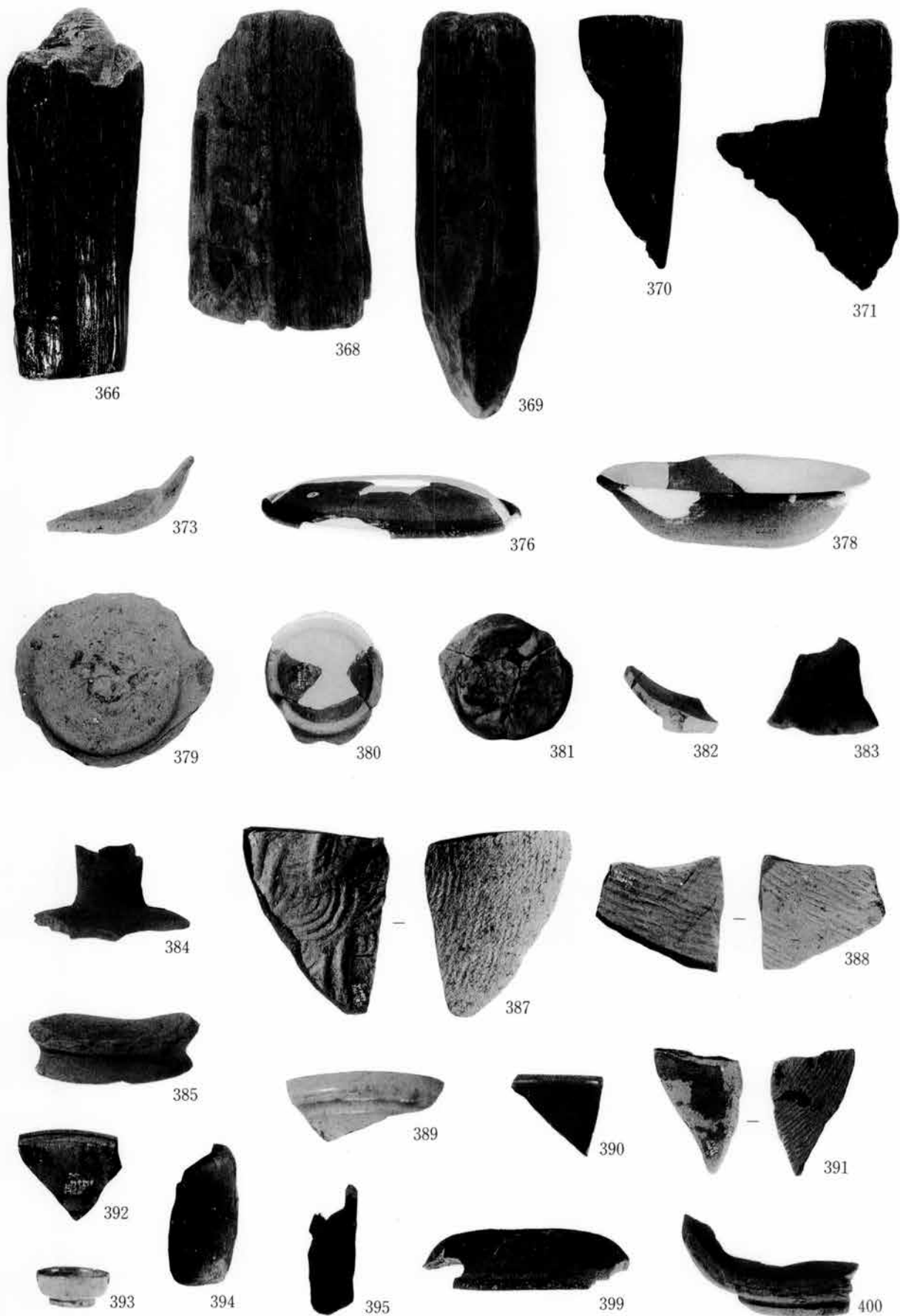


縮尺不同

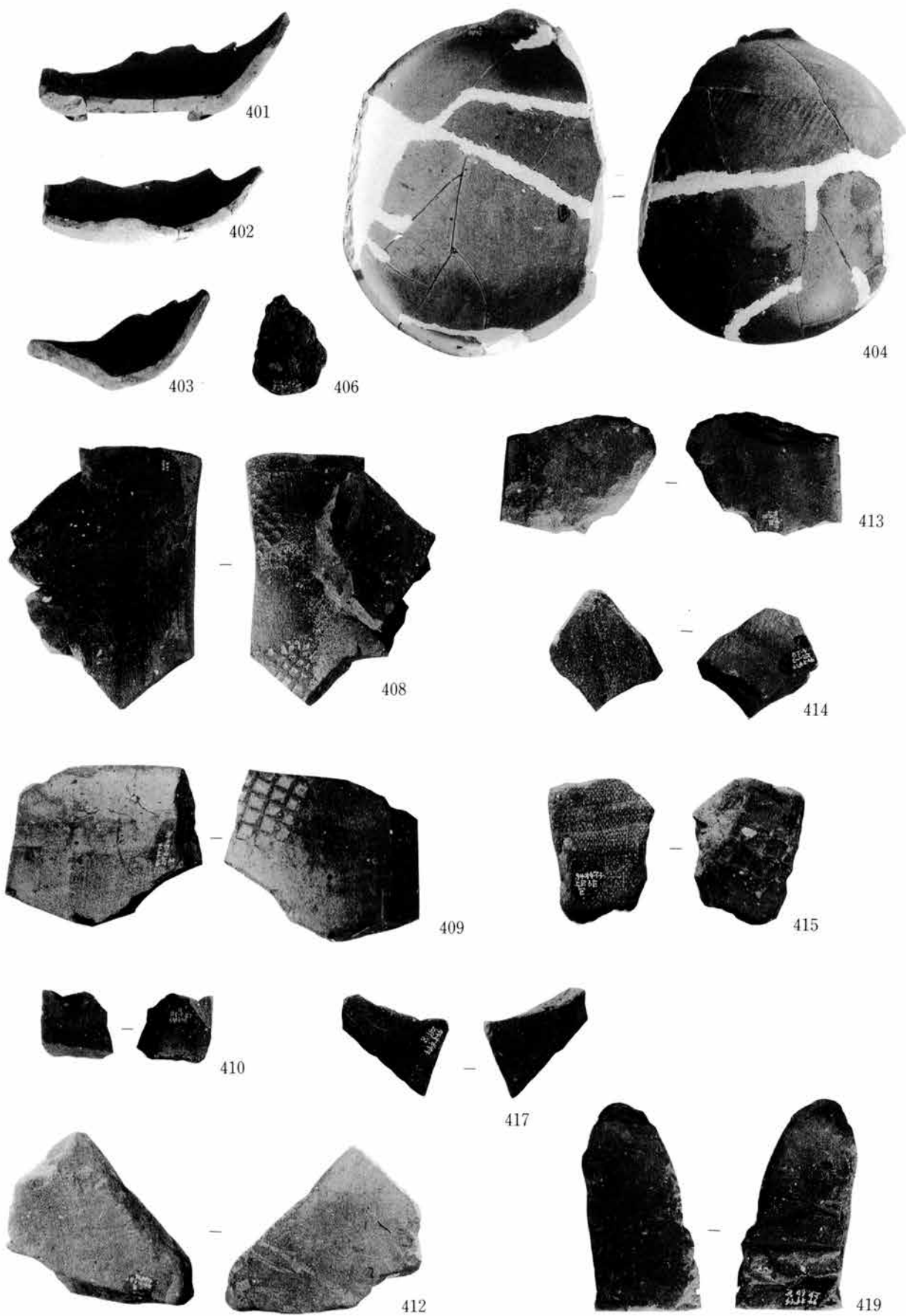


先端部

縮尺不同







縮尺不同

## 報告書抄録

ふりがな	おぎちいせき							
書名	荻市遺跡							
副書名	一般国道159号線荻市歩道設置工事に係る発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
編著者名	川畑 誠、沢辺利明、湯尻修平、汐見 真、岡田文夫							
編集機関	社団法人石川県埋蔵文化財保存協会							
所在地	〒923 石川県小松市島田町イ85-1 TEL0761-21-5150							
発行年月日	1998年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
荻市	石川県羽咋郡 志雄町荻市	17383		36度 51分 30秒	136度 47分 35秒	1994,08,18 ) 1994,10,01	400	歩道設置に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
荻市	集落跡	縄文・弥生 古墳・飛鳥 奈良・平安 中世	大溝 1 井戸 1 土坑 1		縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦・木製品		弥生時代～古墳時代の 大溝から多量の木製品 が出土	

石川県羽咋郡志雄町

## 荻市遺跡

一般国道159号荻市歩道設置に  
係る発掘調査報告書

発行日 1998年3月30日

編集・発行 社団法人石川県埋蔵文化財保存協会

〒923 石川県小松市島田町イ85-1

電話 (0761)21-5150

印刷 (株)橋本確文堂